

鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報

14

平成10年度

鹿児島大学埋蔵文化財調査室

2000年3月

例 言

1. 本年報は鹿児島大学構内において、鹿児島大学埋蔵文化財調査室が平成10年度に行った調査活動の成果をまとめたものである。なお、桜ヶ丘団地 I・J-10区（受水槽設置地点）における発掘調査報告を付編として掲載した。
2. 本書に掲載している発掘調査及び立会調査は、鹿児島大学埋蔵文化財調査室が担当した。個々の調査の担当者は各章の調査報告に記述した。調査における図面・写真の担当は以下のとおりである。
2：中村直子・鮎川章子・新原和子・王力明，付編：大西智和・峰山いづみ・古澤生・陣内高志
3. 本書の作成にあたっては、埋蔵文化財調査室が行った。遺物の実測の担当は以下の通りである。
2：寒川朋枝，付編：新里貴之・雨宮瑞生・中村
製図は新里・寒川・中村が担当した。写真撮影は新里・中村が行った。
執筆は1：大西，2：中村，3：寒川，付編：大西・新里が行った。編集は中村・大西が行った。
4. 桜ヶ丘団地I・J-10区の出土遺物に関しては、陶磁器について渡辺芳郎氏（鹿児島大学），土器について新東晃一氏（鹿児島県立埋蔵文化財センター），石器について雨宮瑞生氏・横手浩二郎氏（鹿児島県立埋蔵文化財センター）のご教授を賜った。また，南九州縄文研究会の方々に土器についての様々な所見をいただいた。
5. 発掘調査による遺物の保管は，埋蔵文化財調査室の管理の下，各学部，部局が収蔵している。また，図面・写真などの資料は埋蔵文化財調査室に保管している。

凡 例

- 1 昭和60年6月1日の埋蔵文化財調査室の設置を機として、鹿児島大学構内におけるこれからの埋蔵文化財調査に便であるように鹿児島大学構内座標を郡元団地と桜ヶ丘団地（旧宇宿団地）とに設定した。その設置基準は以下のようである。
 - (1) 郡元団地では、国土座標第2座標系（ $X = -158.200$, $Y = -42.400$ ）を基点として一辺50mの方形地区割りを行った（Fig.3参照）。
 - (2) 桜ヶ丘団地では、国土座標第2座標系（ $X = -161.600$, $Y = -44.400$ ）を基点として一辺50mの方形地区割りを行った（Fig.4参照）。
- 2 本年報において報告を行った調査地点については、一部の立会調査地点を除き、Fig.2～Fig.4にその位置を記している。
- 3 本年報におけるレベル高はすべて海拔を表し、方位は真北方向を示す。
- 4 本書で使用した遺構の表示記号は以下の通りである。
SK：土壙状遺構 SD：溝状遺構 P：ピット KD：層位横転
- 5 2・付編で使用した土層の色調は『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務局監修）を使用した。
- 6 遺物については観察表を作成した。その表記、表現については以下の通りである。
色調：『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務局監修）を使用し、この色調に当てはまらないものについては、「～に類似」と表記した。
胎土：粒子の大きさで礫（～3mm）・粗砂粒・砂粒・細砂粒・微細な砂粒に分けた。また、砂粒の種類については、特定できないものはその色調で表記した。胎土中の砂粒の多さについては、便宜的に1～9の9段階に分けた。9：20%以上，8：15～20%，7：15%前後，6：10～15%，5：10%前後，4：5～10%未満，3：5%前後，2：1～5%未満，1：1%以下とした。
法量：復原による法量は、（ ）をつけた。
- 7 本文中の遺物番号は、挿図、図版、遺物観察表と一致させた。

本文目次

1	平成10年度調査の概要	1
1.1	鹿児島大学構内遺跡の立地と環境	1
1.2	調査概要	1
2	郡元団地J・K-4区（総合研究棟建設予定地）試掘調査報告	5
2.1	調査にいたる経過	5
2.2	調査の体制	5
2.3	調査の経過	5
2.4	層位	5
2.5	遺構と遺物	6
2.6	調査の結果	7
3	立会調査	11
	鹿児島大学埋蔵文化財調査室要項	12
	受贈図書一覧	14
付編	桜ヶ丘団地I・J-10区（受水槽設置地点）における発掘調査	21
1	調査に至る経過	21
2	調査体制	21
3	調査の経過	21
4	層位	21
5	遺構	22
6	出土遺物	25
7	まとめ	42

挿図目次

Fig. 1	鹿児島市の位置	1
Fig. 2	鹿児島大学構内遺跡の位置	2
Fig. 3	郡元団地構内図	3
Fig. 4	桜ヶ丘団地構内図	4
Fig. 5	トレンチ位置図	5
Fig. 6	層位断面図	6
Fig. 7	SD1平面図	6
Fig. 8	出土遺物	8
Fig. 9	98-A調査地点	11
Fig. 10	98-B調査地点	11
Fig. 11	調査区の位置 S=1/1000	21
Fig. 12	層位断面図（東壁） S=1/50	22
Fig. 13	遺構（A:2層上面・B:3層上面・C:4層上面） S=1/250	23
Fig. 14	地層横転（KD1断面） S=1/30	24
Fig. 15	住居跡（SK44） S=1/50	25
Fig. 16	遺物接合関係 S=1/120	26
Fig. 17	土器（1） S=1/3	27
Fig. 18	土器（2） S=1/3	29
Fig. 19	土器（3） S=1/3	30
Fig. 20	土器（4） S=1/3	31

Fig. 21	土器 (5) S=1/3	32
Fig. 22	土器 (6) S=1/3	33
Fig. 23	土器 (7) S=1/3	34
Fig. 24	土器 (8) S=1/3	35
Fig. 25	土器・陶磁器 S=1/3	39
Fig. 26	石器 S=1/3	40

表 目 次

Tab. 1	平成10年度埋蔵文化財調査室事業一覧	1
Tab. 2	層別出土遺物数	7
Tab. 3	出土遺物観察表(1)	9
Tab. 4	出土遺物観察表(2)	10
Tab. 5	石器計測表	10
Tab. 6	土壌状遺構の深さ	24
Tab. 7	土器観察表(1)	36
Tab. 8	土器観察表(2)	37
Tab. 9	土器観察表(3)	38
Tab. 10	石器観察表	40

図 版 目 次

PL 1	桜ヶ丘団地I・J-10区 (受水槽設置地点) における発掘調査	45
PL 2	郡元団地J・K-4区 (総合研究棟建設予定地) における試掘調査	46
PL 3	郡元団地J・K-4区 (総合研究棟建設予定地) における試掘調査	47
PL 4	郡元団地J・K-4区 (総合研究棟建設予定地) における試掘調査	48
PL 5	桜ヶ丘団地I・J-10区 (受水槽設置地点) における発掘調査	49
PL 6	桜ヶ丘団地I・J-10区 (受水槽設置地点) における発掘調査	50
PL 7	桜ヶ丘団地I・J-10区 (受水槽設置地点) における発掘調査	51
PL 8	桜ヶ丘団地I・J-10区 (受水槽設置地点) における発掘調査	52
PL 9	桜ヶ丘団地I・J-10区 (受水槽設置地点) における発掘調査	53
PL10	桜ヶ丘団地I・J-10区 (受水槽設置地点) における発掘調査	54
PL11	桜ヶ丘団地I・J-10区 (受水槽設置地点) における発掘調査	55
PL12	桜ヶ丘団地I・J-10区 (受水槽設置地点) における発掘調査	56
PL13	桜ヶ丘団地I・J-10区 (受水槽設置地点) における発掘調査	57
PL14	桜ヶ丘団地I・J-10区 (受水槽設置地点) における発掘調査	58
PL15	桜ヶ丘団地I・J-10区 (受水槽設置地点) における発掘調査	59
PL16	桜ヶ丘団地I・J-10区 (受水槽設置地点) における発掘調査	60

1 平成10年度調査の概要

1.1 鹿児島大学構内遺跡の立地と環境

鹿児島大学構内遺跡が所在する鹿児島市は、薩摩半島の北東部に位置する。東側には鹿児島湾（錦江湾）が広がり、他の三方は始良カルデラに由来するシラス台地に囲まれている。

本書に掲載する調査地点は、鹿児島大学構内の郡元団地と桜ヶ丘団地で、それぞれを、鹿児島大学構内遺跡郡元団地、同桜ヶ丘団地と呼んでいる。郡元団地は沖積平野の南端部付近に位置し、標高約7mを測る。従来から周知の遺跡として知られており、校舎などの建設に伴う事前の発掘調査も多く行われている。昭和59年までは字名などが遺跡の名称として用いられており、県立医大遺跡、付属中学校敷地内遺跡、釘田遺跡、水町遺跡も郡元団地内の遺跡である¹⁾。付近には弥生時代の住居跡が検出された一ノ宮遺跡が見られる。

郡元団地では古墳時代の住居跡群が多く発見されている。現在三つの住居群が把握できている。一つは郡元キャンパスのほぼ中央部、もう一つは南西部で、いずれも微高地上に形成されている。中央に位置する住居群のすぐ北側には河川跡が確認されている。河川跡からは弥生時代から古墳時代にかけての木製品や木杭が出土している。平成9年度の工学部における調査では、弥生時代の水田跡が検出されている。古墳時代の水田跡は現在のところ、構内ではまだ発見されていないが、古墳時代の包含層中には多量のイネ・プラント・オパールが含まれており²⁾、稲作が継続的に行われていたことがわかる。

桜ヶ丘団地は郡元団地から南に約2.5kmの亀ヶ原台地上に位置し、標高約70mを測る。昭和60年に埋蔵文化財調査室が設置されてからは、「鹿児島大学構内遺跡宇宿団地」と呼称したが、キャンパス名の変更に伴い、桜ヶ丘団地と呼んでいる。付近の台地

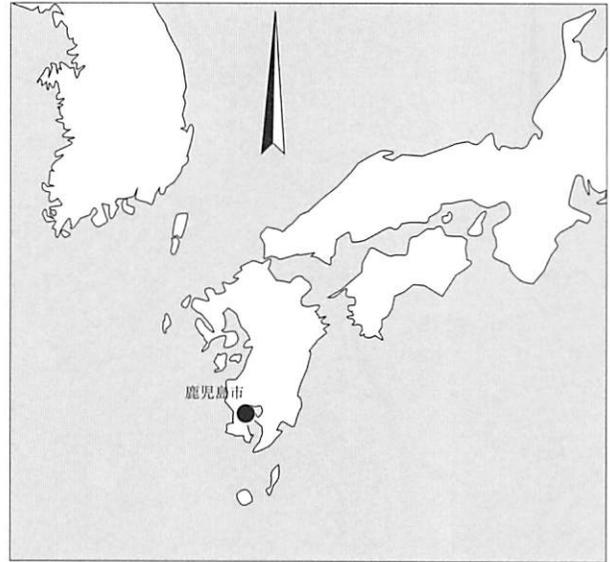


Fig. 1 鹿児島市の位置

上には、旧石器時代から縄文時代早期にかけての遺跡が点在しており、桜ヶ丘団地でも同様の時期の遺物が出土している。また、縄文時代早期や、弥生時代中期前半の住居跡も確認されている。

1.2 調査概要 (Tab. 1)

平成10年度は試掘調査1件、立会調査3件を行っている。

註

- (1) 松永幸男 (1986). 第II章 鹿児島大学構内遺跡の位置と環境. 鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報, 1. 鹿児島大学埋蔵文化財調査室.
- (2) 郡元団地L-6区 (中央図書館: 未報告) におけるプラント・オパール定量分析の分析結果などによる。

Tab. 1 平成10年度調査一覧表

種類	調査コード	地区	調査・工事	調査期間
試掘調査	98-1	郡元団地J・K-4区	総合研究棟建設予定地における試掘調査	平成11年3月10日～30日
立会調査	98-A	郡元団地C～E-4～7区	遺伝子実験施設新営その他工事	平成10年10月5日
	98-B	郡元団地H-10区	工学部校舎新営その他機械設備工事	平成11年2月15日
	98-C	郡元団地L-4区	法文学部東屋取設工事	平成11年3月9日

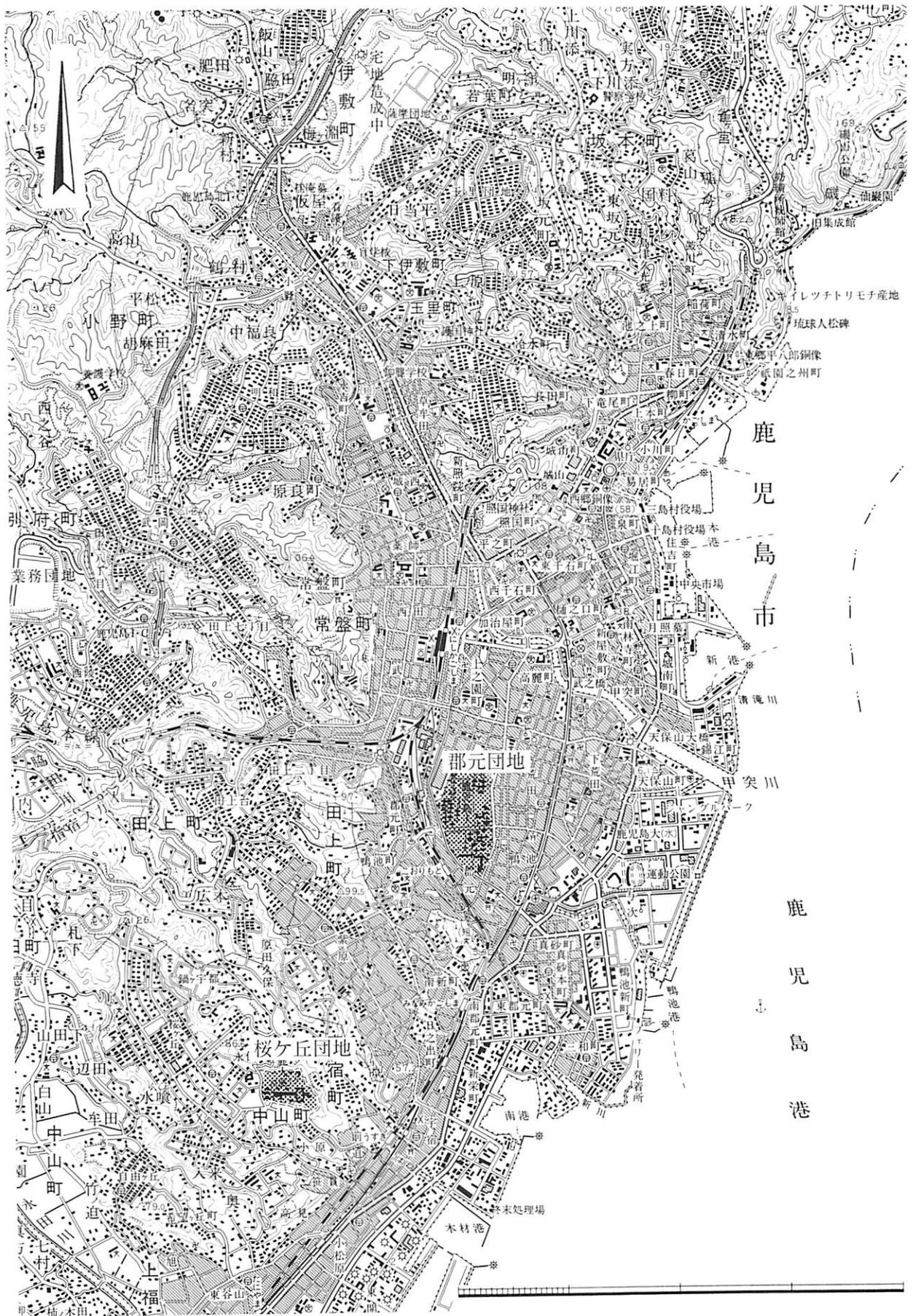


Fig. 2 鹿兒島大学構内遺跡の位置

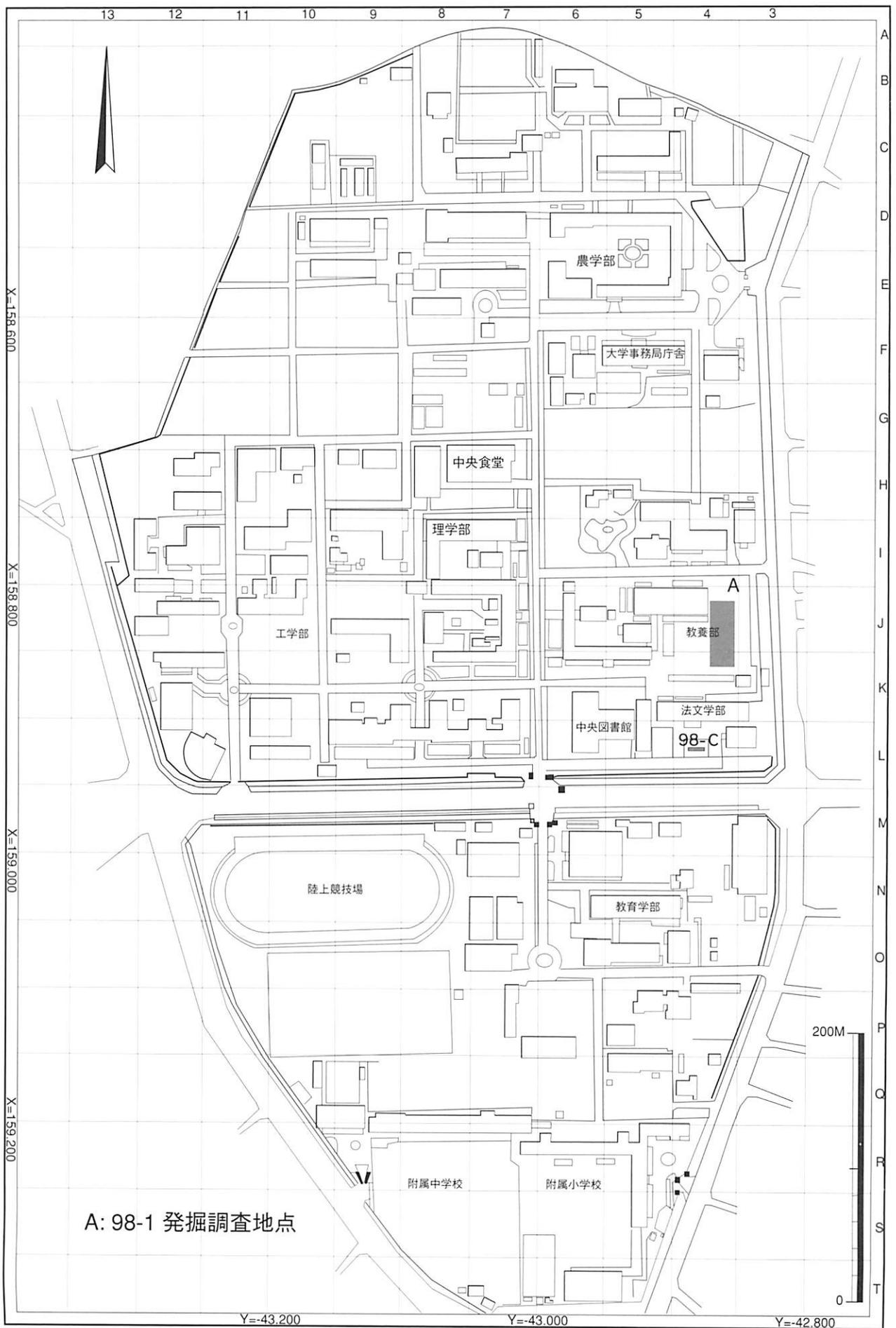


Fig. 3 郡元団地構内図 S=1/4000

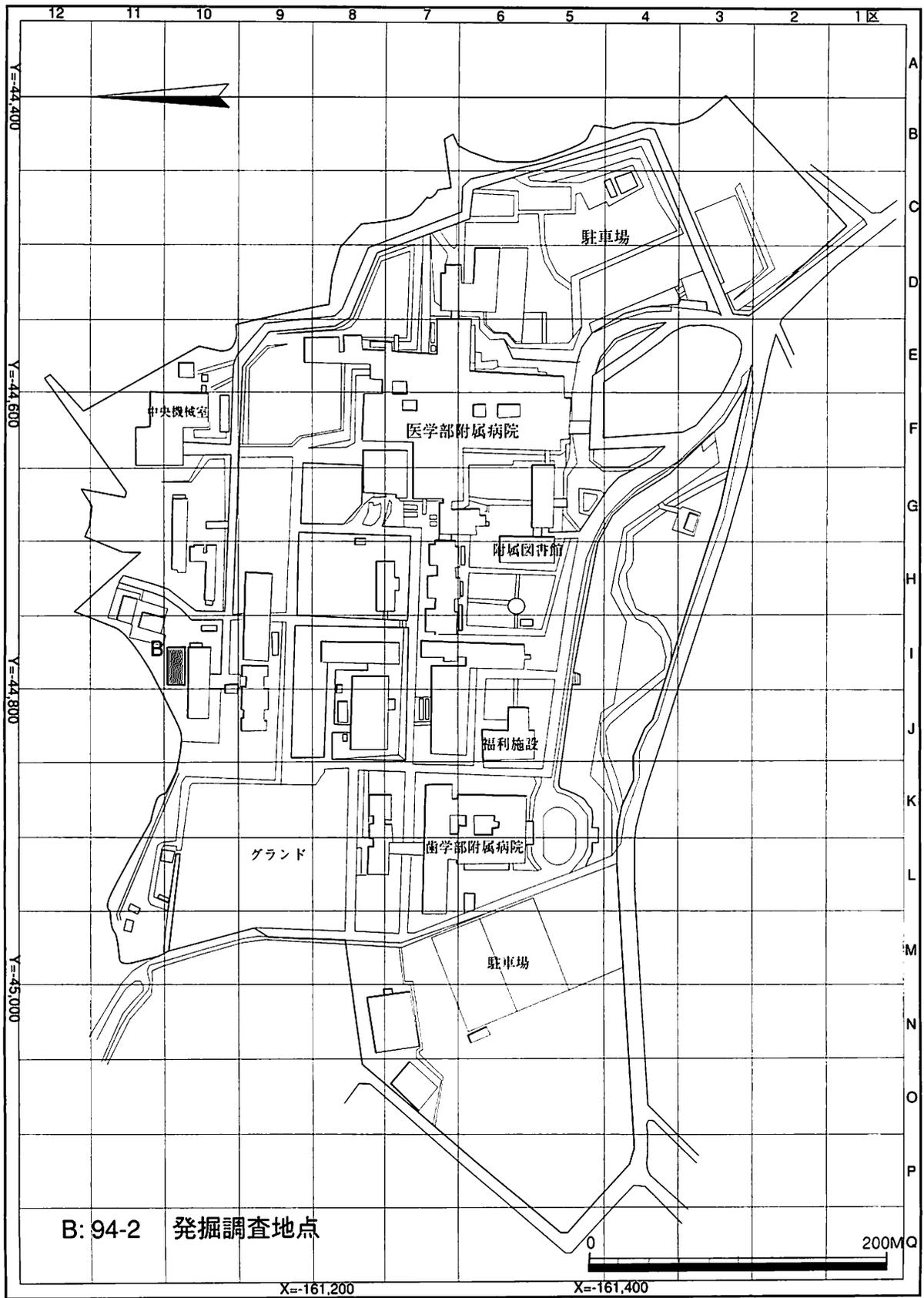


Fig. 4 桜ヶ丘団地構内図 S=1/4000

2 郡元団地J・K-4区（総合研究棟建設予定地）試掘調査報告

2.1 調査にいたる経過

鹿児島大学では、郡元団地内に総合研究棟の建設が計画され、郡元団地の中央部、法文学部南側の駐車場がその予定地とされた。本地点は昭和50年に旧教養部講義棟の増築工事中に多量の土器が発見され、鹿児島県教育委員会によって発掘調査が行われた釘田第1地点¹⁾に隣接している。また、周辺では平成5～7年の中央図書館建設に伴う発掘調査および平成8年の法文学部防火水槽取設工事にもなう発掘調査によって一帯に古墳時代の住居群が密集していることが確認されている。これらのことから、本地点においても埋蔵文化財が包蔵されていることが推定された。そこで、埋蔵文化財調査室では遺構および遺物包含層の有無を確認するため、試掘調査を行うことになった。

2.2 調査の体制

発掘調査は以下の体制で行った。

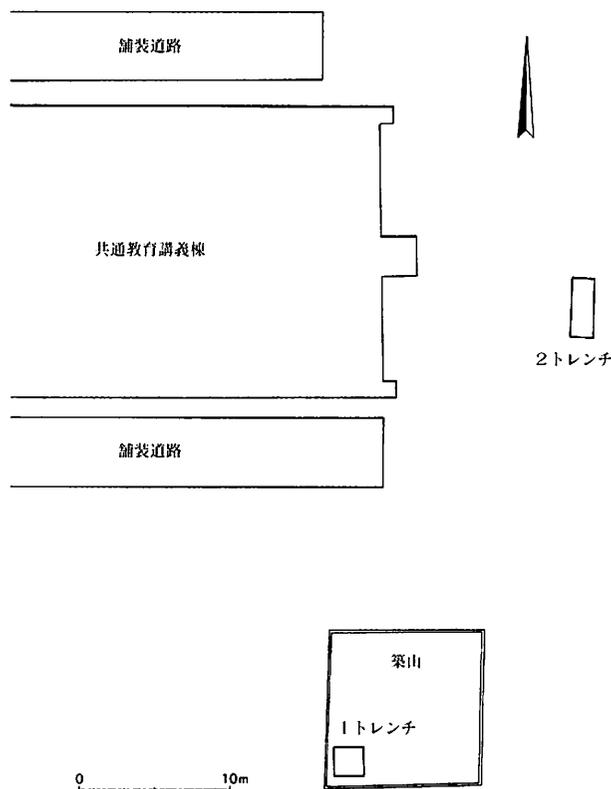


Fig. 5 トレンチ位置図 S=1/500

調査主体者 鹿児島大学埋蔵文化財調査室
室長 上村俊雄
調査担当 鹿児島大学埋蔵文化財調査室
室長 上村俊雄
室員 中村直子・鮎川章子・新原和子
発掘調査作業員 王力明・瀬戸口諭・西庄司・矢住純子

2.3 調査の経過

試掘調査は、平成11年3月10日～3月30日にかけて実施した。総合研究センター建設予定地内に2つのトレンチを設定し (Fig. 5), 南側を1トレンチ, 北側を2トレンチと呼称した。1トレンチは2×2m, 2トレンチは東西1.5m×南北2mの大きさである。

1トレンチは地表下1.2mまで掘り下げたところ、古墳時代遺物包含層である7層上面に達した。7層上面には小片の土器が全面に広がっており、遺構の一部である可能性が考えられた。その破壊を防ぐため、調査区南側の半分のみを掘り下げた。しかし、その下も土器片の集積が続くようであったため、10cm掘り下げたところで、調査期間の都合上、掘削を終了し、層位断面図を作成した後埋め戻しを行って調査を終了した。

2トレンチは、設定したトレンチの南北それぞれにパイプなどの埋設物があり、2トレンチ中央部1m幅のみを地表化1.1mまで掘り下げた。古墳時代の包含層である黒褐色土は7層と8層の二つに分かれ、さらに8層が下部に続いていたが、調査期間の関係上、8層上面を検出したところで掘削を終了した。また、調査区南側に東西方向にのびるパイプが埋設されており、この周囲の既掘部分のみを下まで掘り下げたところ、地山である砂層上面が地表化1.3mのところを確認できた。この時点で、層位断面図を作成し、埋め戻しを行って調査を終了した。

2.4 層位 (Fig. 6)

1トレンチ

1層 盛土。

2層 灰褐色10YR5/1。シルト質砂。2～3cm大までの軽石を少し含む。

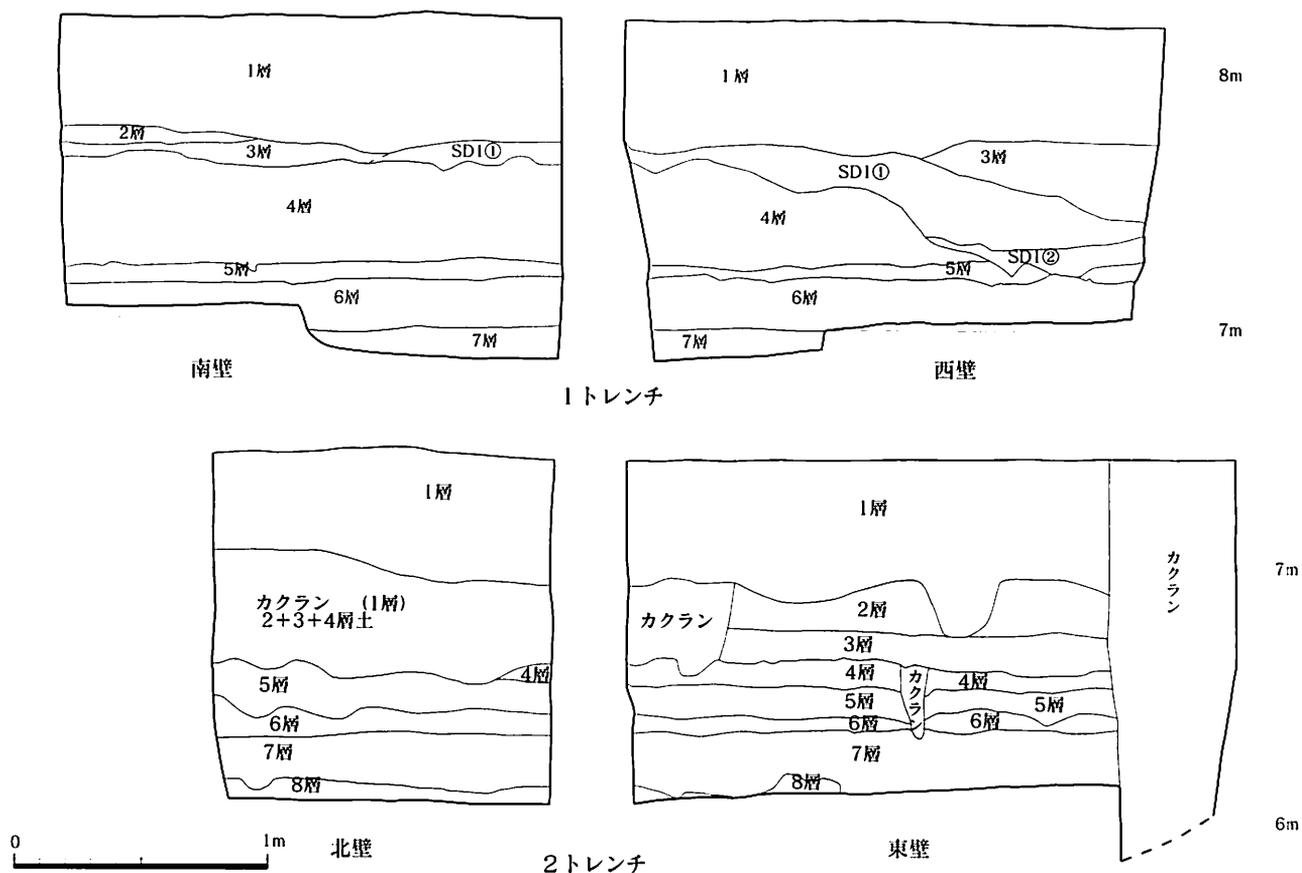


Fig. 6 層位断面図 S=1/40

3層 灰黄褐色10YR5/2。細砂層。2~3cm大までの軽石を少し含む。

4層 灰褐色10YR5/1。細砂層。2~3cm大まで軽石を少し含む。

5層 黄橙色10YR7/8。細砂層。鉄分。2~3cm大の軽石を含む。

6層 褐灰色10YR6/1。細砂層。マンガン浸透。2~3cm大の軽石を含む。

7層 黒褐色10YR3/1。シルト。上部鉄分。

① SD1埋土。におい黄橙色10YR7/2細砂層。粗砂ブロックまじり。

② SD1埋土。褐灰色10Y5/1シルト質砂。まじり10Y5/1。

2~6層までは、水田層および河川跡と考えられる。遺物の出土状況から、6層以下が古墳時代のもの、2~5層までが近世及び中世の時期のものと推定できる。特に、7層はその上面に土器片が集積し、10cm掘り下げてもその集積が続いていたため、相当量の遺物が埋設されていると推定できる。

2トレンチ

1層 盛土。上部20cmは砂利。下部 2.5Y3/2黒褐色を基調とし、レンガやコンクリートなどを含む。

2層 灰黄色2.5Y6/2シルト質砂。5mm大の白色パミスを少し含む。

3層 褐色10YR4/4シルト質砂。2層にマンガン浸透。パミスを少し含む。

4層 黄褐色10YR5/6シルト質砂。鉄分を含む。パミスを少し含む。

5層 灰黄褐色10YR5/2を基調とする。10YR5/2シルト質砂。2~3cm大のパミスを少し含む。

6層 灰黄褐色10YR4/2を基調とする。シルト質砂。マンガン浸透、2~3cm大のパミスを少し含む。

7層 黒褐色10YR2/2シルト。鉄分浸透。

8層 黒褐色10YR3/1シルト。

9層 8層上面から20cm下に9層上面。配管カクラン部壁で確認。

2~6層までは中近世の層と考えられる。また、7・8層が古墳時代の遺物包含層である。1トレンチの7層に対応すると考えられる。1トレンチほどの遺物の集積はみられないものの、やはりこの層中から古墳時代の土器が多く出土している。

2.5 遺構と遺物

SD1 (Fig. 7)

遺構は、1トレンチ3層上面でSD1を検出した

(断面は層位断面図参照)。埋土は砂層で、二つに分層できた。トレンチを東西方向に横断する。遺構が調査区外まで広がっていたため南側の落ち際のみを確認したが、一応溝状遺構と捉えておきたい。あるいは、北側には立ちあがらず、段状の地形を呈しているものかもしれない。遺物は、埋土中から土器片が1点出土しているのみである。その下層の4層からは陶磁器が出土しており、遺構の時期は中近世以降であると考えられる。

包含層出土遺物

総出土遺物数は約3500点であった。層別出土状況はTab. 2に示している。1トレンチ7層上面出土のものがもっとも多いが、小片である。Fig. 8に実測可能な38点のみ示した。

1～27は1トレンチ出土、28～38は2トレンチ出土遺物である。いずれも、層位順に示している。4・28は磁器である。5は陶器である。

15・28～30は土師器である。29は皿で非常に低い。15も皿であろう。30は杯の底部である。

1・6～9・31・32・33・34・20・21は甕の破片である。直立する口縁部20・31や絡縄突帯32などの特徴は笹貫式のものであると考えられる。7は胴部と脚部がその接合部分で欠損しているものである。21は内面に、布目圧痕のような痕が認められるが、非常に細かく細いため、確定はできない。

10～12・22・23・35は壺である。胴部突帯は刻み目を持ち、布目圧痕が認められるものもある(11)。12は底部片だが、内面にハケ工具刺突痕が×状に交差している。小片のため、調整痕なのか、何か模様や記号を意識したものなのかは不明である。22は底面が分厚い平底だが、23は少し尖り気味の丸底である。

2・13・24・25・36は高杯の破片である。いずれも赤色顔料が外面に付着している。2は脚

部の上部で、杯部との接合部付近で欠損している。13は杯部下層で、やはり接合部で欠損している。24・25・36は脚端部である。先端が細くとがるものと、端部に面をもつもの2種類がみられる。

14・26・37・38は埴の破片である。37は口縁部で、内湾する器形を呈する。他は胴部屈曲部である。いずれも、外面に赤色顔料が付着している。

16～18は須恵器である。16は少し湾曲気味に開く、壺の頸部であると推定できる。口縁部は欠損しているが、残存状況から、端部が肥厚する器形を呈すると推定できる。17は壺の頸部である。18はハソウの胴部で、穿孔部1/3を残して欠損している。また、外面には2条の沈線とそれらに挟まれた櫛描波状文が施されている。

19・27は石器である。19は破損している部分が多いが、上面と右側面に磨面が認められる。砥石であろう。27は磨製石斧の破片である。刃部がわずかに残存している。刃部には細かい擦過痕が表裏面とも認められる(図中矢印)。側面には、製作時のタタキ痕が残っている。

2.6 調査の結果

試掘調査の結果、調査区一帯には上部には中近世のものと考えられる水田層や遺物包含層が複数枚広がり、その下に古墳時代の遺物包含層が40cm以上の深さで広がっていることが確認された。特に、1トレンチでは包含層中から多くの遺物が出土している。周辺は、発掘調査や配管工

Tab. 2 層別出土遺物数

トレンチ	層・遺構	土器	陶磁器	瓦	石器
1	1	16			
	4	27	7		
	5	22			
	6	829			4
	7	1241			12
	SD1	1			
	2	1	10		
2		23	3		1
3		7			
4		1			
5		117			
6		423			
7		806			
SD2	1				

* 数値は破片数

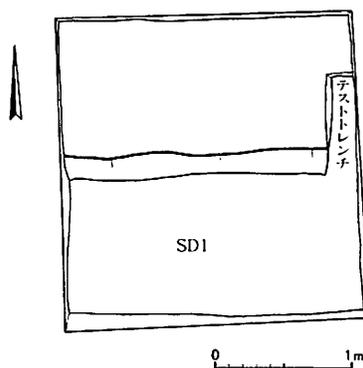


Fig. 7 SD1平面図 S=1/50

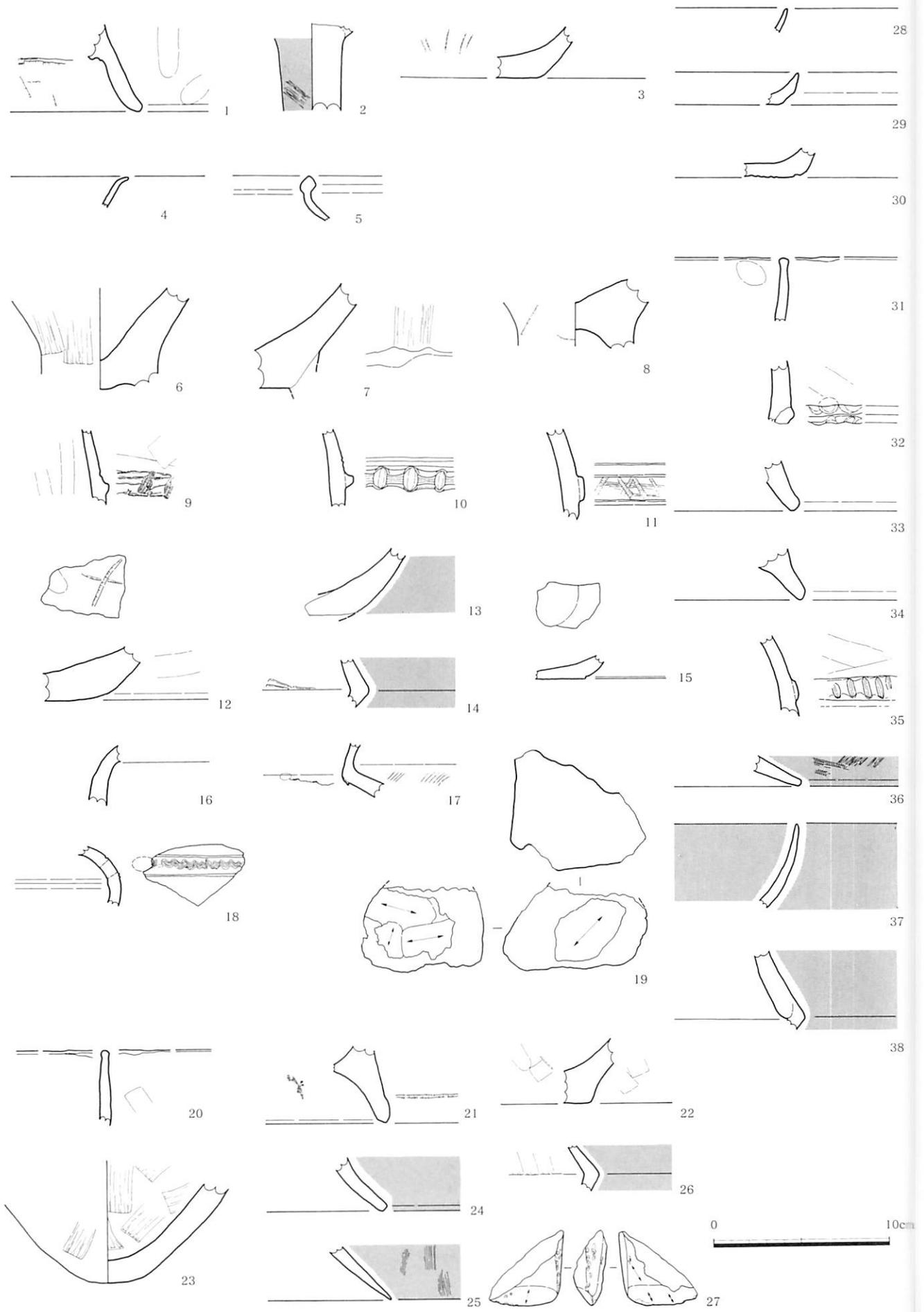


Fig. 8 出土遺物 S=1/3

Tab. 3 出土遺物観察表 (1)

ト レ ン チ	層	種別	器種	部位	色調・釉調	胎土						調整・文様	備考	
						赤色粒	白色粒	石英	黒色粒	多さ	その他			
														砂粒・細砂粒
1	1	1	土器	甕	脚部	外面:にぶい橙色5YR6/4,器肉・内面:橙色2.5YR6/6	砂粒・細砂粒	砂粒	砂粒・細砂粒	砂粒・細砂粒	3	白色粒少ない	外面:指ナデ,内面:ハケ打ち込みあり	
2	1	1	土器	高杯	脚部	外面:赤色10R5/8,器肉:にぶい・褐色7.5YR7/3	細砂粒		砂粒・細砂粒	礫・砂粒・細砂粒	3	赤色粒少ない	ミガキ?	外面:赤色顔料付着,摩滅している。
3	1	1	土器	壺	底部	外面:にぶい橙色5YR6/3.6/4,器肉;褐灰色7.5YR4/1,内面:褐色5YR6/6	礫・砂粒・細砂粒		砂粒・細砂粒	礫・砂粒・細砂粒	4	石英丸いものあり	外面:ナデ,内面:ハケのちナデ,	
4	1	4	磁器		口縁部	透明釉						白色	施釉。	
5	1	4	陶器		口縁部	暗緑灰色,不透明釉。		細砂粒			1	灰赤色10R5/2	施釉。	
6	1	6	土器	甕	脚台	外面:灰白色10YR8/2,鈍い黄褐色10YR7/2,内面:灰黄褐色10YR5/2.4/2,黄肉;褐色5YR6/6	細砂粒	礫	礫～細砂粒	砂粒・細砂粒	5	赤色粒少ない,丸い石英	外面:ハケのちナデ,内面:ナデ,	
7	1	6	土器	甕	脚台	外面・内面:浅黄褐色10YR8/3.8/4,器肉;褐灰色10YR6/1		粗砂粒～細砂粒	砂粒	砂粒・細砂粒	3	黒曜石か?	外面:ハケのちナデ,内面:ナデ,	脚部との接合痕明瞭。
8	1	6	土器	甕	脚台	外面:浅黄褐色7.5YR8/6,器肉・内面:浅黄褐色7.5YR8/4	礫・粗砂粒～砂粒,多い。	粗砂粒・砂粒	砂粒・細砂粒	細砂粒	5		ハケ後ナデ,	摩滅している。
9	1	6	土器	壺	胴部	外面:にぶい黄褐色10YR7/2,器肉;黒色10YR2/1,内面:にぶい褐色7.5YR6/4		砂粒	砂粒・細砂粒	砂粒・細砂粒	3		外面突帯付近:粗いコナデ,内面:ハケ?のちナデ,	突帯あり,刻み目布目圧痕。
10	1	6	土器	壺	胴部	外面:にぶい褐色7.5YR6/3.5/3,器肉;褐灰色7.5YR5/1,内面:褐色7.5YR6/6		砂粒・細砂粒	砂粒・細砂粒	砂粒・細砂粒	3		外面突帯付近:強いコナデ,他:ナデ,	突帯あり。
11	1	6	土器	壺	胴部	外面:にぶい褐色5YR6/4,内面:明褐色7.5YR5/6?	砂粒・細砂粒	砂粒・細砂粒	粗砂粒～細砂粒	砂粒・細砂粒	5	礫を少し含む。	外面突帯付近:ヨコナデ,他:ナデ,	突帯あり,刻み目布目圧痕。
12	1	6	土器	壺	底部	外面:褐色7.5YR6/6,器肉;5YR5/2,内面:褐色5YR6/6	砂粒・細砂粒	砂粒・細砂粒	砂粒・細砂粒		2	細砂粒多い。	内面:ハケ具圧痕あり,他:ナデ,	
13	1	6	土器	高杯	杯部	外面:にぶい褐色5YR6/4,内面:明褐色7.5YR7/2,灰褐色7.5YR6/2,器肉;褐灰色7.5YR5/1,浅黄褐色7.5YR8/4	細砂粒	砂粒・細砂粒	砂粒・細砂粒	細砂粒	2		外面:摩滅のため不明,内面:ナデ,	外面:赤色顔料付着,摩滅著しい。
14	1	6	土器	埴	胴部	外面:明赤褐色2.5YR5/6,器肉;黒色5YR2/1,内面:器肉:にぶい褐色7.5YR7/4.6/4		礫・細砂粒	砂粒・細砂粒	細砂粒	1		外面:ミガキ?内面:ハケのちナデ,	外面:赤色顔料付着。
15	1	6	土師器	皿?	底部	外面:褐色5YR6/6,器肉・内面:褐色2.5YR6/6	粗砂粒～細砂粒	砂粒・細砂粒	砂粒・細砂粒	細砂粒	1	半透明の赤色粒少し含む。	回転ナデ?	摩滅している。
16	1	6	須恵器		頸部	外面・内面:灰色N6,器肉;灰白色N7	細砂粒	砂粒・細砂粒			2	半透明の白色粒	回転ナデ,	
17	1	6	須恵器	壺	肩部	外面・器肉・内面:灰色N6		砂粒	細砂粒	砂粒・細砂粒	1	石英?	回転ナデ,外面肩部:タタキ,	
18	1	6	須恵器	ハンウ	胴部	外面:灰色N5,器肉;赤灰色5R5/1,内面:灰色N5	細砂粒	粗砂粒	砂粒		1	石英?	回転ナデ,	穿孔あり,外面:波状文あり。
20	1	7	土器	甕	口縁部	外面:黒褐色5YR2/1,器肉・内面:鈍い器褐色10YR6/3	細砂粒	細砂粒	砂粒・細砂粒	砂粒・細砂粒	3	赤色粒・白色粒少ない。	ナデ, 端部:エビオサエ明瞭,	外面:煤付着。
21	1	7	土器	甕	脚部	外面・内面:にぶい褐色7.5YR7/3.7/4,器肉;褐色2.5YR6/6	砂粒(少)	粗砂粒～細砂粒	粗砂粒・砂粒	砂粒・細砂粒	5		外面:ハケ後ナデ,ハケ具打ち込み痕明瞭,内面:ナデ,脚台内面上部に布目圧痕あり,	ハケのちナデ,
22	1	7	土器	壺	底部	外面:灰白色7.5YR8/2,浅黄褐色7.5YR8/4,器肉;褐灰色7.5YR5/1,内面:浅黄褐色7.5YR8/4	砂粒	砂粒・細砂粒	砂粒	砂粒・細砂粒	5		ハケのちナデ,	
23	1	7	土器	壺	底部	外面:浅黄褐色10YR8/3,内面:にぶい黄褐色10YR7/2,器肉;褐灰色10YR5/1	細砂粒(少)	細砂粒	細砂粒	細砂粒	2		ハケのちナデ,	
24	1	7	土器	高杯	脚部	外面:赤色10R4/8,器肉:にぶい・褐色7.5YR7/4,内面:鈍い褐色7.5YR5/4		砂粒・細砂粒	砂粒・砂粒	砂粒・細砂粒	3		ナデ,	外面:赤色顔料付着。
25	1	7	土器	高杯	脚部	外面:赤褐色5YR4/6,器肉;褐灰色7.5YR6/1,内面:にぶい黄褐色10YR7/3	砂粒・細砂粒	細砂粒	細砂粒	砂粒・細砂粒	2		外面:ハケ後横方向のミガキ,内面:ナデ,	外面:赤色顔料付着。
26	1	7	土器	埴	胴部	外面:赤色10R5/6,内面・器肉:にぶい褐色7.5YR6/4,器肉;褐灰色7.5YR4/1		細砂粒	細砂粒		2		内面:ハケ打ち込み	外面:赤色顔料付着。
28	2	7	磁器	碗?	口縁部	釉:透明釉, 呉須:濃い藍色						白色	施釉。	染付け。

Tab. 4 出土遺物観察表 (2)

トレンチ	層	種別	器種	部位	色調・釉調	胎土					調整・文様	備考	
						赤色粒	白色粒	石英	黒色粒	多さ			その他
23	1	7	土器	壺	底部	外面:浅黄褐色10YR8/3,内面:にぶい黄褐色10YR7/2,器肉:にぶい橙色7.5YR7/4,内面:鈍い褐色7.5YR5/4	細砂粒(少)	細砂粒	細砂粒	細砂粒	2	ハケのちナデ.	
24	1	7	土器	高杯	脚部	外面:赤色10R4/8,器肉:にぶい褐色7.5YR7/4,内面:鈍い褐色7.5YR5/4	砂粒・細砂粒	砂粒・細砂粒	砂粒・細砂粒	3	ナデ.	外面:赤色顔料付着.	
25	1	7	土器	高杯	脚部	外面:赤褐色5YR4/6,器肉:褐灰色7.5YR6/1,内面:にぶい黄褐色10YR7/3	砂粒・細砂粒	細砂粒	細砂粒	2	外面:ハケ後横方向のミガキ. 内面:ナデ.	外面:赤色顔料付着.	
26	1	7	土器	埴	胴部	外面:赤色10R5/6,内面:器肉:にぶい褐色7.5YR6/4,器肉:褐灰色7.5YR4/1	細砂粒	細砂粒		2	内面:ハケ打ち込み	外面:赤色顔料付着.	
28	2	7	磁器	碗?	口縁部	釉:透明釉. 呉須:濃い藍色.						施釉.	染付け.
29	2	2	土師器	皿	口縁部~底部	外面・器肉:灰黄色2.5Y7/2,内面:灰黄色2.5Y6/2	砂粒・細砂粒	砂粒・細砂粒	細砂粒	1		回転ナデ?	摩滅著しい.
30	2	2	土師器		底部	外面・内面の一部:灰褐色7.5YR,器肉:浅黄褐色7.5YR8/4,内面:鈍い褐色	細砂粒	微砂粒		1	回転ナデ. 底面:糸切底.	煤付着.	
31	2	7	土器	甕	口縁部	外面:褐灰色10YR4/1,器肉・内面:褐灰色10YR5/1,鈍い黄褐色10YR7/3	細砂粒	細砂粒	砂粒・細砂粒	2	塵を少し含む.	ナデ.	
32	2	7	土器	甕	胴部	外面・内面:黒褐色7.5YR3/1,3/2,器肉:鈍い褐色7.5YR5/3	砂粒・細砂粒	砂粒・細砂粒		2	ハケのちナデ?	突帯あり. 内外面:煤付着.	
33	2	7	土器	甕	脚部	外面:鈍い黄褐色10YR7/4,器肉・内面:褐色5YR6/6	砂粒	粗砂粒・砂粒	砂粒	5	ナデ. 上部破面に接合痕あり.	摩滅している.	
34	2	7	土器	甕	脚部	外面:にぶい黄褐色10YR7/3,器肉:褐色7.5YR6/6,内面:灰白色10YR8/2	砂粒	砂粒	砂粒・細砂粒	3	内面:ハケ?のちナデ. 他:ナデ.	摩滅している.	
35	2	7	土器	壺	胴部	外面:褐灰色10YR4/1,器肉・内面:鈍い褐色7.5YR7/4	砂粒	砂粒	砂粒・細砂粒	3	白色粒多い.	外面突帯付近:ヨコナデ. 他:ナデ.	外面:煤付着.
36	2	7	土器	高杯	脚部	外面:赤色10R5/8,器肉:明褐色7.5YR7/2,内面:鈍い黄褐色10YR7/3,灰黄褐色10YR6/2	細砂粒	細砂粒	砂粒・細砂粒	1	外面:ミガキ. 内面:ナデ.	外面:赤色顔料付着.	
37	2	7	土器	埴	口縁部	外面:明赤褐色2.5YR5/6,器肉:灰白色10YR8/2,浅黄褐色7.5YR8/4,内面:明赤褐色2.5YR5/8	細砂粒	細砂粒	砂粒	1	ミガキ.	赤色顔料付着.	
38	2	7	土器	埴	胴部	外面:明赤褐色2.5YR5/6,器肉:灰白色10YR7/1,内面:鈍	塵(少)・細砂粒	細砂粒	細砂粒	1	外面:ミガキ. 内面:ナデ.	外面:赤色顔料付着.	

Tab. 5 石器計測表

No.	トレンチ	層	器種	幅(cm)	長さ(cm)	厚さ(cm)
19	1	6	砥石	7.05	4.8+α	8.2
27	1	7	石斧	4.4+α	4.3+α	1.95+α

事による立合調査によって、密集する住居跡群や層厚50cm以上に及ぶ遺物包含層、住居跡や溝状遺構から土器溜りなどが確認されている。これらを総合すると、中央図書館から北側は住居跡が密集している地点である。

その中でも、1トレンチ7層上面で確認したような密集した遺物の出土状況は稀であり、多くの住居跡群とそれに伴う多量の遺物の存在が推定できる。

これらのことから、本地点においては十分な埋蔵文化財への配慮が必要であろう。

文献

- 1) 「付編. 釘田第一地点 (鹿児島大学教養部) 遺跡発掘調査報告—遺構および遺構出土遺物編— (昭和50年度 鹿児島県教育委員会文化課調査)」『南九州地域における原始・古代文化の諸様相に関する総合的研究』鹿児島大学埋蔵文化財調査室編 1992

【釘田第一地点 (鹿児島大学教養部) 遺跡発掘調査報告—住居址出土遺物の概要— (昭和50年度 鹿児島県教育委員会文化課調査)】平成6年度教育研究学内特別経費研究成果報告書 1995 鹿児島大学埋蔵文化財調査室

3 立会調査

埋蔵文化財調査室では、平成10年度3件の立会調査を実施した。以下、各調査ごとに説明する。

98-A 鹿児島大学（郡元）遺伝子実験施設新築 その他工事に伴う立会調査

遺伝子実験棟建設地周辺の樹木移植に伴い、掘削が行われた。A地点は樹木抜き取り地点であるが、表土の範囲内であり埋蔵文化財への影響はなかった。樹木移植地点であるB・C・D地点は、いずれも表土の範囲で埋蔵文化財に影響はなかった。

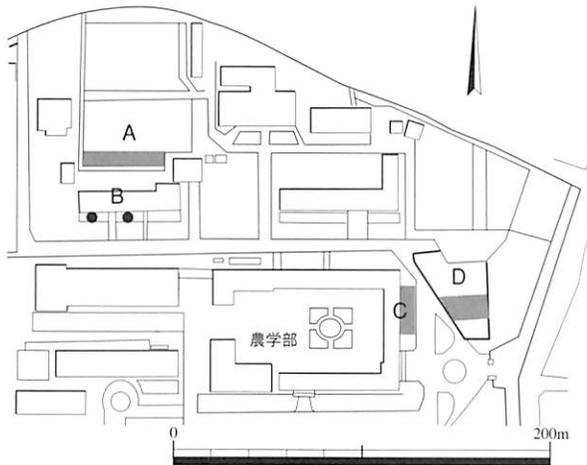


Fig. 9 98-A調査地点

98-B 鹿児島大学工学部校舎新営その他機械 設備工事に伴う立会調査

工学部機械設備工事に伴い、受水槽の周囲に幅60～80cm、深さ60～80cmの溝状の掘削を行った。土層は表土の下に30cmほど客土がみられ、非常に堅く瓦などが混じっていたが、遺物は出土していない。

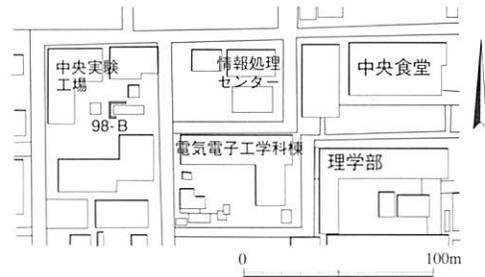


Fig.10 98-B調査地点

98-C 鹿児島大学法文学部東屋取設工事に伴う 立会調査

法文学部南側の中庭ベンチ設置 (Fig.3) のため、掘削工事が行われた。深さ30cm ほどで、埋蔵文化財への影響はなかった。

鹿児島大学埋蔵文化財調査室要項

鹿児島大学埋蔵文化財対策委員会規則

(設置)

第1条 本学に、鹿児島大学埋蔵文化財対策委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(審議)

第2条 委員会は、本学の施設計画を円滑に行うため埋蔵文化財に関する次の事項を審議する。

- (1) 基本計画の策定に関すること。
- (2) 調査結果に基づく対策に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 学長
 - (2) 各学部長, 附属図書館長, 医学部附属病院長および歯学部附属病院長
 - (3) 事務局長
 - (4) 学生部長
- (委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、学長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(議事)

第5条 委員会は、委員の3分の2以上の出席をもって成立し、議事は出席委員の3分の2以上をもって決する。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員会が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、意見を聴くことができる。

(調査委員会)

第7条 委員会は、本学の埋蔵文化財の調査を行なうため、埋蔵文化財調査委員会(以下「調査委員会」という。)を置く。

第8条 調査委員会は次の事項を審議する。

- (1) 調査実施計画に関すること。
- (2) 第13条に規定する調査室の室長等の選任に関すること。
- (3) 第13条に規定する調査室の予算に関すること。
- (4) その他埋蔵文化財及び第13条に規定する調査室の業務に関すること。

第9条 調査委員会は、次に掲げる委員をもって組織し、学長が任命する。

- (1) 各学部の教授, 助教授, 講師の中から選任された者各1名
- (2) 第15条2項に規定する調査室長

2 前項第1号の委員の任期は2年とし、委員に欠員が生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任

期間とする。

第10条 調査委員会に委員長を置き、前項第1項第1号の委員の中から互選により選出する。

2 委員長は委員会を招集し、その議長となる。

第11条 調査委員会は、委員の過半数の出席をもって成立し、議事は、出席委員の過半数をもって決する。

第12条 調査委員会が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、意見を聴くことができる。

(調査室)

第13条 調査委員会に、本学の埋蔵文化財の調査に関する業務を行うための埋蔵文化財調査室(以下「調査室」という。)を置く。

第14条 調査室は、次の業務を行なう。

- (1) 調査実施計画の立案
- (2) 発掘調査, 分布調査及び確認調査
- (3) 調査報告書の作成
- (4) その他必要な事項

第15条 調査室に、室長, 主任及びその他必要な職員を置く。

2 室長は、本学の考古学に関する教官の中から委員会が推薦し、学長が任命する。

3 室長は、調査委員会の定める方針に基づき調査室の業務を掌理する。

4 室長の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

5 主任は、調査室の職員の中から、特に埋蔵文化財に関する専門知識を有する者を調査委員会が推薦し、学長が任命する。

6 主任は、室長の命を受けて調査室の業務を処理する。

7 職員は、調査室の業務に従事する。

(その他)

第16条 埋蔵文化財に関する事務は、事務局施設部において行なう。

付 則

- 1 この規則は、昭和60年4月18日から施行する。
- 2 この規則の施行後最初に任命される委員及び室長の任期は、第9条第2項及び第15条第4項の規定にかかわらず、昭和62年3月31日までとする。
- 3 鹿児島大学埋蔵文化財対策委員会規則(昭和51年1月22日制定)は、廃止する。

付則

この規則は、平成9年4月1日から施行する。

・鹿児島大学埋蔵文化財対策委員会（平成 10年 4 月 1 日現在）

委員長 田中弘允（鹿児島大学学長）
委員 石田忠彦（法文学部長）
坂尾 隆（教育学部長）
堀田 満（理学部長）
大井好忠（医学部長）
平 明（医学部付属病院長）
笠原泰夫（歯学部長）
井上昌一（歯学部付属病院長）
赤坂 裕（工学部長）
堀口 毅（農学部長）
市川英雄（水産学部長）
小澤貴和（連合農学研究科長）
飛田眞澄（事務局長）
野崎 勉（学生部長）
山下 智（附属図書館長）

・鹿児島大学埋蔵文化財調査委員会委員（平成 10 年 4 月 1 日現在）

委員長 塚原潤三（理学部教授）
委員 渡辺芳郎（法文学部助教授）
日隈正守（教育学部助教授）
秋山伸一（医学部教授）
小片丘彦（歯学部教授）
行田尚義（工学部教授）
松元光春（農学部助教授）
山中有一（水産学部講師）
上村俊雄（調査室長併任 法文学部教授）

鹿児島大学埋蔵文化財調査室

室長（併） 法文学部教授 上村俊雄
主任（併） 法文学部助手 中村直子
（併） 法文学部助手 大西智和
技術補佐員 鮎川章子
技術補佐員 新原和子

受贈図書目録 (1998年4月1日～1999年3月31日)

書名	発行所	書名	発行所
単行本			
遺跡出土の動物遺存体に関する基礎的研究 平成7～9年度	いわき短期大学幼児教育科・助教 授 山崎京美	上浦市上高津貝塚ふるさと歴史の広場年報 第4号(平成9年度)	上高津貝塚ふるさと歴史の広場
公開セミナー記録集「用田バイパス関連遺跡群ローム層中出土の炭化材」 「旧石器時代の住居遺構を探る」	神奈川県立埋蔵文化財センター 財団法人かながわ考古学財団	財団法人君津都市文化財センター 広報誌 きみさらづ第12.13号	財団法人君津都市文化財センター
名古屋博物館研究紀要 第21巻	名古屋博物館	財団法人君津都市文化財センター 年報No14.15	財団法人君津都市文化財センター
研究室旅行 宮崎 鹿児島(1998年度研究室旅行ハンフレット)	京都大学文学研究科考古学研究室	千葉県立房総風土記の丘年報20 -平成8年度-	千葉県立房総風土記の丘
高橋猪之介写真集英	埋蔵文化財写真技術研究会	青山史学第16号	青山学院大学文学部 史学研究室
大阪市文化財協会 研究紀要 創刊号	大阪市文化財協会	人類誌集報1998 東京立大学考古学報告3	東京都立大学考古学研究室
自然科学研究所研究報告 第23号	岡山理科大学	人類誌集報1998	財団法人東京都教育文化財団 東京都埋蔵文化財センター
自然科学研究所研究報告 第23号	岡山理科大学	東京都埋蔵文化財センター年報 18 1997(平成9年度)	東京都埋蔵文化財センター
生窓町史資料編Ⅱ 考古	生窓町	資料目録 10	神奈川県立埋蔵文化財センター
古代出雲文化展	古代出雲文化展実行委員会	神奈川県立埋蔵文化財センター年報16	神奈川県立埋蔵文化財センター
古代出雲の文化	上田正明 島根県古代文化センター	神奈川県立埋蔵文化財センター年報17	神奈川県立埋蔵文化財センター
出雲国風土記論	朝山晴 島根県古代文化センター	かながわ考古学財団 年報5 平成9年度	かながわ考古学財団
古代分化研究	島根県古代文化センター	埋文とやま 第60-62号	富山県埋蔵文化財センター
		金大考古 第27号	金沢大学考古学講座
		FUKUI PREFECTURAL MUSEAM NEWS No34	福井県立博物館
研究紀要		かかみがはらの埋文 第6号	各務原市埋蔵文化財センター
いわき市教育文化事業団研究紀要 第10号 1999	財団法人いわき市教育文化事業団	多治見市文化財保護センターだより 自然と人の文化 13.14	多治見市文化財保護センター
歴史人類 第26号	筑波大学歴史・人類学系	研究所報 No71	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
君津都市文化財センター研究紀要Ⅳ	財団法人君津都市文化財センター	研究所報 No72	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
大田区立博物館紀要 第8号	大田区立博物館	研究所報 No73	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
群馬県立歴史博物館紀要 第19号	群馬県立歴史博物館	研究所報 No74	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
研究紀要3 かながわの考古学	神奈川県立埋蔵文化財センター 財団法人かながわ考古学財団	研究所報 No75	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
金沢大学考古学紀要 第24号	金沢大学考古学講座	研究所報 No76	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
福井県立博物館紀要 第7号	福井県立博物館	研究所報 No77	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
静岡県埋蔵文化財調査研究所 研究紀要 第6号 1998	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所	研究所報 No78	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
研究紀要 第6号	三重県埋蔵文化財センター	静岡県埋蔵文化財調査研究所 年報Ⅳ(平成9年度事業概要)	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
研究紀要 第7号 -土師器焼成 抗と古代土器の生産と流通-	三重県埋蔵文化財センター	研究所要覧一平成10年度一	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
地域文化研究 地域文化研究所紀要13	梅光女学院大学	名古屋博物館だより 121.122.124-126	名古屋博物館
ミュージアム知覧紀要 第4号	ミュージアム知覧	三重県文化財センター通信 みえ No23-26	三重県埋蔵文化財センター
澁谷村立歴史民俗資料館紀要 第21号	澁谷村立歴史民俗資料館	三重県埋蔵文化財年報 平成9年度	三重県埋蔵文化財センター
澁谷村立歴史民俗資料館紀要 第22号	澁谷村立歴史民俗資料館	坂田郡文化財ニュース 佐加太 第8.9号	坂田郡社会教育研究会文化財部会
逐次刊行物		滋賀埋文ニュース 第216-226号	滋賀県埋蔵文化財センター
苦小牧だより	苦小牧市文化財センター	京都府埋蔵文化財情報 第67号	財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
テエタ 第3号 北海道埋蔵文化財センターだより	北海道埋蔵文化財センター	京都府埋蔵文化財情報 第68号	財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
東北大学埋蔵文化財調査年報9	東北大学埋蔵文化財調査研究センター	京都府埋蔵文化財情報 第70号	財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
東北大学埋蔵文化財調査年報10	東北大学埋蔵文化財調査研究センター	京都市考古資料館年報 平成5.6年度	京都市考古資料館
いわき市教育文化事業団 年報9 平成9年度	財団法人いわき市教育文化事業団		
上浦市上高津貝塚ふるさと歴史の広場年報 第3号(平成8年度)	上高津貝塚ふるさと歴史の広場		

書名	発行所	書名	発行所
京都市考古資料館年報 平成7、8年度	京都市考古資料館	コンピュータ・グラフィックスで見る 頭高山遺跡	神戸市教育委員会
京都大学構内遺跡調査年報 1994年度	京都大学埋蔵文化財研究センター	調査報告書	
ひらかた文化財だより第35-37号	財団法人枚方市文化財研究調査会	千歳市文化財調査報告書XXV キウス5遺跡における考古学的調査	千歳市教育委員会
大阪市文化財情報基火 72-78号	財団法人大阪市文化財協会	美沢東遺跡群	苫小牧市教育委員会 苫小牧市埋蔵文化財センター
枚方市文化財年報19 (1997年度分)	財団法人枚方市文化財研究調査会	岩手県内遺跡発掘調査報告書(平成8年度)	岩手県教育委員会
高槻市文化財年報 平成8年度	高槻市教育委員会	国指定史跡 城輪櫓跡	酒田市教育委員会
TUBOHORI 姫路市埋蔵文化財調査略報 平成8年度	姫路市教育委員会	史跡城輪櫓跡 (1991)	酒田市教育委員会
兵庫県埋蔵文化財情報 ひょうごの遺跡 29-31号	兵庫県教育委員会	史跡城輪櫓跡 (1994)	酒田市教育委員会
平成7年度神戸市埋蔵文化財年報 城郭研究室年報	神戸市教育委員会	仙台市文化財調査報告第221集	仙台市教育委員会
島根県の埋蔵文化財情報誌 ドキ土器まいぶん 春・秋	姫路市立城郭研究室	富沢 泉崎浦 山口遺跡 (II)	
所報 吉備 25号	島根県埋蔵文化財調査センター	仙台市文化財調査報告書第229号	仙台市教育委員会
岡山大学構内遺跡調査研究年報 15 1997年度	岡山県古代吉備文化財センター	原遺跡	
岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報第20号	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター	平成10年度発掘調査概報 平窪 諸荷遺跡 -弥生墓跡遺跡-	いわき市教育委員会 財団法人いわき市教育文化事業団
岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報第21号	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター	茨城県教育財団文化財調査報告書 123集 大山上遺跡	住宅都市整備公団首都圏都市開発本部 財団法人茨城県教育財団
倉敷埋蔵文化財センター年報4 平成8年度	倉敷埋蔵文化財センター	茨城県教育財団文化財調査報告書 124集 仲郷遺跡	茨城県財団法人茨城県教育財団
いぶき No.23	広島県教育委員会	茨城県教育財団文化財調査報告書 125集 西方貝塚	茨城県財団法人茨城県教育財団
歴風 第20-22号	広島県立歴史民俗資料館 みよし 風土記の丘	茨城県教育財団文化財調査報告書 126集 番城内遺跡	茨城県財団法人茨城県教育財団
梅光女学院大学 地域文化研究所 通信No23	梅光女学院大学地域文化研究所	茨城県教育財団文化財調査報告書 127集 高野台遺跡 前田村遺跡 D、F区	茨城県財団法人茨城県教育財団
まいぶん えひめ No2	財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター	茨城県教育財団文化財調査報告書 128集 反田下高井遺跡	茨城県財団法人茨城県教育財団
日本歴史資料館だより 温故 10.14.16.24.28号	日本歴史資料館	茨城県教育財団文化財調査報告書 129集 後原遺跡 親塚古墳 権現堂遺跡 南小割遺跡	茨城県財団法人茨城県教育財団
平成9年度 福岡市埋蔵文化財センター年報 第17号	福岡市教育委員会	茨城県教育財団文化財調査報告書 130集 炭焼遺跡 札場古墳群 三和貝塚 成田古墳群	茨城県財団法人茨城県教育財団
大分県埋蔵文化財年報6 平成8年度版	大分県教育委員会	茨城県教育財団文化財調査報告書 131集 大橋13遺跡 釈迦才仏遺跡	茨城県財団法人茨城県教育財団
Funai V	大分市歴史資料館	茨城県教育財団文化財調査報告書 132集 渡山遺跡 古屋敷遺跡	茨城県財団法人茨城県教育財団
Funai VI	大分市歴史資料館	茨城県教育財団文化財調査報告書 133集 熊の山遺跡	茨城県財団法人茨城県教育財団
Funai 府内及び大友関係遺跡総合調査研究年報IV	大分市歴史資料館	茨城県教育財団文化財調査報告書 134集 神田遺跡	茨城県財団法人茨城県教育財団
大分市歴史資料館年報	大分市歴史資料館	茨城県教育財団文化財調査報告書 135集 矢倉遺跡 後1原遺跡	日本道路公団東京第一建設局 財団法人茨城県教育財団
大分市歴史資料館ニュース 39-43	大分市歴史資料館	茨城県教育財団文化財調査報告書 136集 大作遺跡 大知遺跡	日本道路公団東京第一建設局 財団法人茨城県教育財団
おおいた歴博 1.2	大分県立歴史博物館	茨城県教育財団文化財調査報告書 137集 星合遺跡 中の台遺跡	茨城県財団法人茨城県教育財団
埋蔵文化財通信みやぎき 第2号	宮崎県埋蔵文化財センター	茨城県教育財団文化財調査報告書 138集 八丁台遺跡	建設省財団法人茨城県教育財団
埋蔵文化財通信みやぎき 第3号	宮崎県埋蔵文化財センター	茨城県教育財団文化財調査報告書 139集 中谷津遺跡I	茨城県財団法人茨城県教育財団
宮崎県埋蔵文化財センター年報 平成8年度創刊号	宮崎県埋蔵文化財センター	茨城県教育財団文化財調査報告書 140集 木工台遺跡I	茨城県財団法人茨城県教育財団
埋文だより 第16号	鹿児島県立埋蔵文化財センター	茨城県教育財団文化財調査報告書 141集 宮ヶ崎城跡	茨城県財団法人茨城県教育財団
薩琉文化 第62.64.65号	鹿児島短期大学附属南日本文化研究所	茨城県教育財団文化財調査報告書 142集 高須賀中台遺跡	茨城県財団法人茨城県教育財団
南日本文化 第31号	鹿児島短期大学附属南日本文化研究所	茨城県教育財団文化財調査報告書 143集 東原遺跡 前知遺跡 柏原遺跡	住宅・都市整備公団茨城地域支社 財団法人茨城県教育財団
川内市歴史資料館年報 平成8年度	川内市歴史資料館	茨城県教育財団文化財調査報告書 144集 火殿古墳群 火殿寺子遺跡I	住宅・都市整備公団茨城地域支社 財団法人茨城県教育財団
資料館だより No31	澁谷村立歴史民俗資料館		
澁谷村立歴史民俗資料館年報 第22号	澁谷村立歴史民俗資料館		
澁谷村立歴史民俗資料館年報 第23号	澁谷村立歴史民俗資料館		
埋蔵文化財発掘調査ニュースNo7 安瀬西原古墳群	那覇市教育委員会		

書名	発行所	書名	発行所
茨城県教育財団文化財調査報告第145集 下り松遺跡 油内遺跡	建設省財団法人茨城県教育財団	東京都埋蔵文化財センター調査報告第50集 多摩ニュータウン遺跡	東京都埋蔵文化財センター
茨城県教育財団文化財調査報告第146集 前田村遺跡G・H・I区	茨城県財団法人茨城県教育財団	東京都埋蔵文化財センター調査報告第50集 多摩ニュータウン遺跡 №72.795.796遺跡 (3)	東京都埋蔵文化財センター
茨城県教育財団文化財調査報告第147集 前田村遺跡J・K区	茨城県財団法人茨城県教育財団	東京都埋蔵文化財センター調査報告第50集 多摩ニュータウン遺跡 №72.795.796遺跡 (5)	東京都埋蔵文化財センター
茨城県教育財団文化財調査報告第148集 坂遺跡 船戸内遺跡 小原遺跡	茨城県財団法人茨城県教育財団	東京都埋蔵文化財センター調査報告第50集 多摩ニュータウン遺跡 №72.795.796遺跡 (6)	東京都埋蔵文化財センター
茨城県教育財団文化財調査報告第149集 熊の山遺跡 上下巻	茨城県財団法人茨城県教育財団	東京都埋蔵文化財センター調査報告第50集 多摩ニュータウン遺跡 №72.795.796遺跡 (10)	東京都埋蔵文化財センター
茨城県教育財団文化財調査報告第150集 寺山遺跡 東平遺跡 坂ノ上塚群	日本道路公団東京第一建設局 財団法人茨城県教育財団	東京都埋蔵文化財センター調査報告第51集 多摩ニュータウン遺跡	東京都埋蔵文化財センター 東京都教育委員会
茨城県教育財団文化財調査報告第151集 茨城寺子遺跡2	住宅・都市整備公団茨城地域支社 財団法人茨城県教育財団	東京都埋蔵文化財センター調査報告第52集 多摩ニュータウン遺跡	東京都教育委、東京都埋蔵文化財センター
井戸山遺跡確認調査報告書	土浦市教育委員会 土浦市遺跡調査会	東京都埋蔵文化財センター調査報告第53集 尾張藩上屋敷跡Ⅲ	東京都埋蔵文化財センター
根鹿北遺跡 栗山遺跡	土浦市教育委員会 土浦市遺跡調査会	東京都埋蔵文化財センター調査報告第54集 多摩ニュータウン遺跡 №27遺跡	東京都埋蔵文化財センター
神明遺跡	土浦市教育委員会 土浦市遺跡調査会	東京都埋蔵文化財センター調査報告第55集 鳥屋敷遺跡	東京都埋蔵文化財センター
財団法人君津都市文化財センター発掘調査報告書第126集 外宮輪遺跡Ⅱ	小堀富夫 財団法人君津都市文化財センター	東京都埋蔵文化財センター調査報告第56集 多摩ニュータウン遺跡	東京都埋蔵文化財センター
財団法人君津都市文化財センター発掘調査報告書第139集 榎崎遺跡 寺ノ上遺跡	株式会社丸越 財団法人君津都市文化財センター	東京都埋蔵文化財センター調査報告第57集 多摩ニュータウン遺跡 №245.341遺跡	東京都埋蔵文化財センター
財団法人君津都市文化財センター発掘調査報告書第140集 椿古墳群	有限会社芝崎 財団法人君津都市文化財センター	東京都埋蔵文化財センター調査報告第60集 三好野遺跡群1.2	東京都埋蔵文化財センター
財団法人君津都市文化財センター発掘調査報告書第142集 美生遺跡群Ⅳ	東京湾観光株式会社 財団法人君津都市文化財センター	東京都埋蔵文化財センター調査報告第61集 多摩ニュータウン遺跡 -№918遺跡-	東京都埋蔵文化財センター
財団法人君津都市文化財センター発掘調査報告書第143集 姥田遺跡	君津市 財団法人君津都市文化財センター	東京都埋蔵文化財センター調査報告第62集 多摩ニュータウン遺跡	東京都埋蔵文化財センター
財団法人君津都市文化財センター発掘調査報告書第144集 百目木B・C 清水頭 清水沢遺跡	袖ヶ浦市 財団法人君津都市文化財センター	東京都埋蔵文化財センター調査報告第63集 多摩ニュータウン遺跡	東京都埋蔵文化財センター
財団法人君津都市文化財センター発掘調査報告書第145集 谷ノ台遺跡	袖ヶ浦市 財団法人君津都市文化財センター	東京都埋蔵文化財センター調査報告第64集 多摩ニュータウン遺跡 №107遺跡	東京都埋蔵文化財センター
財団法人君津都市文化財センター発掘調査報告書第146集 常代遺跡Ⅱ	君津市 財団法人君津都市文化財センター	汐留遺跡	東京都埋蔵文化財センター
財団法人君津都市文化財センター発掘調査報告書第147集 山谷遺跡(Ⅱ)	株式会社主婦の店 財団法人君津都市文化財センター	尾張藩上屋敷遺跡Ⅱ	東京都埋蔵文化財センター
財団法人君津都市文化財センター発掘調査報告書第148集 上泉遺跡群 上ノ山遺跡	株式会社主婦の店 財団法人君津都市文化財センター	東京都井の頭池遺跡群御殿山遺跡	御殿山遺跡調査団
財団法人東総文化財センター発掘調査報告書第14集 大道筋遺跡	袖ヶ浦市 財団法人君津都市文化財センター	東京都井の頭池遺跡群 吉祥寺南町1丁目遺跡1地点	武蔵野市吉祥寺南町1丁目遺跡発掘調査委員会
財団法人東総文化財センター発掘調査報告書第15集 寒風城跡	袖ヶ浦市 財団法人君津都市文化財センター	東京都井の頭池遺跡群 吉祥寺南町三丁目遺跡B地点	武蔵野市教育委員会
財団法人東総文化財センター発掘調査報告書第16集 新城跡	八日市場市教育委員会 財団法人東総文化財センター	東京都井の頭池遺跡群 吉祥寺南町1丁目遺跡J地点	武蔵野市教育委員会
財団法人東総文化財センター発掘調査報告書第17集 傍示戸遺跡 城ノ台遺跡 新城跡	財団法人東総文化財センター	東京都井の頭池遺跡群 平成10年度武蔵野市文化財調査報告集3	武蔵野市教育委員会
財団法人東総文化財センター発掘調査報告書第18集 長者台遺跡	千葉県八日市場市都市課 財団法人東総文化財センター	武蔵野市埋蔵文化財報告集2 武蔵野市埋蔵文化財調査報告書	武蔵野市教育委員会
東京都埋蔵文化財センター調査報告第44集 多摩ニュータウン遺跡	東京電力株式会社 財団法人東総文化財センター	東京都渋谷区 豊沢貝塚	豊沢貝塚遺跡調査会
東京都埋蔵文化財センター調査報告第48集 多摩ニュータウン遺跡	東京電力株式会社 財団法人東総文化財センター	かながわ考古学財団調査報告14 長津田遺跡群Ⅲ	財団法人かながわ考古学財団
東京都埋蔵文化財センター調査報告第49集 多摩ニュータウン遺跡	八日市場市教育委員会 財団法人東総文化財センター	かながわ考古学財団調査報告18 宮ヶ瀬遺跡群Ⅱ	財団法人かながわ考古学財団
東京都埋蔵文化財センター調査報告第50集 多摩ニュータウン遺跡	東京都埋蔵文化財センター	かながわ考古学財団調査報告27 池子遺跡群Ⅴ	財団法人かながわ考古学財団
	東京都埋蔵文化財センター	かながわ考古学財団調査報告31 東向遺跡(№33)	財団法人かながわ考古学財団
	東京都埋蔵文化財センター	かながわ考古学財団調査報告32 不弓引遺跡 鶴巻大椿遺跡 鶴巻上ノ窪遺跡 北矢名南蛇久保遺跡 北矢名矢際遺跡	財団法人かながわ考古学財団
	東京都埋蔵文化財センター	かながわ考古学財団調査報告33 御屋敷添遺跡 高森・一ノ崎遺跡 高森・窪谷遺跡	財団法人かながわ考古学財団

書名	発行所	書名	発行所
近畿自動車道名古屋神戸線(第2名神)埋蔵文化財発掘概報1	三重県埋蔵文化財センター	平成9年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告	財団法人八尾市文化財調査研究会
天白遺跡	三重県埋蔵文化財センター	史跡・今城塚古墳 一平成8年度、規模確認調査一	高槻市教育委員会
三重県埋蔵文化財調査報告115-7 橋内遺跡発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター	雲井遺跡(第8次調査)	神戸市教育委員会
三重県埋蔵文化財調査報告123-3 新徳寺遺跡	三重県埋蔵文化財センター	住吉宮町遺跡(第17・18次調査)	神戸市教育委員会
三重県埋蔵文化財調査報告146-1-1 藤田地区内遺跡群発掘調査報告II 池ノ端地区	三重県埋蔵文化財センター	神戸市東灘区本山遺跡(第22次調査)	神戸市教育委員会
三重県埋蔵文化財調査報告146-2 中の坊遺跡	三重県埋蔵文化財センター	特別史跡 姫路城跡 石垣修理工事報告書(6)	姫路市
三重県埋蔵文化財調査報告146-3 曾祢崎遺跡(第2次)、曾祢崎古墳群	三重県埋蔵文化財センター	安満宮山古墳	高槻市教育委員会
三重県埋蔵文化財調査報告146-7 門阪遺跡発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター	上沢川遺跡・狐廻谷古墳・大井谷城跡・土塩治横穴墓群	建設省出雲工事事務所・島根県教育委員会
三重県埋蔵文化財調査報告146-9 山添遺跡(第2次)、里中遺跡ほか	三重県埋蔵文化財センター	四ツ廻り遺跡・林廻り遺跡・受馬遺跡	建設省松江国道建設事務所 島根県教育委員会
三重県埋蔵文化財調査報告148 水鏡遺跡発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター	岩屋口南遺跡	建設省松江国道建設事務所 島根県教育委員会
三重県埋蔵文化財調査報告150 宿田大塚内遺跡(第2次)発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター	塩津丘陵遺跡群	建設省松江国道建設事務所 島根県教育委員会
三重県埋蔵文化財調査報告152 天花寺丘陵内遺跡群発掘調査報告(II)	三重県埋蔵文化財センター	勝負遺跡・堂床古墳	建設省松江国道建設事務所 島根県教育委員会
三重県埋蔵文化財調査報告159 内垣外遺跡発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター	波山池古墳群	建設省松江国道建設事務所 島根県教育委員会
三重県埋蔵文化財調査報告160 山崎遺跡発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター	門生黒谷I・II・III遺跡	建設省松江国道建設事務所 島根県教育委員会
三重県埋蔵文化財調査報告163 ヲノ坪遺跡発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター	石田遺跡III	建設省松江国道建設事務所 島根県教育委員会
三重県埋蔵文化財調査報告164 高茶屋大塚内遺跡(第2次)発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター	山ノ神遺跡・五反田遺跡	建設省松江国道建設事務所 島根県教育委員会
三重県埋蔵文化財調査報告166-1 北条畑田遺跡・安知本上田遺跡・曾原塚ノ内遺跡・花の木遺跡	三重県埋蔵文化財センター	志津見ダム建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書5 板屋II遺跡	建設省松江国道建設事務所 島根県教育委員会
三重県埋蔵文化財調査報告167 横地高畑遺跡発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター	荒船古墳群・荒船遺跡・本庄川流域条理遺跡(2)	島根県教育委員会
三重県埋蔵文化財調査報告168 鏡川西出B遺跡(第1次)発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター	島根県教育庁文化財埋蔵文化財調査センター年報VI 平成9年度	島根県教育委員会
三重県埋蔵文化財調査報告170 下之川富田	三重県埋蔵文化財センター	風土記の丘地内遺跡発掘調査報告書XI-山代子塚古墳一	島根県教育委員会
三重県埋蔵文化財調査報告174 嶋坂第1次調査	三重県埋蔵文化財センター	来待石石切場遺跡群	島根県教育委員会 日本道路公団
三重県埋蔵文化財調査報告177 上ノ庄北出遺跡発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター	島根県古代文化センター調査研究報告書 鹿足群日原町柳村 柳神楽探訪記	島根県古代文化センター
三重県埋蔵文化財調査報告182 中ノ川原遺跡(第2次)発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター	岡山埋蔵文化財発掘調査報告書135 池田散布地、石塔鼻散布地ほか、阿知境遺跡ほか	岡山県教育委員会
三重県埋蔵文化財調査報告183 道瀬遺跡(第1次)発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター	岡山大学構内遺跡発掘調査報告第14冊 津島岡大遺跡10	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
三重県埋蔵文化財調査報告185 六寺蔵C遺跡、伊勢路道筋遺跡発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター	湾F17号墳 倉敷市埋蔵文化財調査報告第7集	倉敷埋蔵文化財センター
大阪市住吉区 桑津遺跡発掘調査報告	財団法人大阪市文化財協会	岡山城二の丸跡 中国電力内山下変電所建設に伴う調査報告	中国電力内山下変電所建設事業埋蔵文化財調査委員会
大阪市住吉区 南住吉遺跡発掘調査報告	財団法人大阪市文化財協会	広島大学統合移転埋蔵文化財発掘調査年報XIV	広島大学統合移転埋蔵文化財調査委員会
大阪市平野区 長原遺跡東部地区発掘調査報告I	財団法人大阪市文化財協会	下関市埋蔵文化財調査報告書66 長門町跡	下関市教育委員会
大阪市平野地区 長原、瓜破遺跡発掘調査報告X I	財団法人大阪市文化財協会	徳島県三好町埋蔵文化財調査報告第1集 大柿遺跡	三好町教育委員会 松尾線埋蔵文化財発掘調査委員会
大阪市北区 天満本願寺跡発掘調査報告III	財団法人大阪市文化財協会	遺跡	三野町教育委員会
大阪市北区 天満本願寺跡発掘調査報告IV	財団法人大阪市文化財協会	徳島県三好郡山野町埋蔵文化財発掘調査報告書 加茂野宮遺跡	三野町教育委員会
		阿波海南 大里2号墳	徳島大学考古学研究室 徳島県海部郡海南町教育委員会
		阿波海南 大里2号墳	徳島大学考古学研究室 徳島県海部郡海南町教育委員会
		徳島大学埋蔵文化財調査報告書第1巻 庄、蔵本遺跡1	徳島大学埋蔵文化財調査室
		火内遺跡・臥間遺跡 一來島大橋建設に伴う埋蔵文化財調査報告書第3集一	財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター
		斎院・古照	財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター

書名	発行所	書名	発行所
四国縦貫自動車道埋蔵文化財調査報告書Ⅱ-伊予市編Ⅱ-猿ヶ谷2号墳、上三谷原古墳、大人塚古墳、名護池古墳、原池遺跡、西香化遺跡、銘白遺跡、向山遺跡、鬼渡護国遺跡	財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター	手光於緑遺跡	福岡町教育委員会
四村日本遺跡 - 県道今治丹原線の建設に伴う埋蔵文化財調査報告書第1集-	財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター	福岡町文化財調査報告書第7集 古内殿古墳群	福岡町教育委員会
西野春井谷遺跡 通谷池2号墳	財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター	福岡町文化財調査報告書第9集八並中原古墳群	福岡町教育委員会
登畑遺跡 - 一般国道196号今治バイパス埋蔵文化財調査報告書Ⅲ-	財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター	福岡町文化財調査報告書第10集 手光酒屋遺跡	福岡町教育委員会
糸山5号土筑墳 糸山ミカン谷遺跡 姫内城跡Ⅱ次	財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター	津丸櫛毛遺跡 福岡町文化財調査報告書第11集	福岡町教育委員会
中駄場遺跡	財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター	八並中原遺跡 福岡町文化財調査報告書第13集	福岡町教育委員会
湯築城跡	財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター	三日月町文化財調査報告書第8集 上生遺跡Ⅰ	佐賀県小城郡三日月町教育委員会
松山市文化財調査報告書62 大峰ヶ台遺跡Ⅱ -9次調査-	松山市教育委員会(財)松山市生涯学習財団埋蔵文化財センター	三日月町文化財調査報告書第9集 上生遺跡Ⅱ	佐賀県小城郡三日月町教育委員会
松山市文化財調査報告書63 朝日谷2号墳	松山市教育委員会(財)松山市生涯学習財団埋蔵文化財センター	佐賀市文化財調査報告書第87集 金立遺跡Ⅱ 4~9区の調査	佐賀市教育委員会
松山市文化財調査報告書64 和氣、堀江の遺跡	松山市教育委員会(財)松山市生涯学習財団埋蔵文化財センター	佐賀市文化財調査報告書第88集 久富遺跡・友貞遺跡・東千布遺跡	佐賀市教育委員会
松山市文化財調査報告書65 石井・淨六の遺跡	松山市教育委員会(財)松山市生涯学習財団埋蔵文化財センター	佐賀市文化財調査報告書第89集 牟田寄遺跡	佐賀市教育委員会
松山市文化財調査報告書67 福音寺地蔵の遺跡Ⅱ	松山市教育委員会(財)松山市生涯学習財団埋蔵文化財センター	佐賀市文化財調査報告書第90集 修理田遺跡Ⅱ	佐賀市教育委員会
松山市埋蔵文化財調査年報 X	松山市教育委員会(財)松山市生涯学習財団埋蔵文化財センター	佐賀市文化財調査報告書第91集 岩宮原遺跡(2、3区)	佐賀市教育委員会
番塚古墳	菊田町教育委員会 九州大学文学部考古学研究室	佐賀市文化財調査報告書第92集 東千布遺跡(第5区)	佐賀市教育委員会
久留米市文化財調査報告書 第131集 筑後回府跡	久留米市教育委員会	佐賀市文化財調査報告書第93集 坪の上遺跡Ⅰ	佐賀市教育委員会
久留米市文化財調査報告書 第132集 京隈小路遺跡	久留米市教育委員会	佐賀市文化財調査報告書第94集 コマガリ遺跡	佐賀市教育委員会
久留米市文化財調査報告書 第133集 加原遺跡	久留米市教育委員会	佐賀市文化財調査報告書第95集 総懸原遺跡6区の調査	佐賀市教育委員会
久留米市文化財調査報告書 第134集 筑後回府跡	久留米市教育委員会	佐賀市文化財調査報告書第96集 佐賀市文化財確認調査報告書-1993・1994年度-	佐賀市教育委員会
久留米市文化財調査報告書 第135集 筑後回府跡	久留米市教育委員会	佐賀市文化財調査報告書第97集 赤井出遺跡1区・先立山遺跡1区	佐賀市教育委員会
久留米市文化財調査報告書 第136集 筑後回府跡	久留米市教育委員会	三光村の遺跡 三光村文化財調査報告書(第2集) 倉迫二ツ塚古墳 倉迫平古墳	佐賀市教育委員会
久留米市文化財調査報告書 第137集 大海寺遺跡Ⅱ	久留米市教育委員会	三光地区遺跡群発掘調査概報Ⅳ	大分県下毛郡三光村教育委員会
久留米市文化財調査報告書 第138集 鍾水古墳群	久留米市教育委員会	一般国道10号線 中津バイパス埋蔵文化財調査報告書(5) 安平遺跡 城山遺跡 大根川遺跡	大分県教育委員会
久留米市文化財調査報告書 第139集 筑後回府跡 国分寺跡 平成9年度発掘調査概要	久留米市教育委員会	一般国道10号日田バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ 日田市高瀬遺跡群の調査2 手崎遺跡 大部遺跡	大分県教育委員会
久留米市文化財調査報告書 第140集 久留米市内遺跡群	久留米市教育委員会	九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告書(8) かわじ池遺跡	大分県教育委員会
王塚古墳 発掘調査及び保存整備報告	桂川町教育委員会	九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告書(9) 佐々原遺跡 尾酒遺跡群 有田塚ヶ原古墳群	大分県教育委員会
王丸長谷遺跡 宗像市文化財調査報告書第44集	宗像市教育委員会	大分県文化財調査報告書 第99 二本木遺跡	大分県教育委員会
野坂新田 宗像市文化財調査報告書 第45集	宗像市教育委員会	大分県文化財調査報告書 第100 大分の前方後田墳	大分県教育委員会
泊桂木遺跡 前原市文化財調査報告書第4集	前原市教育委員会	都野東部地区に伴う発掘調査報告書Ⅱ	大分県直入郡久住町教育委員会
川原川右岸地区遺跡群Ⅱ 前原市文化財調査報告書第65集	前原市教育委員会	尾首遺跡、市第V遺跡	大分県直入郡久住町教育委員会
平蔵遺跡Ⅲ 那珂川町文化財調査報告書第41集	那珂川町教育委員会	上ノ原平原A遺跡 中津市文化財調査報告 第20集	中津市教育委員会
平蔵遺跡Ⅲ 那珂川町文化財調査報告書第41集	那珂川町教育委員会	中津城下町遺跡 京町御用屋敷跡 中津市文化財調査報告 第21集	中津市教育委員会
城ノ下遺跡群那珂川町文化財調査報告書第42集	那珂川町教育委員会	福島遺跡人垣地区(Ⅲ) 定留遺跡 向地区 中津市文化財調査報告 第22集	中津市教育委員会
城ノ下遺跡群那珂川町文化財調査報告書第42集	那珂川町教育委員会	熊本県本渡市文化財調査報告書第8集 本渡北小学校フール遺跡調査報告書	熊本県本渡市教育委員会

書名	発行所	書名	発行所
熊本大学埋蔵文化財調査室年報 4 -1997年度-	熊本大学埋蔵文化財調査室	第18回三重県埋蔵文化財 考古学 からみた 三重の木の文化	三重県埋蔵文化財センター
城南町文化財調査報告書第10集 阿高城跡	城南町教育委員会	第17回三重県埋蔵文化財展 三重 のはにわ	三重県埋蔵文化財センター
新御堂遺跡 一町道舞原中央線道 路改良工事に伴う発掘調査一	新御堂遺跡調査団	新版図録、枚方の遺跡	財団法人枚方市文化財研究調査会 大阪府立近つ飛鳥博物館
宮崎県埋蔵文化財センター発掘調 査報告書第7集 広木野遺跡 神 殿遺跡A地区	宮崎県埋蔵文化財センター	平成10年度冬季企画展 装い 文 化あれこれ 清野謙次コレクシ ョンから	大阪府立近つ飛鳥博物館
宮崎県埋蔵文化財センター発掘調 査報告書第8集 尾平、樽原遺跡 樽原遺跡	宮崎県埋蔵文化財センター	平成10年度秋季特別展 大化の薄 掛合	大阪府立近つ飛鳥博物館
宮崎県埋蔵文化財センター発掘調 査報告書第9集 前田遺跡	宮崎県埋蔵文化財センター	「発掘された日本列島'97」地域展 示 ひょうご復興の街から	神戸市教育委員会
宮崎県埋蔵文化財センター発掘調 査報告書第10集 市位遺跡	宮崎県埋蔵文化財センター	たんけん くらしきの古代	倉敷埋蔵文化財センター
宮崎県埋蔵文化財センター発掘調 査報告書第11集 荒迫遺跡	宮崎県埋蔵文化財センター	平成9年度企画展 発掘くらしき 道具と木のはなし 平成10年度秋 の展示会	倉敷埋蔵文化財センター 広島県立歴史民俗資料館
宮崎県埋蔵文化財センター発掘調 査報告書第12集 東九州自動車 道関係埋蔵文化財発掘調査概要報 告書Ⅱ(西都~清武)	宮崎県埋蔵文化財センター	平成10年度考古企画展 ひろしま の古代寺院 寺町焼寺と水切り瓦 菊田町歴史資料館秋の特別展示 周防灘西南沿岸地域の[縄文文化]	広島県立歴史民俗資料館
えびの市埋蔵文化財調査報告書第 22集 昌明寺遺跡	宮崎県えびの市教育委員会	西と東の縄文土器	北九州市立考古博物館
鹿児島市埋蔵文化財調査報告書 (22) 滝ノ神火葬製造所跡	鹿児島市教育委員会	開館10周年記念特別展氏 森羅万 象に遊ぶ	大分市歴史資料館
鹿児島市埋蔵文化財調査報告書 (23) 祇園之洲砲台跡	鹿児島市教育委員会	第14回特別展 [火の国掘って出 し]	城南町歴史民俗資料館
伊集院町埋蔵文化財発掘調査報告 書(10)	伊集院町教育委員会	上野原遺跡ハネルディスクッシ ョンin東京	鹿児島県教育委員会
入来町埋蔵文化財発掘調査報告書 (6) 鹿村ヶ追遺跡	入来町教育委員会	鹿児島市立ふるさと考古歴史館 常設展示図録	鹿児島市立ふるさと歴史考古館
入来町埋蔵文化財発掘調査報告書 (7) 向山寿昌寺峯陣跡	入来町教育委員会		
加世田市埋蔵文化財発掘調査報告 書(15) 柘ノ原遺跡 第1分冊	加世田市教育委員会		
鹿屋市埋蔵文化財発掘調査報告書 (51) 中ノ原(VD) 遺跡	鹿屋市教育委員会		
鹿屋市埋蔵文化財発掘調査報告書 (53) 谷平(VID) 遺跡	鹿屋市教育委員会		
鹿屋市埋蔵文化財発掘調査報告書 (54) 鹿屋城址(Ⅱ) 遺跡	鹿屋市教育委員会		
鹿屋市埋蔵文化財発掘調査報告書 (55) 宮ヶ原遺跡	鹿屋市教育委員会		
川辺町埋蔵文化財発掘調査報告書 5 供養塚遺跡	川辺町教育委員会		
川辺町埋蔵文化財発掘調査報告書 6 鷹爪野遺跡	川辺町教育委員会		
輝北町埋蔵文化財調査報告書(1) 前床遺跡 烏居ヶ段遺跡	輝北町教育委員会		
金峰町埋蔵文化財調査報告書(9) 上水流遺跡 第1次調査	金峰町教育委員会		
金峰町埋蔵文化財調査報告書 (10) 持鉢松遺跡 第1次調査	金峰町教育委員会		
南日本文化研究所叢書24 加計 呂麻島ノ口祭祀調査報告	鹿児島短期大学南日本文化研究所		
沖縄の文化財Ⅴ 埋蔵文化財編	沖縄県教育委員会		
那覇市文化財調査報告書 銘列古 墓群(1)	那覇市教育委員会		
那覇市文化財調査報告書第35集 銘菊原遺跡	那覇市教育委員会		
図録・目録			
苫小牧の埋蔵文化財(縄文時代・ 前期編)	苫小牧市文化財センター		
苫小牧市埋蔵文化財センター概要 平成10年度企画展 はにわの世界 芹沢けい介作品展	苫小牧市文化財センター 千葉県立房総風土記の丘 大田区立郷土博物館		
製作工程の考古学	大田区立博物館		
多治見市文化財センター研究紀要 第4号 市所蔵古陶磁図録1	多治見市文化財保護センター		

付編 桜ヶ丘団地 I・J - 10区 (受水槽設置地点) における発掘調査

1 調査に至る経過

鹿児島大学では、桜ヶ丘団地内に受水槽を設置することになり、医療技術短期大学部（現医学部保健学科）の北側に位置する、学生寮（各種学校寄宿舎）のすぐ北がその予定地とされた（Fig.11）。本地点の南約100mの臨床研究棟増築地¹⁾、難治性ウイルス疾患研究センターにおける発掘調査では、弥生時代から縄文時代早期までの遺構や遺物が出土している。また、東約200mの地点のMRI-C T装置棟建設地での発掘調査²⁾は縄文時代早期を中心とする土器や石器などが出土しており、1点のみ、縄文草創期の打製石鏃も確認された。

これらのことから本地点においても該期の遺構や遺物の存在が予想されたため、埋蔵文化財調査室では本地点においても発掘調査を行うことになり、平成6年5月16日～6月15日にかけて実施した。

2 調査体制

調査主体者 鹿児島大学埋蔵文化財調査室 室長 上村俊雄

調査担当 鹿児島大学埋蔵文化財調査室

室長 上村俊雄

室員 大西智和・峰山いづみ・古澤生

発掘調査作業員 池口洋人・瀬戸口論・吉永幸子・永里幸子・西之園ツヤ子・中村いつ子・矢住純子・馬場千寿子・新原和子・佐々木智子・上原文代・有馬美恵子

調査補助 陣内高志（鹿児島大学法文学部3年）

3 調査の経過

表土と客土は重機を用いて除去した。2層上面で、溝状遺構やピットなどを検出し、3層上面では多数のピットを検出した。その他、地層横転も確認できた。4層上面では調査区北東部において、縄文時代早期に比定できる住居跡を1軒確認した。各遺構について写真撮影及び実測を行い、調査区東側壁面の層位断面実測図を作成して作業を終了した。

4 層位 (Fig.12)

1層 表土層、客土などを一括して1層とした。

2層 いわゆるアカホヤと呼ばれる火山灰層であり、明褐色（7.5YR4/4）を呈し、粘性は帯びていない。

2'層 色調は褐色（7.5YR4/4）を呈するが一定していない。2層に相当すると考えられるが、かなり濁った色調を呈する。2～3cm大までの礫、2cm大ほどの薩摩火山灰の粒子などを含んでいる。

3層 黒褐色（7.5YR2/2）を呈するシルト質層。2cm大程度（まれにそれよりも大きいものも見られる）の薩摩火山灰をブロック状に含む。縄文時代早期の遺物包含層である。

4層 橙色（7.5YR6/8）を呈する層でいわゆる「薩摩火山灰」層である。粒子の

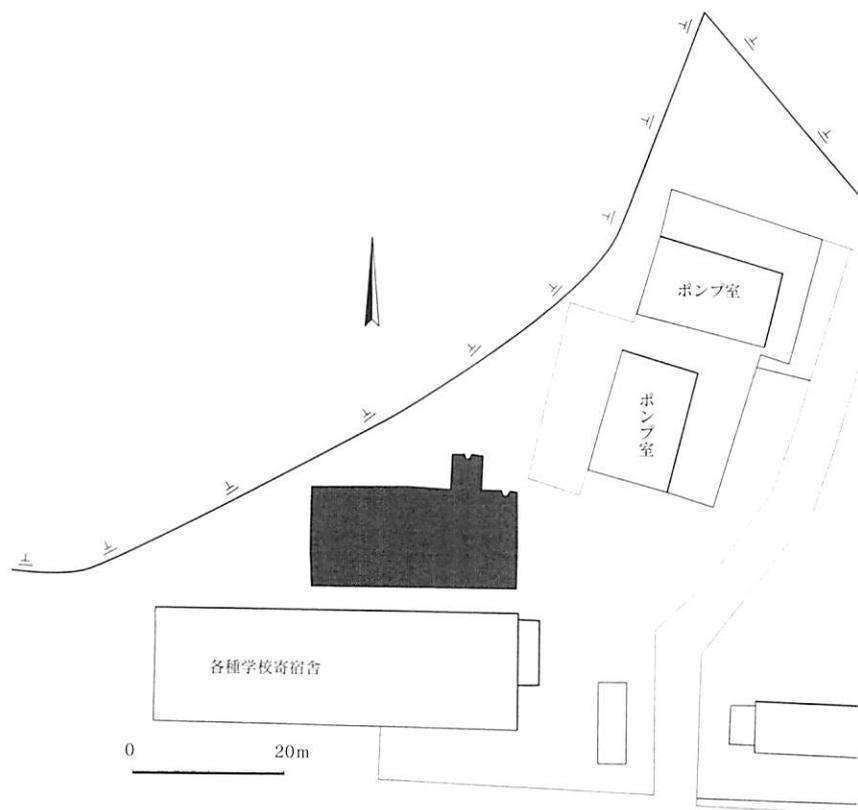


Fig.11 調査区の位置 S=1/1000

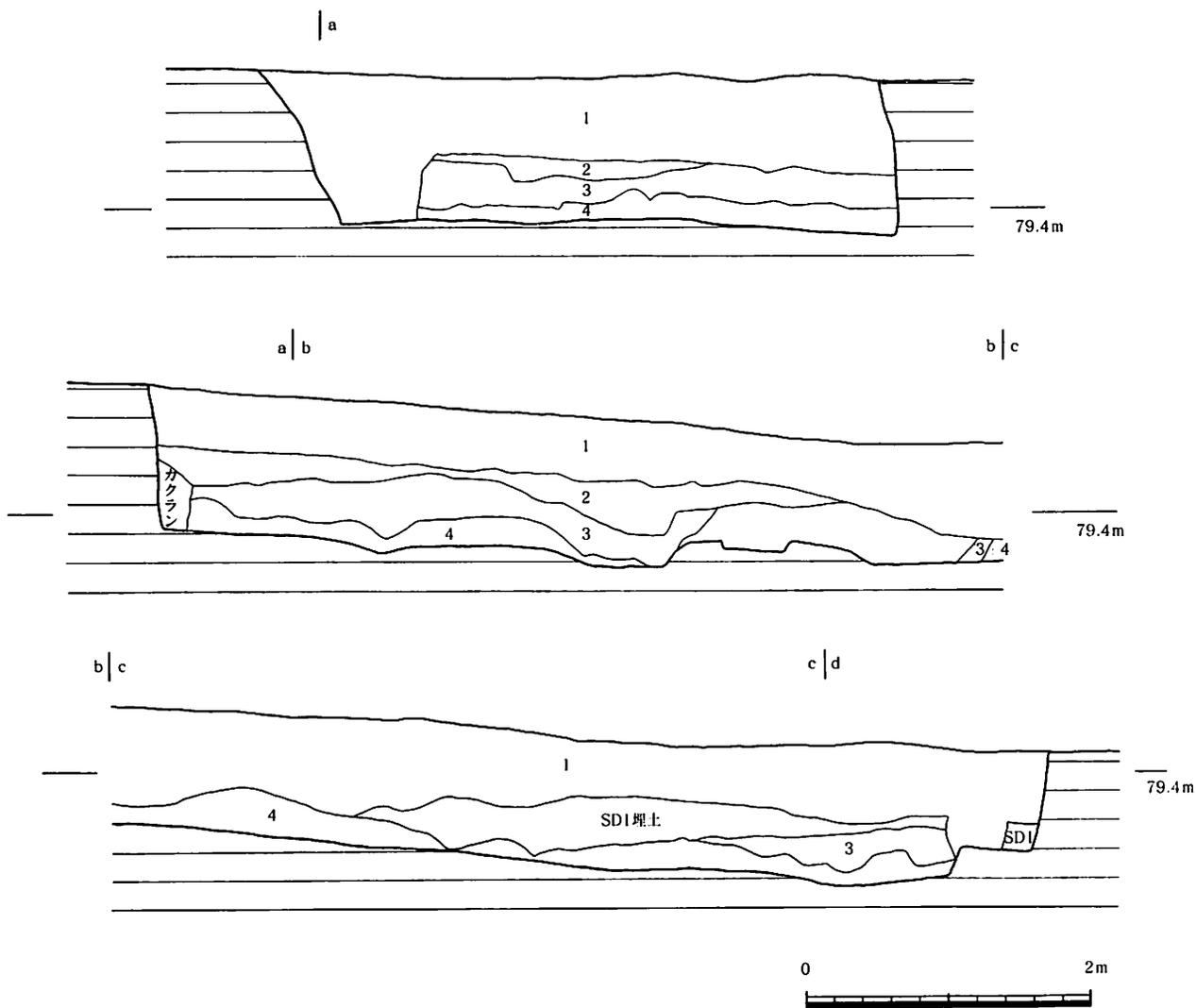


Fig.12 層位断面（東壁） S=1/50

大きさにはバラエティーがあり、粗いものから非常に細かいものまで見られる。

5 遺構

2層上面検出の遺構

SD1 (Fig.13A)

SD1は調査区の南東部で、表土層を除去した段階で検出された。北東から南西方向へのび、北西から南東方向へと落ち込んでいる。深さは、もっとも深いところで、37cmを測る（東壁断面Fig.12下段）。埋土は暗褐色（10YR3/4）を呈するシルト質土で、粘性をやや帯びている。砂粒などはほとんど見られない。1cm大までの橙色の粒子や2・3mm大の白色の粒子を含んでいる。調査区内では片側の立ち上がりのみしか確認されていない。各土層には砂粒が含まれることが多いが、溝状遺構にはほとんど見られない。また、造成される以前の地形図を参照すると、このあたりは、畑であったことがわかっている。これらのことから、SD1は溝状遺構ではなく、畑の段

落ちであった可能性も考えられる。

遺物は、古墳時代成川式1点 (Fig.25-69)、陶磁器類数点 (Fig.25-70~75) が出土し、少量の縄文土器胴部小破片も認められた。

3層上面検出の遺構

土壌状遺構 (Fig.13B, Tab.6)

3層上面で多数の土壌状遺構（ピット）を検出した。埋土はいずれも2層の土である。ピットは調査区の西側と東側に集中しているが、形態や大きさなどは一定しておらず、性格は不明である。土壌の深さを検出面からの比高差で示しておく (Tab.6)。いくつかの土壌状遺構（ピット）の埋土中からは、縄文早期土器が出土している (Fig.19-15・20, Fig.23-52など)。

地層横転 (Fig.13B・14)

遺構ではないが、地層横転が調査区の中央部やや南側、そして、調査区の南東隅から2カ所が確認された。検出した層は3層上面である (KD1, KD2)。

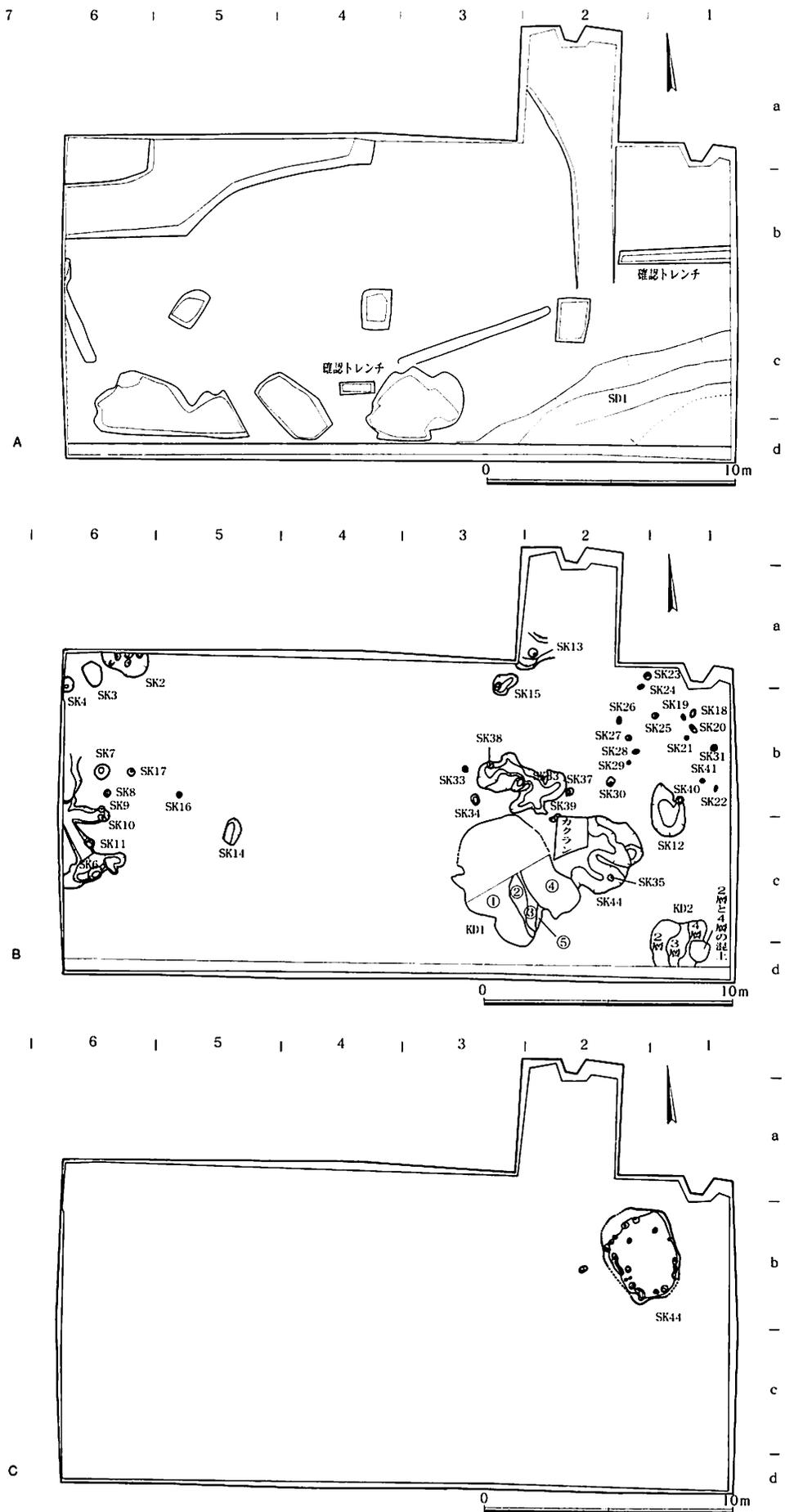


Fig.13 遺構 (A:2層上面・B:3層上面・C:4層上面) S=1/250

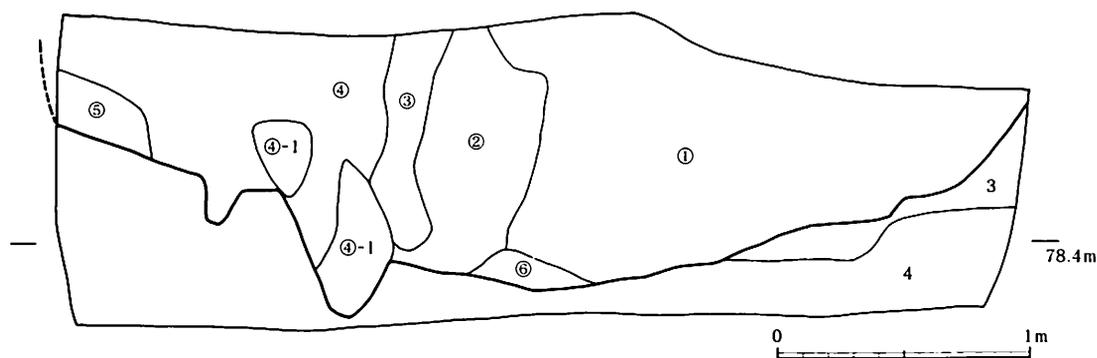


Fig. 14 地層横転 (KD1断面) S=1/30

Tab. 6 土層状遺構の深さ

遺構名	形状	深さ(m)	備考
SK1	不定形	未計測	擾乱土層のため削除
SK2	楕円形	0.203	土層内ピットの最深部を計測
SK3	楕円形	0.371	土層内の最深部を計測
SK4	ピット	0.238	
SK5	不定形	0.19	土層内の最深部を計測
SK6	不定形	0.811	土層内ピットの最深部を計測
SK7	ピット	0.23	
SK8	ピット	0.152	
SK9	ピット	0.24	
SK10	ピット	0.316	
SK11	ピット	0.4	
SK12	不定形	0.382	土層内の最深部を計測
SK13	不定形	0.835	土層内ピットの最深部を計測
SK14	楕円形	0.251	土層内の最深部を計測
SK15	不定形	0.474	土層内ピットの最深部を計測
SK16	ピット	0.2	
SK17	ピット	0.112	
SK18	ピット	0.215	
SK19	ピット	0.115	
SK20	ピット	0.379	
SK21	ピット	0.062	
SK22	ピット	0.209	
SK23	ピット	0.352	
SK24	ピット	0.095	
SK25	ピット	0.418	
SK26	ピット	0.139	
SK27	ピット	0.21	
SK28	ピット	0.375	
SK29	ピット	0.1	
SK30	ピット	0.404	
SK31	ピット	0.387	
SK32	不定形	0.516	土層内の最深部を計測
SK33	不定形	0.326	土層内ピットの最深部を計測
SK34	ピット	0.225	
SK35	ピット	0.188	
SK36	ピット	0.095	
SK37	ピット	0.208	
SK38	ピット	0.323	
SK39	ピット	0.452	
SK40	ピット	0.159	
SK41	ピット	0.108	
SK42	ピット	未計測	
SK43	ピット	未計測	

前者は、平面形は不定形であるが、隅丸の長方形に近い。長さ約3.0m、幅約2.4m、深さは約1mである。風倒木による地層横転である可能性が高く、その土層横転の状況から判断すると、倒木方向は、

南西方向である (KD1)。

層は、

- ①基本土層の2層に対応
 - ②2層と3層の混じったもの。粘性がなく、褐色7.5YR4/4をベースに、基本的には混ざりの少ないアカホヤ。①層もブロック状に含まれる。
 - ③基本土層の3層に対応
 - ④3層と4層の混じったもの。粘性はなく、黒褐色7.5YR2/2をベースに、サツマ火山灰ブロック (0.2~5cm大) を多く含む。
 - ④-1は、よりサツマ火山灰に近いブロック状の土。
 - ⑤2層と4層の混じったもの。粘性はなく、褐色7.5YR4/6ベースに、サツマ火山灰ブロック (0.5cm大) をごくわずかに含む。
 - ⑥2層と4層の混じったもの。粘性はなく、褐色7.5YR4/6ベースに、サツマ火山灰ブロック (1~3cm大) をごくわずかに含む。
- 3・4層は基本土層に対応する。
- 後者は、平面形が不定形だが円形に近く、長さ約2.4m、幅は不明、深さは未計測である。倒木方向は西方向と判断された (KD2)。

4層上面検出の遺構

竪穴住居跡 (Fig. 13C・15)

竪穴式住居跡 (SK44) が1軒検出された。検出面での規模は南北長約3.9m、東西長約2.9mを測り、プランは隅丸長方形を呈する。埋土は3層土であり、検出面から床面までの深さは約20~30cmであった。しかし、これはあくまで今回の検出面からの深さである。竪穴内の四壁に沿って15個ほどのピットを検出したが、これらが柱穴になるものと考えられる。床面から炉跡は検出されなかった。この住居跡の形態的特徴は、加栗山遺跡例³⁾に近似する。住居跡内の埋土からは石器や土器片が8点出土しており、その中には岩本タイプ (I類)・前平式土器 (II類) が含まれることから、この住居跡について

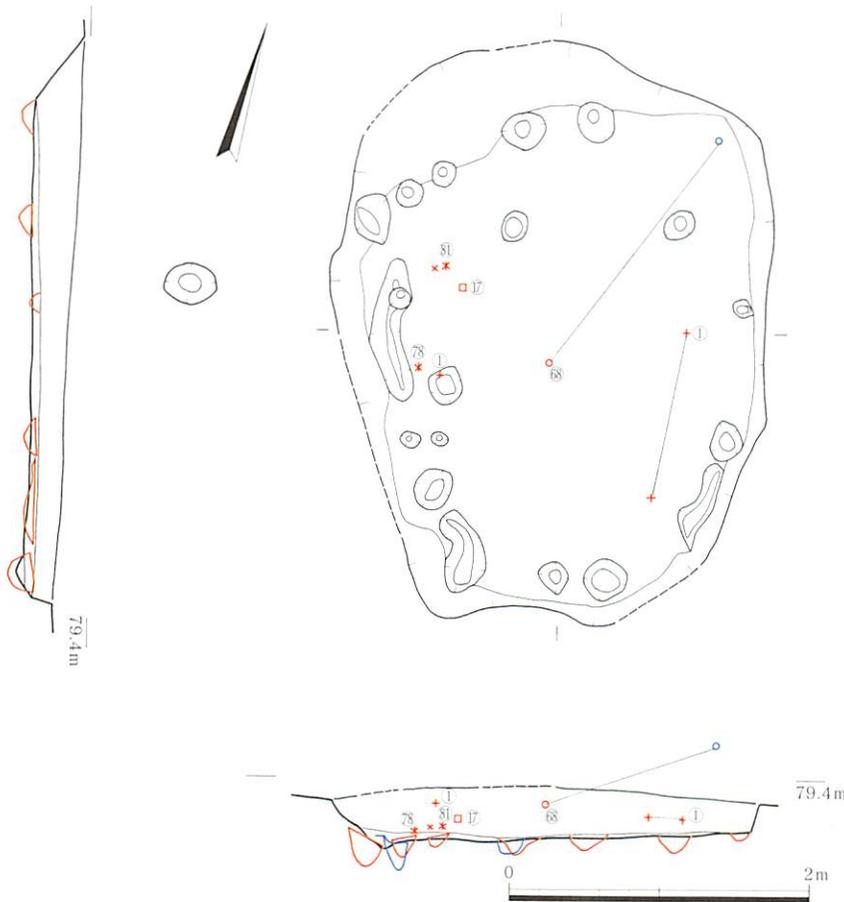


Fig.15 住居跡 (SK44) S=1/50 青は手前のピット, 赤は後ろのピット各見通し, 記号は Fig.16 凡例に同じ

は、縄文時代早期前葉の年代を想定したい。

住居検出面以下のレベルで出土した遺物は、図化可能なものが、土器 (Fig.17-1・Fig.19-17・Fig.24-68), 石器 (Fig.26-78・81) などである。しかしながら、Fig.17-1の土器は、KD1の土器と接合し、Fig.24-68の土器も、出土レベル差が最大50cm, 最大距離約10m離れた資料との接合関係にある (Fig.16)。検出面以下での出土状況は、床面近くにⅡ類があり、若干高い位置にⅠ類が出土していることは確認できる (Fig15)。しかし、ほとんどが破片資料であることから、住居跡内に入り込んでいる土器の大半は、自然埋没する過程の住居跡の凹地に流れ込んだことによるもの、と判断した。

6 出土遺物

本地点からは全部で約700~800点の遺物が出土した。そのうちのほとんどは土器片であるが、石器も少量見られる。出土した土器のほとんどは縄文時代早期の前平式土器と呼ばれるものである。多くは円筒形を呈するが、角筒と呼ばれるものも少量見られる。施文方法や、口縁部の形態にはいくつかのバリエーションが認められる。

最も多くの遺物を包含していたのは3層である

が、2層のアカホヤや4層の薩摩火山灰層からも、わずかではあるが出土している。層による遺物の時期差は認められないため、3層からの混ざりこみの可能性は否定できない。遺物の接合関係を検討したところ、調査区の東半部に遺物が集中している、という以外に、特に有意な結果は得られなかった (Fig.16)。

土器 (Fig.17~25, Tab.7~9)

1) 縄文時代

本調査区資料の縄文土器は、早期前葉段階に属する「貝殻文系円筒土器」のうち、前平式土器に当たるものがほとんどを占める⁴⁾。以下、口縁部、胴部、底部資料の順に記す。

①口縁部資料ほか

Ⅰ類— 口唇部に工具を

強く押しつけ、鋸歯縁を形成するもの。一般的に「岩本タイプ」⁵⁾と呼ばれる土器である (1)。

Ⅱ類— 貝殻の縁辺部の刺突によって、口縁部上半文様を描くもの。手法によって、細分した。

a) 貝殻縁刺突によって、一~二段の文様を巡らす。刺突文は、一つ一つが独立し離れるものと、切り合うものがあり、並びは、刺突が口唇部と垂直なもの、斜位のものがある。口縁部下半文様として、貝殻縁による横位貝殻刺突文を一~二段巡らせるものもある。また、貝殻条線を胴部に施すものもある (2~14)。

b) やや押し引き手法のように刺突幅の拡大するもので、正確には器面から一端引き抜いているようである。よって、「押し引き状文」と呼んでおく。基本的には、二段構成で、口縁部に横位に押し引き状文を巡らすすが、縦位に巡らすものもある。口縁部下半の貝殻縁による横位刺突文は見受けられないが、胴部へ貝殻条線を施すものも多く、刺突文を施すものも認められる (15~20, 23・24)。

c) 貝殻の殻頂部を押し当てることによって施文するもの。円形の沈文になる。資料数は少ない (21・22)。

Ⅲ類— ヘラ状工具による刺突文によって、口縁部

凡例

- 土器
- ◆ IIc類
- ▲ I類
- IIa類
- IIb類
- 赤は遺構、緑はIII層、青はII層出土。黒は層位不明。
- ▲ 遺構の灰色は、III層上面検出。黒はIV層上面。
- 10、64土器は、原位置不明。

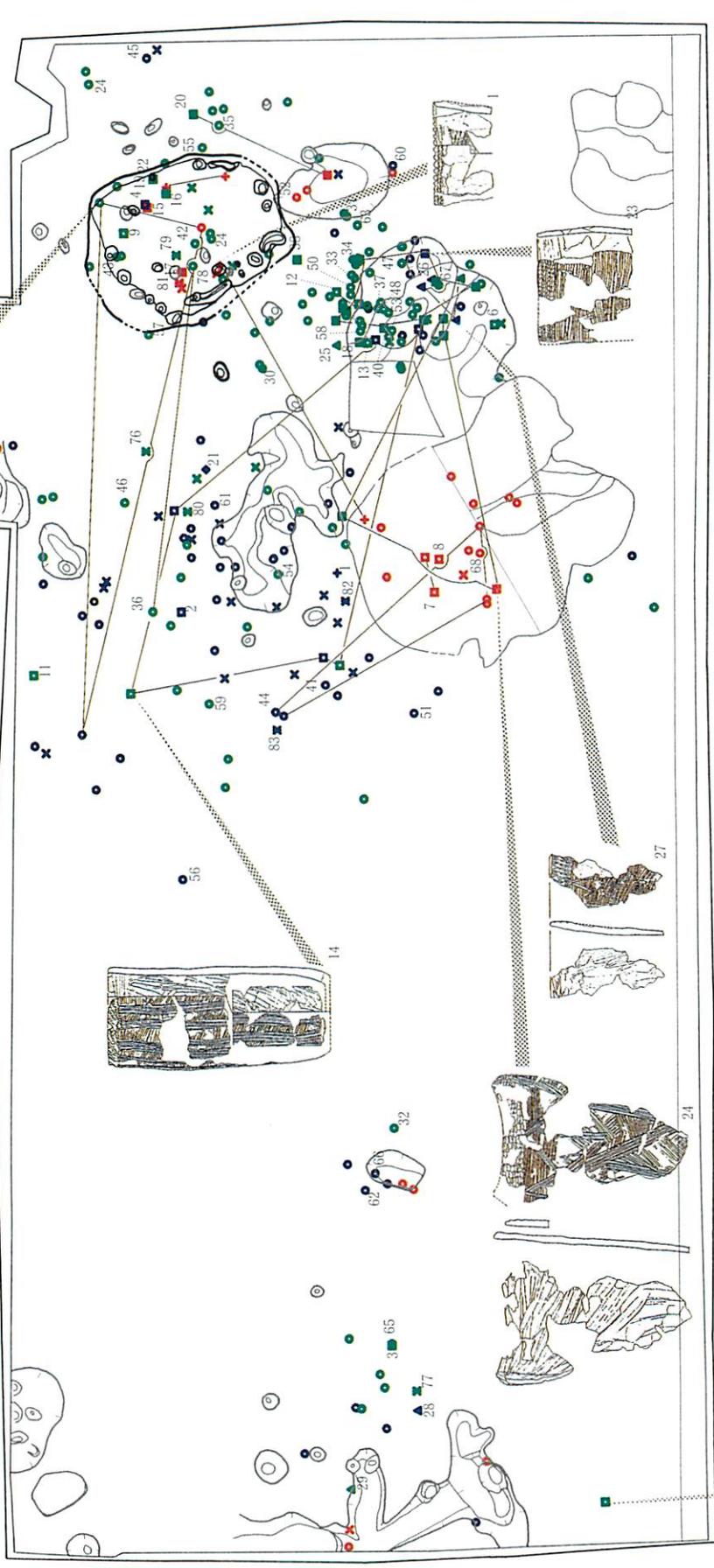


Fig.16 遺物接合関係S-1/120

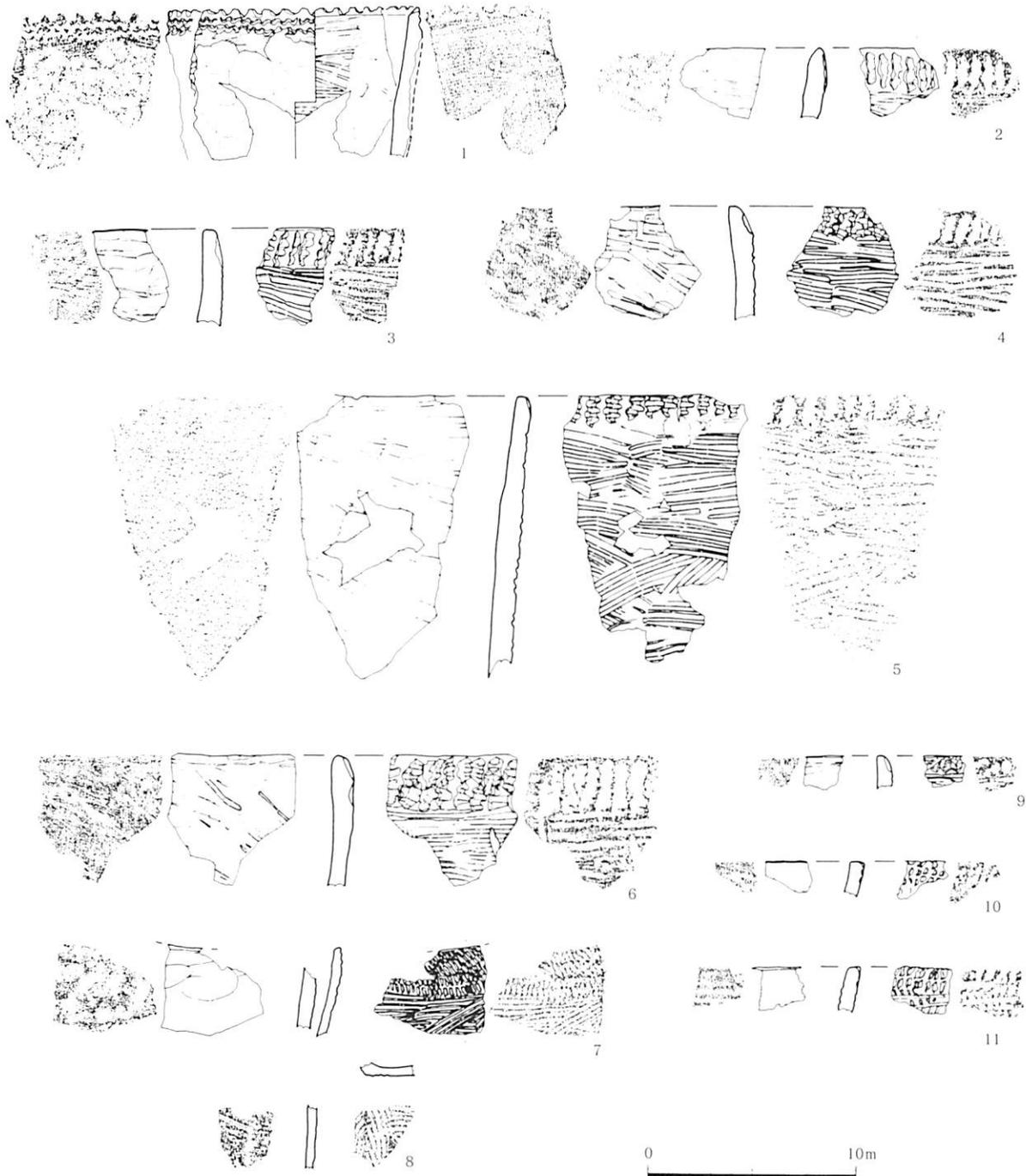


Fig. 17 土器(1)S=1/3 I類(1), IIa類(2~11)

上半文様を描くもの。文様個々は、独立したものや、切り合うものがある。文様列の並びは、口唇部と垂直なもの、斜位のものがある。口縁部下半文様である横位刺突文を一段巡らせるものもある。胴部に、ヘラ描きによる鋸歯文を巡らすものも認められる(25~29)。

このⅡ・Ⅲ類は、従来の前平式の範疇にあると考えられる。

I類

1は、口径約12cmの、比較的小型に属するタイプである。外面はほとんど焼成時のハジケと思われる外器面の剥落に覆われており、地文が定かではないが、わずかに残存する部分から思料して、先端の柔

軟な植物質の工具で調整されているものと考えられる。口唇部の造りは、断面形状が内面側に傾斜し、また、口唇部を丸みのある工具によって外面側から押さえることにより、鋸歯状口縁を呈している。口縁端部には横位の貝殻刺突文を二条巡らし、右から左方向の施文であると考えられる。裏面は表面と同様の工具によって調整されている。工具幅は1cm前後のようである。

IIa類

2は、横位の貝殻条痕を地文とし、比較的大型の貝を立てて貝殻刺突文を巡らす。刺突し、引き抜いている方向から見て左から右への施文である。裏面は荒れており調整は不明瞭だが、引きずられている

混和材の方向から見て、右から左方向に施されているものと考えられる。

3は、横位の貝殻条痕を地文とし、縦位の貝殻刺突文を左から右方向へ巡らすものである。裏面は荒れているが、ヘラナデを横位に施しているようである。

4は、横位の条痕を地文とし、口縁部に縦位の貝殻刺突文を巡らすもので、引き抜く方向から見て、右から左方向へと巡らしている可能性がある。裏面は、ヘラナデを右から左上方向へ施し、口縁端部付近は横位のヘラナデが施される。

5は、横・斜位の条痕を地文とし、特に資料の下半では、綾杉文状に重なることから、文様として意識している可能性もある。口縁端部には左から右方向へと貝殻刺突文が巡らされる。裏面には右下から左上方向へと目の細かい擦過があり、口縁部付近は横位に施されるようである。しかし、器面の荒れによって調整工具は不明瞭である。

6は、横位の貝殻条痕を地文とし、口縁部に貝殻刺突文を二段に巡らすものである。施文方向は、引き抜きから見て左から右であると考えられる。上下段の新旧関係は、一部の切り合いから見て、下から上であると思われる。また、擦り切り技法による穿孔の一部が残っている。焼成後穿孔である。裏面はヘラナデが横・斜位に施される。

7は、口縁形状の歪み、口唇縁の傾斜などから考えて、角筒形土器になる可能性がある。口唇部は平坦だが、内面に向かってやや傾斜している。外面の地文は、横位の貝殻条痕が施されるが、斜位に貝殻条線が施されている。文様は貝殻ともヘラ状工具とも判断のつかない刺突文が施されているが、切り合いが不明瞭なため、文様単位が分からず構成も不明確である。内面の器面調整は、右から左へのやや強めのヘラナデが施されている。

8は、胴部資料であるが、胎土、器面調整の特徴、器厚などが7と合致している。角筒土器であることを示すコーナーが形成され、その部分の外面は斜位の貝殻条痕が施されている。

9は、資料が小さく判然としないが、横位の貝殻条痕を地文とし、口縁端部に刺突文を施文する。施文具は小型の貝と思われる、それを縦に連続して巡らすようである。資料左端の部分で、その上から施される文様に切られることから、右から左方向への施文であると考えられる。裏面には細かい条痕状の跡が残り、施文具と同様のものではないかと考えられる。

10は、小破片であり、器面の荒れがひどいが、諸特徴は11と合致し、同一個体であると類推される。

11は、口唇部を平坦に形成するが、内面に向かってやや下り気味になっている。外面は貝殻条痕を横位に施し、比較的浅い貝殻刺突文が二段巡らされる。上段目は、右上がりの斜位の刺突がなされ、それが口唇部にまで及んでいるため、鋸歯状に形成されているように見える。そういう要素からは、I類との近似性が窺える。二段目は縦位に施されている。上下段の切り合いは不明瞭だが、刺突文個々は、左から右周りに巡らされるようである。内面は貝殻条痕の後、指ナデを施しているようであるが、小破片のため判然としない。

12は、下から左斜め上方へむかう貝殻条痕を地文とし、口縁部に、貝を縦にして貝殻刺突文を施文するものである。施文具である貝の引き抜き方から見て、右から左巡りの可能性がある。その直下に横位の貝殻刺突文を一条巡らす、その方向は不明である。裏面は荒れているが、ヘラナデによって下から左斜め上方向へと調整されるようである。

13の諸特徴は、14に近似し、同一個体であると考えられる。

14は、ほぼ全形の窺える円筒形土器である。口径約11cmである。横・斜位の貝殻条痕を地文とし、その上から貝殻条線を五月雨状に巡らしている。地文というよりも文様を意識しているように思われる。口縁端部には、斜位の貝殻刺突文を巡らし、横位の刺突文をその直下に一条巡らしている。裏面は、縦・斜位のヘラ削りを施した後、口縁部は横位のヘラナデを荒く残している。

II b類

15は、横・斜位の貝殻条痕を地文とし、小型の貝(?)による押し引き状文を、下から上方向へ二段巡らすものである。裏面は、ヘラナデを右下から左上方向へと施した後、口縁端部には横位のヘラ削り痕を明瞭に残す。

16は、口唇部を平坦に整形するもので、外面は、文様帯で破損しているために、地文は不明である。文様は、肋の荒い貝によって施される貝殻押し引き状文が二段認められるが、本来、何段構成になっていたのかは不明である。左から右方向であると考えられる。上下段の順序は不明確である。裏面は横位のヘラナデが施される。

17は、口唇部を平坦に面取りし、浅い貝殻刺突文を施している。外面の地文は、横位の貝殻条痕で、口縁端部には貝殻押し引き状文を口縁部に二段巡らす。下段から上段の順に施されている。その直下には横位の貝殻刺突文を一条巡らす。また、胴部に貝殻刺突による鋸歯文状の文様が施されていたようである。裏面は、横位のヘラナデが認められる。

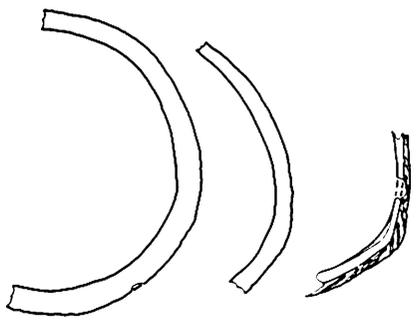
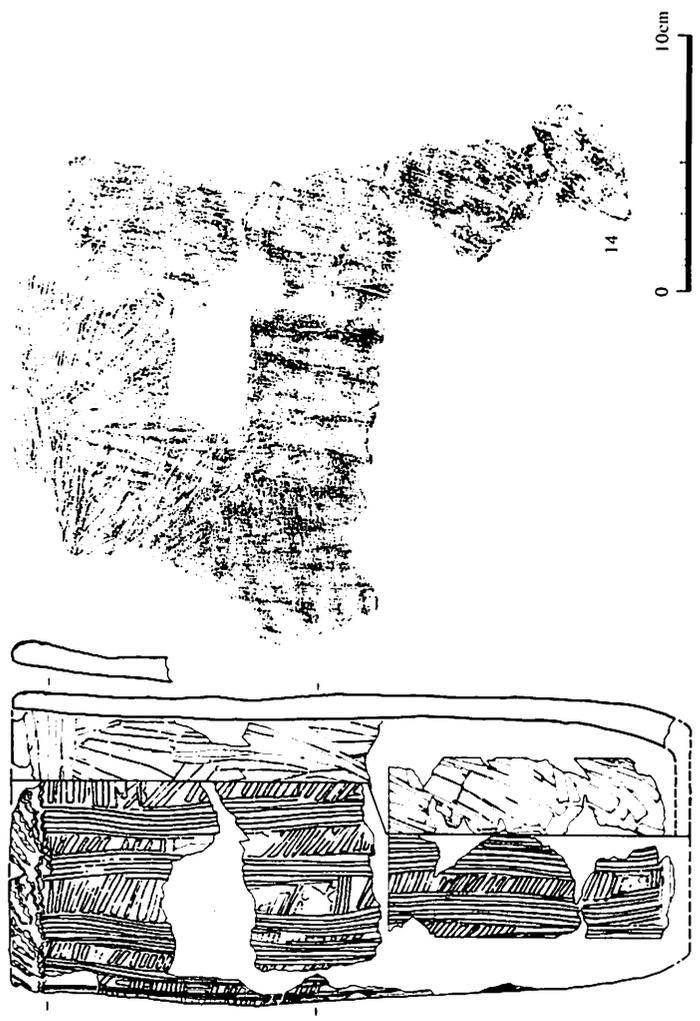
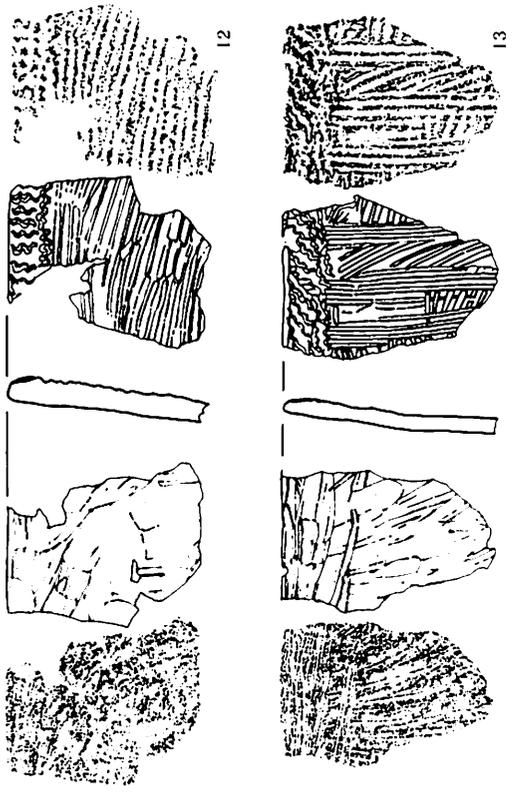


Fig. 18 土器(2)S=1/3 IIa類 (12~14)

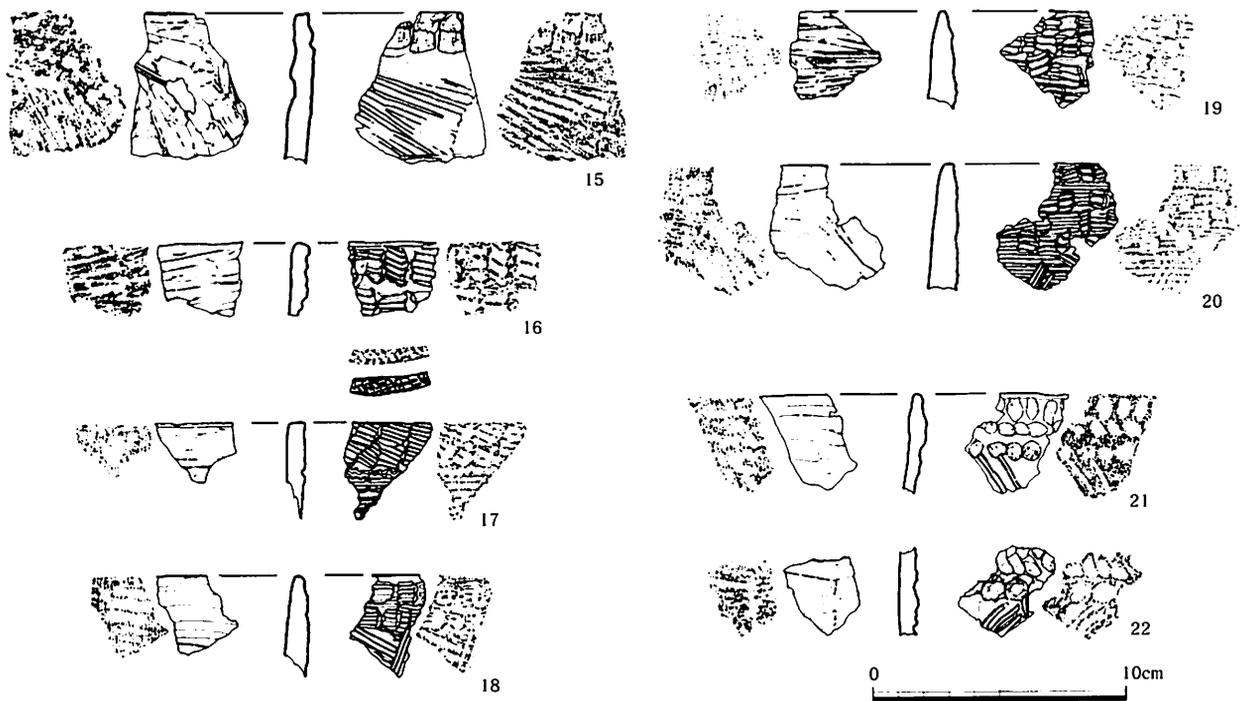


Fig.19 土器(3) IIb類 (15~20)、IIc類 (21・22)

18は、外面が貝殻条痕を地文としており、ほぼ垂直に条線状に施されるものもある。口縁端部には左から右方向への貝殻押し引き状文が二段施されており、下段から上段の順である。裏面は、横位の浅いヘラ削りが比較的良好な状況で残存しており、工具幅は5mm前後である。

19は、口縁部断面形状が先細り状に形成されるが、端部は幅狭の平坦部を有している。文様帯で破損しており、外面の地文は不明確である。文様は横位の貝殻押し引き状文が四段認められるものの、本来の構成は不明である。押し引き状文は、全段とも間断があり、18とは異なり、ややランダムに配されている。裏面の調整は、幅1cm前後の植物質の工具による、浅い擦過が横位に認められる。

20は、口唇部は先細り状であるが、押さえによって幅の狭い平坦部を形成している。外面の地文は横位の貝殻条痕を施し、貝殻条線によって鋸歯文を描くようである。口縁部は貝殻押し引き状文を横位に四段巡らす、全段ともに断続的に配され、その押圧部は、上下段が交互に配置されている。裏面は、浅いヘラナデ状の調整を斜位に、口縁部付近は横位に施される。

23は、円筒形土器で、口径約14cmである。口唇部は平坦に形成されている。外面の地文は横位の荒い貝殻条痕である。口縁部は、横位の貝殻押し引き状文が間断なく、二段構成で描かれている。文様の方向は、貝の引き抜き方から見て、左から右方向であると考えられるが、上下段の順序については不明確

である。裏面は、器面が荒れており調整が不明瞭であるが、細かい擦過が認められる。なお、胴部において、4箇所につき切り穿孔が認められる。

24は、角筒形土器である。角部が波状口縁の頂部になっている。口縁部付近は、比較的角張っているが、胴部に移行するにつれやや丸みを帯びているものと考えられる。口唇部は、平坦面が形成されている。外面の地文は、横・斜位の貝殻条痕を施した後、直位の貝殻条線、菱形状の貝殻条線などを施し、文様を意識していると考えられる。口縁部文様は、貝殻押し引き状文を三段構成で口唇部に沿って施している。文様の方向は左から右方向になっているが、器面が荒れているため、上下段の順序については定かではない。内面は比較的深めのヘラ削りを右から左方向へ施し、胴部下位では左上がりの調整になっている。

IIc類

21は、全体的に器面が荒れており、小破片のため不明確ではあるが、口唇部が舌状に形成されるもので、口縁部文様は、貝殻腹縁部の押圧、あるいは貝殻頂部の押圧を三段巡らすものと考えられる。地文については器面の荒れのためか判然としない。しかし、資料下位に、斜位のヘラ状の併走する浅い沈線文が描かれている。裏面も荒れており、調整が判然としないが、横位方向の幅広の擦過が認められる。

22は、文様、器厚、胎土、色調などは21に近似する口縁部付近の資料であるが、同一個体であるとは

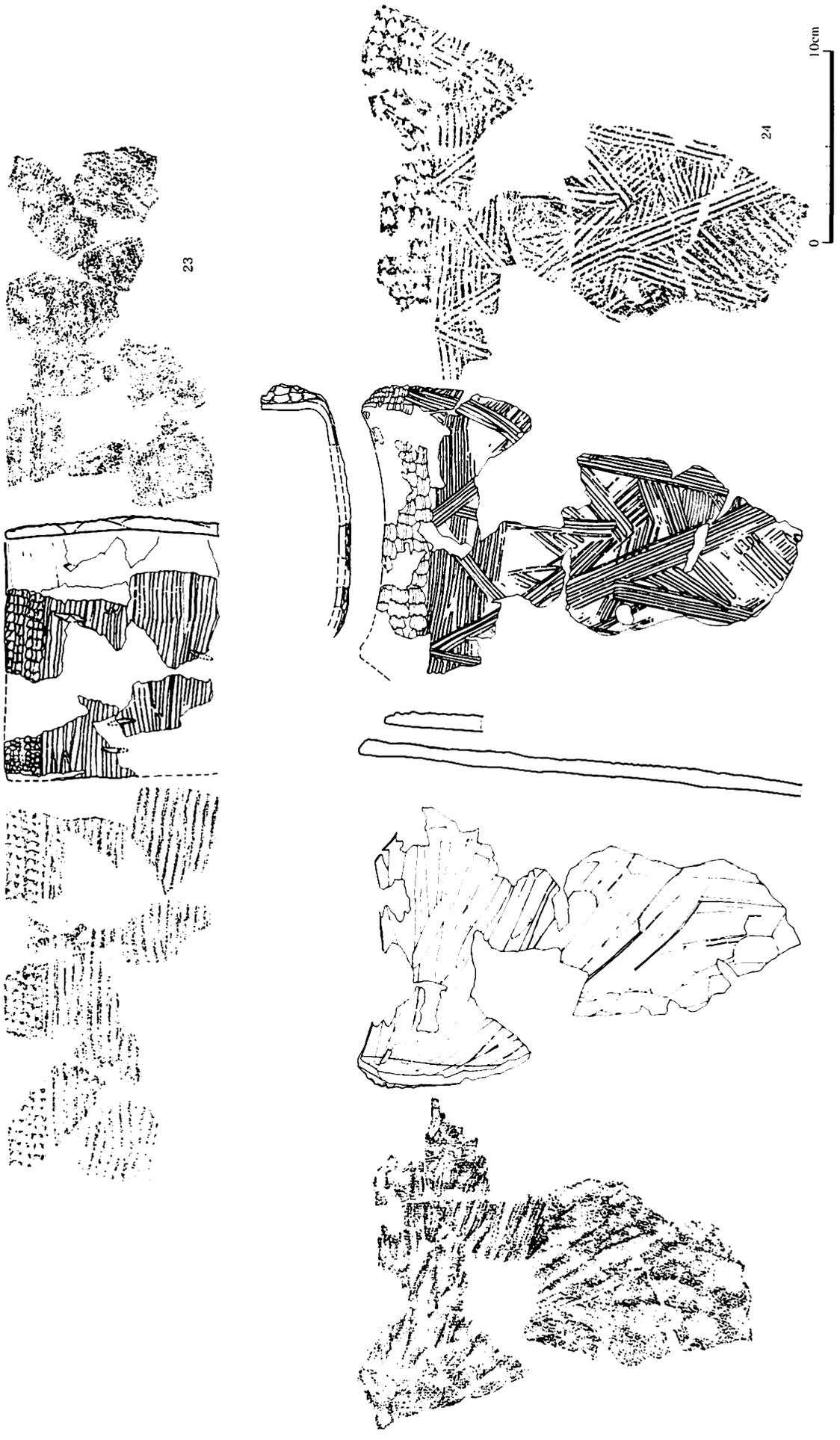


Fig. 20 土器(4)S=1/3 IIb類 (23・24)

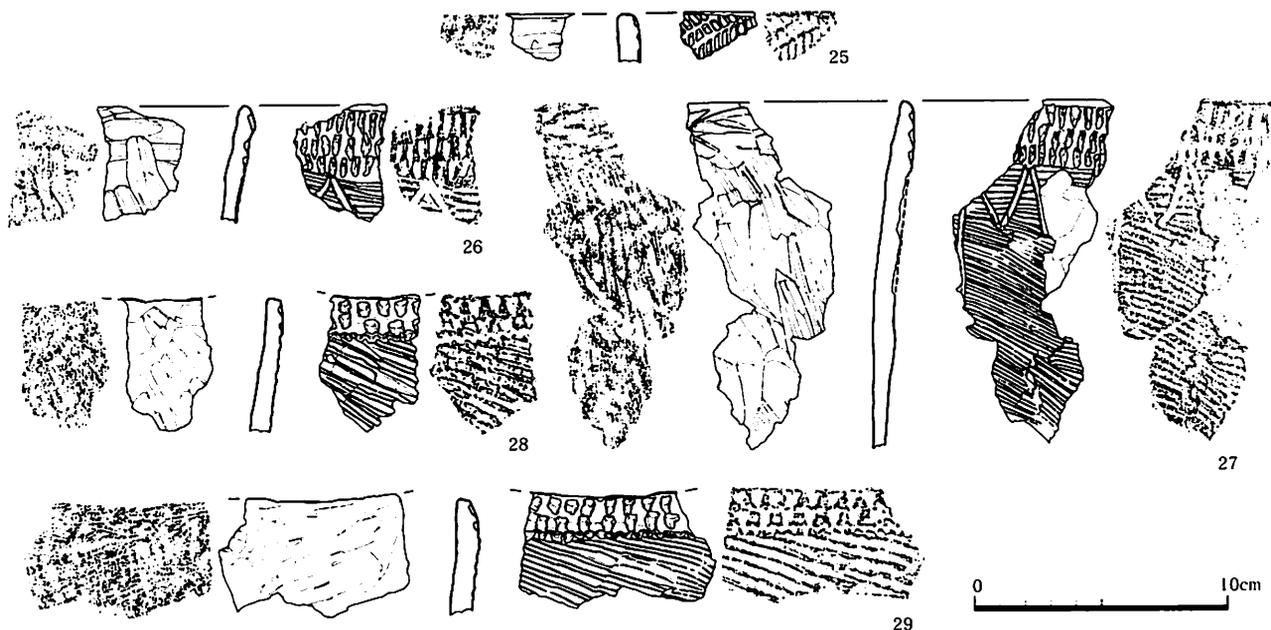


Fig. 21 土器(5)S=1/3 III類 (25~29)

確言できない。外面地文は、斜位の貝殻条線らしきものが認められるほかは、不明瞭である。文様は、小型の貝の殻頂部ではないかと思料されるものの、単なる押圧ではなく、やや反時計回りに工具を捻りながら施文している。外面の調整は、横・斜位の幅広の擦過が認められる。

Ⅲ類土器

25は、口唇部が押さえられるものの、丸みを帯びて形成される。文様部分で破損しているために、不明瞭だが、ヘラ状工具による刺突文が斜位に、羽状文のように配置されている。内面は、浅いヘラナデ状の調整がなされる。

26は、諸特徴が27と合致し、同一個体と考えられる。

27は、口唇部を外面向かって傾斜するような舌状に形成したものである。外面地文は、横・斜位の貝殻条痕である。口縁部はヘラ状工具による刺突文が三段巡らされており、その直下にヘラ状工具による鋸歯文が巡る。刺突文は、やや斜め下から器面向かって刺突されるが、三段の施文順序は不明確である。鋸歯文の描く方向も判然としない。裏面の器面調整は、比較的深めに施される。胴部は縦位のヘラ削りが施され、口縁部付近は横位方向に施されている。混和材の引きずられ方から見て、胴部は下から上へ、口縁部は右から左へと調整されている。

28は、波状口縁部でないが、他の諸特徴が29に合致しており、同一個体であると目される資料である。

29は、口唇が平坦に形成され、貝殻肋を斜位に押

し当てている。口唇縁がやや波状を呈することから、角筒土器の特徴も備えている。外面の地文は粗い貝殻条痕を左上がりに斜位に施している。幅5mm前後のヘラ状工具によって、器面に対してやや下斜めから刺突し、二段巡らしている。その直下には、横位の貝殻刺突を一条巡らしている。裏面は荒れており、幅広の工具による擦過が認められる。

②胴部資料

胴部資料は、小破片が多い。よって残存部の調整と文様の特徴から、四類に分類した。

I類

I類は、植物質の先端の柔軟な工具によって施された擦痕を地文とするものである(30・31)。表裏面ともに横位に施される。出土量は少なかった。

II類

II類は、横位・斜位の単純な貝殻条痕を地文とするもの(32~40)。基本的には、縦・横・斜位の単純な条痕調整をするが、その原体である貝殻縁の粗密がある。出土量は、比較的多い。

III類

III類は、煩雑な貝殻条痕を施して地文とするもの(41~48)。出土量は比較的多い。

IV類

IV類は、地文である貝殻条痕の上から、貝殻条線・列点などを施し、規則性のあるモチーフを意図したと考えられるものをまとめた(49~58)。50・51などは縦位の貝殻条線を施すものである。52は縦位の貝殻条線に、縦位の列点文を並走させるものであり、53は五月雨状の縦位列点の傍らに鋸歯文を描



Fig.22 土器(6)S=1/3 胸部Ⅰ類(30・31)、Ⅱ類(32~40)、Ⅲ類(41~48)

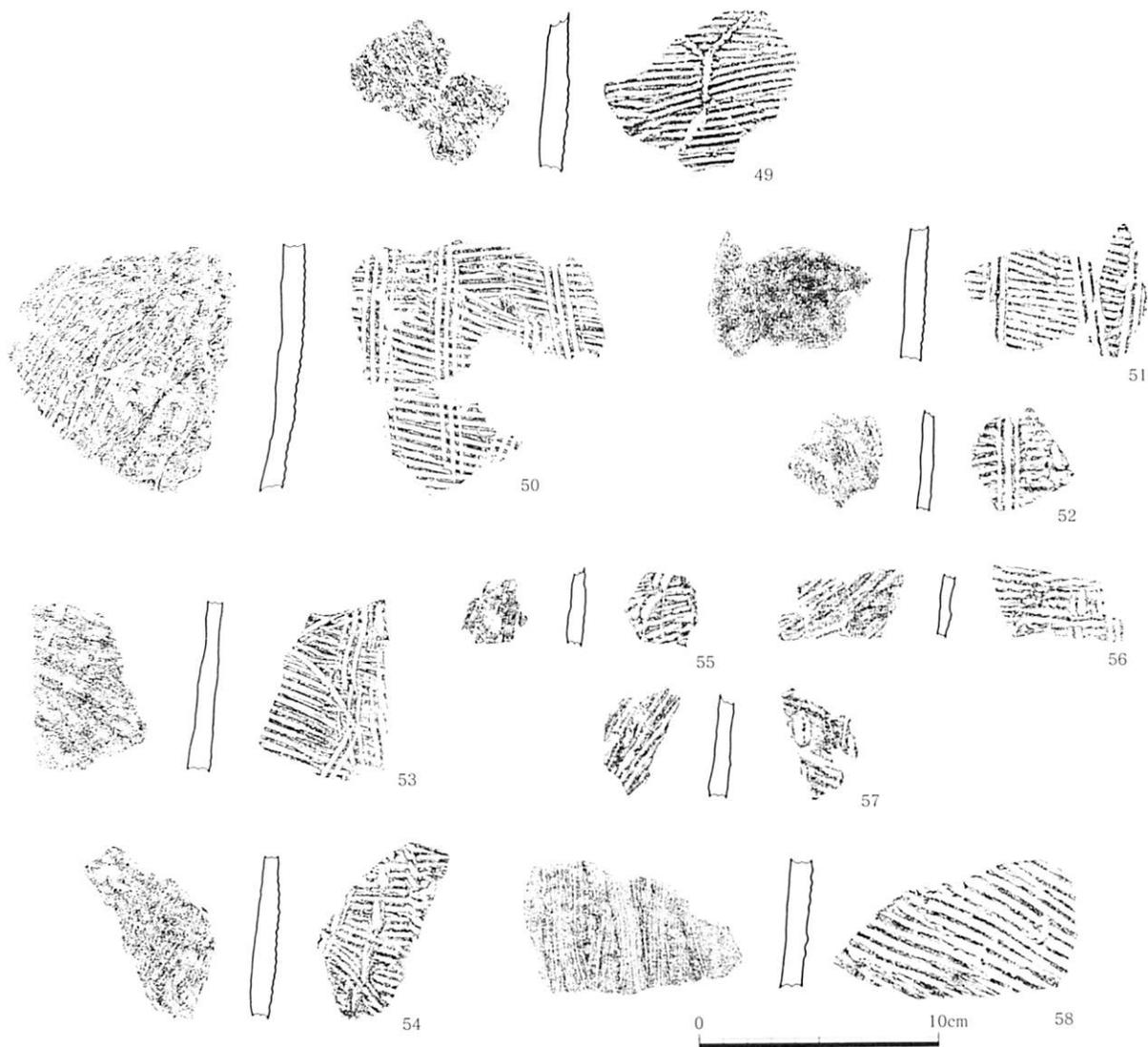


Fig.23 土器 (7) S=1/3 胴部Ⅳ類 (49~58)

いている。54は列点を縦走させ、三又に垂下させる。55~58は列点文であるが、ほとんどが二単位なのに対し、58のみが一単位である。出土量は比較的多い。

③底部資料

底部資料は、立ち上がり部の調整の状況によって、三類に分類した。

I類— 底部立ち上がり部と接地面の角付近まで器面調整が及ばないもの (59~63)。

II類— 調整が横位・斜位に底部角まで施されるもの (64・65)。

III類— 底部角の調整が立ち上がり部で縦位に施されるもの (66~68)。

I類

59は、底径約9cmを測る。接地面と立ち上がり部との角は、シャープである。外面の残りが悪く、詳

細は不明である。底面は、ランダムにヘラナデ状の擦過が認められる。内面はナデ調整のようであり、立ち上がり部に指頭痕が残っている。

60は、底径約10cmを測る。接地面と立ち上がり部との角は、シャープである。外面調整は、ヘラナデ状の擦過が横位に認められるが、底面については不明瞭である。内面は、粘土接合部も消されずに残っており、底面へ胴部の粘土を押しつけたようになっている。その部分まで貝殻条痕が認められ、比較的粗い調整のみで終えたものであろう。

61は、内外面ともに荒れているため、詳細は不明確だが、外面は横位にヘラ調整状の擦過が認められる。

62は、外面調整が縦位・横位に施される。立ち上がり部は横位に指ナデされている。底部を接着した際の指頭痕が認められる。底面は比較的丁寧に調整

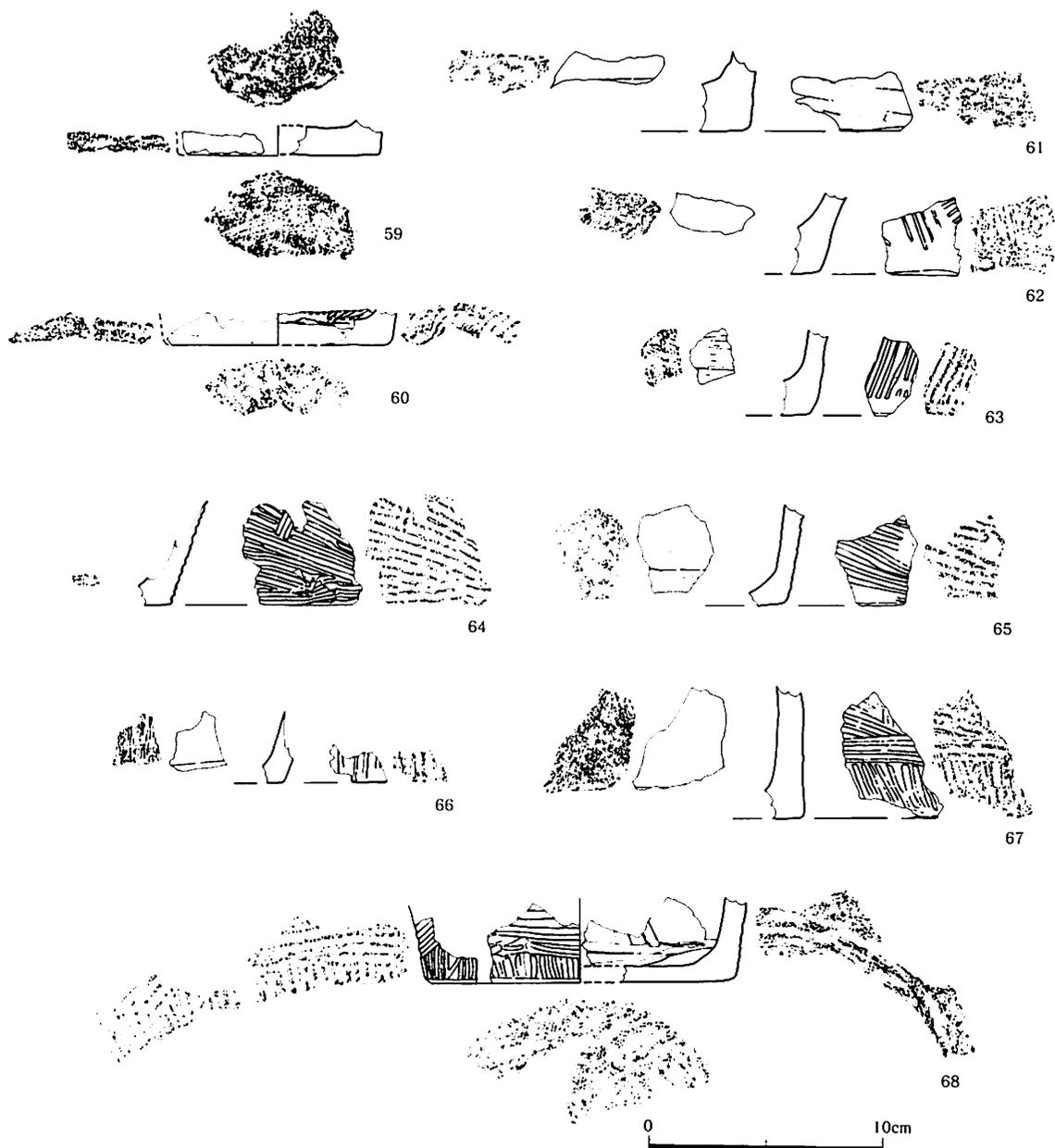


Fig. 24 土器(8)S=1/3 底部Ⅰ類 (59~63)、Ⅱ類 (64・65)、Ⅲ類 (66~68)

され、磨かれたようになっている。内面も丁寧に指ナデ調整される。

63は、外面に斜位の貝殻条痕を施した後、立ち上がり部角をヘラ状の工具によって、横位に搔き取っている。底面・内面については、ヘラナデ状の擦過が残り、内底面はナデられる。

Ⅱ類

64は、外面に粗い貝殻条痕が横・斜位に施される。胴部に近い部分には、貝殻条線が二条認められる。接地面と立ち上がり部との角は、シャープである。底面はヘラナデが比較的強く施され、内面もまた同様である。

65は、外面に斜位の貝殻条痕が施される資料で、

底面については不明瞭である。内面は横位のヘラナデ状の擦過が残る。

Ⅲ類

66は、残りが悪く、詳細は不明確だが、角部に、明瞭な縦位の縦位の貝殻条痕が施されていることから、ここに含めた。角はシャープに形成されている。外底面は、ヘラナデ状の擦過が施されている。内面は縦位のヘラナデ状の擦過が認められるが、その後丁寧にナデられたように非常に滑らかである。

67は、底面接地部と立ち上がり部を縦・斜位に貝殻条痕を施した後、横・斜位に施される。外底面は磨かれたか、器面が潰れたように滑らかになっている。内面は横位の非常に浅い擦過が認められ、ナデ

Tab.7 土器観察表(1)

No.	層	種別	器種	色調	混和材	混和材の多さ	調整	備考
1	KD1-3層,SK44	I類	深鉢口縁部	外面:にぶい橙褐色7.5YR6/4.内面:にぶい黄褐色10YR5/3.肉:黒色10YR2/1	礫:角閃石.粗砂:石英・白色粒・黒色粒	3	外面:繊維質工具による擦痕.内面:繊維質工具による擦痕.	小型土器.外面に破裂痕
2	2層	IIa類	深鉢口縁部	外面:にぶい褐色7.5YR5/3.内面:5YR6/6.肉:緑黒色10GY2/1.	粗砂:石英;多・白色;多・黒色;多	9	外面:貝殻条痕.内面:ヘラナデーナデ?	摩耗
3	3層	IIa類	深鉢口縁部	外面:明黄褐色10YR7/6橙褐色2.5YR6/6.内面:黒色10Y2/1主体に明黄褐色10YR6/6.肉:暗灰色2.5YR5/2.	礫:白色粒.粗砂:角閃石・石英.細砂:黒色粒.	3	外面:貝殻条痕.内面:ヘラナデーナデ.	煤の付着
4	2層	IIa類	深鉢口縁部	外面:にぶい黄褐色10YR5/3.内面:10YR6/5.肉:緑黒色10GY2/1.	礫:黄色.粗砂:石英・白色・黒色	2	外面:貝殻条痕.内面:ヘラナデ.	
5	3層	IIa類	深鉢口縁部	外面:黄灰色2.5Y4/1.内面:にぶい橙褐色7.5Y7/4.肉:にぶい橙褐色7.5YR6/4.	礫:白色粒・赤色粒.粗砂:石英;多・黒色粒;多・灰色粒・白色粒	8	外面:貝殻条痕.内面:ヘラナデーナデ?	やや摩耗気味
6	3層	IIa類	深鉢口縁部	外面:にぶい黄褐色10YR7/4黒褐色10YR3/2.内面:にぶい黄褐色10YR6/4黒褐色10YR3/2.肉:黒色10Y2/1.	礫:白色粒.粗砂:石英;多・黒色粒	6	外面:貝殻条痕.内面:ヘラナデーナデ.	やや摩耗気味.煤の付着
7	KD1-2・3層	IIa類	深鉢口縁部	外面:にぶい黄色2.5Y6/4.内面:浅黄色2.5Y7/4.肉:浅黄色2.5Y7/4.	粗砂:石英・黒色粒	2	外面:貝殻条痕.内面:ナデ?	煤の付着
8	KD1-2層	IIa類	深鉢胴部	外面:にぶい黄色2.5Y6/3.内面:にぶい黄褐色10YR4/3.	粗砂:石英・黒色粒	2	外面:貝殻条痕.内面:貝殻条痕.	
9	2層	IIa類	深鉢口縁部	外面:明赤褐色5YR5/6.内面:にぶい橙褐色7.5YR2/1.肉:黒色7.5YR2/1.	粗砂:石英・白色粒・黒色粒		外面:貝殻条痕.内面:貝殻条痕?	
10	2層	IIa類	深鉢口縁部	外面:橙褐色5YR6/6.内面:黄褐色10YR8/6.肉:オリーブ黒色5Y3/1.	粗砂:石英・白色粒・黒色粒;多	5	外面:?.内面:貝殻条痕?.	やや摩耗気味
11	3層	IIa類	深鉢口縁部	外面:橙褐色5YR6/6.内面:橙褐色5YR6/6.肉:オリーブ黒色5Y3/1.	粗砂:石英・白色粒・黒色粒;多	5	外面:貝殻条痕.内面:貝殻条痕?.	やや摩耗気味
12	2層	IIa類	深鉢口縁部	外面:黒褐色2.5Y3/1.内面:黒褐色2.5Y3/1.	粗砂:石英		外面:貝殻条痕.内面:ヘラナデーナデ.	摩耗気味
13	3層	IIa類	深鉢口縁部	外面:黒褐色2.5Y3/1.内面:橙褐色7.5YR6/6.	礫:白色粒.粗砂:石英・黒色粒		外面:貝殻条痕.内面:ヘラ削り.	
14	攪乱層・2・3層	IIa類	深鉢口縁部	外面:橙褐色5YR7/6浅黄褐色10YR8/4.内面:にぶい黄褐色10YR6/4暗灰色2.5Y4/2.肉:黒褐色2.5Y3/1.	礫:白色粒.粗砂:石英・黒色粒;多	4	外面:貝殻条痕.内面:ヘラ削り.	煤の付着
15	SK25	IIb類	深鉢口縁部	外面:橙褐色7.5YR6/6.内面:黒色10Y2/1浅黄色2.5Y7/4橙褐色7.5YR6/6.肉:浅黄色2.5Y7/4.	礫:白色粒.粗砂:石英		外面:貝殻条痕→ナデ.内面:ヘラ削り.	
16	3層	IIb類	深鉢口縁部	外面:黒褐色10YR3/1にぶい黄褐色10YR6/4.内面:にぶい黄褐色10YR6/4暗灰色10YR4/1.肉:黒褐色10YR3/1.	粗砂:黒色粒		外面:?.内面:ヘラナデーナデ.	
17	SK44	IIb類	深鉢口縁部	外面:にぶい黄褐色10YR5/3.内面:にぶい黄褐色10YR5/3.	礫:白色粒.粗砂:石英・白色粒・赤色粒		外面:貝殻条痕.内面:ヘラナデーナデ.	
18	3層	IIb類	深鉢口縁部	外面:橙褐色5YR6/6.内面:橙褐色5YR6/6.肉:黒色5Y2/1.	粗砂:石英・白色粒・黒色粒		外面:貝殻条痕.内面:ヘラ削り.	
19	3層	IIb類	深鉢口縁部	外面:橙褐色7.5YR6/6.内面:にぶい橙褐色7.5YR6/4.肉:黒色N2/0.	粗砂:石英・黒色粒・白色粒.		外面:?.内面:繊維質の工具による擦痕.	
20	SK12-2・3層	IIb類	深鉢口縁部	外面:にぶい黄色2.5Y6/4.内面:にぶい黄色2.5Y6/3.	礫:白色粒.粗砂:石英・白色粒・黒色粒		外面:貝殻条痕.内面:ヘラナデーナデ?.	
21	2層	IIc類	深鉢口縁部	外面:にぶい黄褐色10YR6/4.内面:にぶい黄褐色10YR6/4.肉:黄灰色2.5Y4/1.	礫:石英・白色粒.粗砂:石英;多・黒色粒;多	5	外面:貝殻条痕.内面:ヘラナデーナデ?.	
22	3層	IIc類	深鉢口縁部	外面:にぶい黄色2.5Y6/4.内面:にぶい黄褐色10YR7/4.肉:黒色10YR2/1.	礫:白色粒.粗砂:石英;多・黒色粒;多	5	外面:貝殻条痕.内面:ヘラナデーナデ?.	煤の付着
23	2・3層	IIb類	深鉢口縁部	外面:にぶい黄褐色10YR7/4.黒褐色10YR3/2.内面:にぶい黄褐色10YR5/4暗褐色10YR3/3.肉:にぶい黄褐色10YR7/4.	礫:白色粒.粗砂:石英;多・黒色粒;多	6	外面:貝殻条痕.内面:繊維質の工具による擦痕.	やや摩耗気味.煤の付着
24	攪乱・2・3層	IIb類	深鉢口縁部	外面:浅黄褐色7.5YR8/6にぶい橙褐色7.5YR7/4.内面:にぶい黄褐色10YR7/4.肉:黒色7.5YR2/1.	粗砂:石英・赤色粒・黒色粒	2	外面:貝殻条痕.内面:ヘラ削り→ナデ.	内面に炭化物らしき付着物

Tab.8 土器観察表(2)

No.	層	種別	器種	色調	混和材	混和材の多さ	調整	備考
25	3層	Ⅲ類	深鉢口縁部	外面:黒褐色2.5Y3/1.内面:黄灰色2.5Y4/1.肉:黒褐色2.5Y3/1.	礫:白色粒.粗砂:石英		外面:?.内面:ヘラナデ?	
26	2層	Ⅲ類	深鉢口縁部	外面:橙色7.5YR7/6.内面:黄褐色2.5Y5/3.肉:黄灰色2.5Y4/1.	礫:白色粒;多.粗砂:石英	5	外面:貝殻条痕.内面:ヘラ削り.	煤の付着
27	2・3層	Ⅲ類	深鉢口縁部	外面:橙色7.5YR7/6.内面:橙色7.5YR7/6にぶい黄橙色10YR6/4.肉:黒色10YR2/1.	礫:白色粒;多.粗砂:石英;多	5	外面:貝殻条痕.内面:ヘラ削り.	外面に破裂痕.煤の付着
28	2層	Ⅲ類	深鉢口縁部	外面:にぶい黄橙色10YR7/4.内面:7.5YR6/6.肉:にぶい橙色7.5YR6/4.肉:黒色10Y2/1.	粗砂:石英・白色粒・赤色粒	5	外面:貝殻条痕.内面:ヘラナデーナデ.	
29	3層	Ⅲ類	深鉢口縁部	外面:黒褐色2.5Y3/1.内面:橙色7.5YR7/6.内面:明黄橙色10YR7/6.肉:黒色10YR2/1.	粗砂:石英・白色粒・赤色粒	5	外面:貝殻条痕.内面:ヘラナデーナデ?	裏面はやや摩耗
30	3層	胴Ⅰ類	深鉢胴部	外面:にぶい橙色7.5YR6/4.内面:明褐色7.5YR5/6.	粗砂:石英・黒色粒.細砂:黒色粒;多.	3	外面:繊維質の工具による擦痕.内面:繊維質の工具による擦痕.	
31	3層	胴Ⅰ類	深鉢胴部	外面:明赤褐色5YR4/6.内面:灰黄褐色10YR4/2.肉:黒色10YR2/1.	細砂:石英・黒色粒;多.	3	外面:繊維質の工具による擦痕.内面:繊維質の工具による擦痕.	
32	3層	胴Ⅱ類	深鉢胴部	外面:橙色5YR6/6.内面:にぶい黄橙色10YR6/4.	礫:白色粒.粗砂:石英.		外面:貝殻条痕.内面:ヘラナデーナデ.	
33	3層	胴Ⅱ類	深鉢胴部	外面:橙色5YR6/6.内面:にぶい黄色2.5YR6/3.	礫:白色粒;多.粗砂:石英;多・黒色粒.	5	外面:貝殻条痕.内面:ヘラナデーナデ.	
34	3層	胴Ⅱ類	深鉢胴部	外面:橙色7.5YR6/6.内面:にぶい褐色7.5YR5/3.	礫:白色粒.粗砂:石英.細砂:黒色粒.	3	外面:貝殻条痕.内面:ヘラ削りーナデ.	
35	3層	胴Ⅱ類	深鉢胴部	外面:にぶい黄橙色10YR6/4.内面:にぶい黄橙色10YR6/4.	礫:白色粒・石英.粗砂:石英・黒色粒.細砂:黒色粒.	3	外面:貝殻条痕.内面:繊維質の工具による擦痕.	内面に接合痕が認められる
36	3層	胴Ⅱ類	深鉢胴部	外面:橙色5YR6/6.内面:にぶい黄橙色10YR6/3.黒褐色2.5YR3/1.	礫:白色粒・石英;多.粗砂:石英;多.	7	外面:貝殻条痕.内面:ヘラナデーナデ.	摩耗
37	3層	胴Ⅱ類	深鉢胴部	外面:黒褐色10YR3/1.内面:にぶい黄橙色10YR6/4.黄灰色2.5YR4/1.	礫:白色粒・石英;多.粗砂:石英;多.	4	外面:貝殻条痕.内面:ヘラナデーナデ.	
38	3層	胴Ⅱ類	深鉢胴部	外面:褐灰色7.5YR4/1.内面:明褐色7.5YR5/6.内面:黒色10YR2/1.	礫:白色粒.粗砂:石英.	2	外面:貝殻条痕.内面:ナデ.	擦切り穿孔あり
39	攪乱層	胴Ⅱ類	深鉢胴部	外面:橙色7.5YR6/6.内面:橙色7.5YR6/8.	礫:黒色粒・白色粒・石英.粗砂:石英・黒色粒.細砂:黒色粒.	5	外面:貝殻条痕.内面:ヘラナデーナデ.	
40	3層	胴Ⅱ類	深鉢胴部	外面:橙色7.5YR6/6.内面:橙色7.5YR6/8.	細砂:白色粒;多・石英・黒色粒;多.	5	外面:貝殻条痕.内面:ヘラナデ.	
41	2層	胴Ⅲ類	深鉢胴部	外面:橙色7.5YR6/6.内面:にぶい黄橙色10YR6/4.	礫:白色粒;多.粗砂:石英・白色粒・黒色粒.細砂:黒色粒.	3	外面:貝殻条痕.内面:ヘラ削り.	
42	3層	胴Ⅲ類	深鉢胴部	外面:橙色10YR6/4.内面:暗灰黄色2.5YR5/2.	礫:白色粒;多.粗砂:石英・白色粒・黒色粒.細砂:黒色粒.	2	外面:貝殻条痕.内面:ヘラナデ.	
43	3層	胴Ⅲ類	深鉢胴部	外面:橙色10YR6/4.内面:オリーブ黒5YR3/1.	礫:白色粒;多・黒色粒.粗砂:石英・白色粒・黒色粒.細砂:黒色粒.	4	外面:貝殻条痕.内面:ヘラナデ.	
44	2層, KD1-2層	胴Ⅲ類	深鉢胴部	外面:橙色7.5YR6/6.内面:にぶい黄橙色10YR6/4.	礫:白色粒;多.粗砂:石英・白色粒・黒色粒.細砂:黒色粒.	3	外面:貝殻条痕.内面:ヘラナデ.	
45	2層	胴Ⅲ類	深鉢胴部	外面:褐灰色7.5YR6/4.内面:にぶい黄橙色10YR6/4.肉:オリーブ黒5YR3/1.	礫:白色粒・黒色粒.粗砂:白色粒・黒色粒.細砂:黒色粒.	3	外面:貝殻条痕.内面:ヘラナデ.	
46	3層	胴Ⅲ類	深鉢胴部	外面:浅黄色2.5YR7/3.内面:にぶい黄橙色10YR6/4.内面:にぶい黄橙色10YR6/4.肉:黒褐色2.5Y3/1.	礫:黒色粒・白色粒・赤色粒.粗砂:白色粒・黒色粒;多.細砂:黒色粒;多.	5	外面:貝殻条痕.内面:ヘラ削り.	
47	攪乱層	胴Ⅲ類	深鉢胴部	外面:にぶい黄橙色10YR6/4.内面:オリーブ黒5YR3/1.	礫:白色粒;多.粗砂:石英・白色粒;多・黒色粒.細砂:黒色粒.	4	外面:貝殻条痕.内面:ナデ.	
48	3層	胴Ⅲ類	深鉢胴部	外面:にぶい黄橙色10YR6/4.内面:にぶい黄橙色10YR6/3.	礫:白色粒;多.粗砂:石英・白色粒・黒色粒.細砂:黒色粒.	5	外面:貝殻条痕.内面:ヘラナデーナデ.	

Tab.9 土器観察表 (3)

No.	層	種別	器種	色調	混和材	混和材の多さ	調整	備考
50	3層	胴IV類	深鉢 胴部	外面:橙色7.5YR6/6.内面:橙色7.5YR6/6.	礫:白色粒.粗砂:石英・白色粒・黒色粒.細砂:黒色粒.	3	外面:貝殻条痕.内面:ヘラ削り.	
51	2層	胴IV類	深鉢 胴部	外面:褐灰色7.5YR4/1明褐色7.5YR5/6.内面:黒色10YR2/1.肉:黒色黒色10YR2/16.	礫:白色粒.粗砂:石英・白色粒・黒色粒.細砂:黒色粒.		外面:貝殻条痕.内面:ナデ.	
52	SK12	胴IV類	深鉢 胴部	外面:橙色7.5YR7/6.内面:にぶい黄橙10YR7/4.肉:黒褐色10YR3/1.	礫:白色粒.粗砂:石英・白色粒・黒色粒.細砂:黒色粒.	4	外面:貝殻条痕.内面:ヘラ削り→ナデ.	
53	3層	胴IV類	深鉢 胴部	外面:橙色5YR6/6.内面:にぶい黄橙10YR7/4.肉:黒色2.5YR2/1.	粗砂:石英・白色粒・黒色粒.細砂:黒色粒.	2	外面:貝殻条痕.内面:ヘラナデ.	
54	2層	胴IV類	深鉢 胴部	外面:明黄褐色10YR6/6.内面:明黄褐色2.5YR7/6.	礫:白色粒・赤色粒・黒色粒.粗砂:石英・白色粒・黒色粒.細砂:黒色粒.	3	外面:貝殻条痕.内面:ヘラ削り→ナデ.	
55	3層	胴IV類	深鉢 胴部	外面:橙色7.5YR6/6.内面:にぶい黄橙10YR6/4.肉:黒色2.5YR2/6.	粗砂:石英・白色粒・黒色粒.細砂:黒色粒.		外面:貝殻条痕.内面:ヘラ削り.	
56	2層	胴IV類	深鉢 胴部	外面:橙色7.5YR6/6灰黄褐色10YR5/2.内面:にぶい黄色2.5YR6/4黄灰色2.5YR4/1.	粗砂:白色粒.細砂:黒色粒.		外面:貝殻条痕.内面:ヘラ削り.	
57	3層	胴IV類	深鉢 胴部	外面:にぶい黄色2.5YR6/4.内面:にぶい黄橙10YR6/4.	礫:白色粒.粗砂:石英・白色粒・黒色粒.細砂:黒色粒.	3	外面:貝殻条痕.内面:ヘラ削り.	
58	3層	胴IV類	深鉢 胴部	外面:にぶい黄褐色10YR6/3.内面:にぶい黄褐色10YR5/3.	粗砂:石英・白色粒・黒色粒.細砂:黒色粒.	1	外面:貝殻条痕.内面:ヘラナデーナデ.	
59	3層	底I類	深鉢 底部	外面:にぶい黄色2.5YR6/3.肉:黒色2.5YR2/14.	礫:白色粒・黒色粒.粗砂:石英・白色粒・黒色粒.細砂:黒色粒.	4	外面:ナデ.内面:ナデ?.	
60	2層	底I類	深鉢 底部	外面:にぶい黄色2.5Y6/4.肉:黒色2.5YR2/16.	粗砂:石英・白色粒・黒色粒.細砂:黒色粒.	3	外面:ナデ.内面:貝殻条痕.	
61	2層	底I類	深鉢 底部	外面:橙色7.5YR6/6.内面:にぶい黄褐色2.5Y5/3.	礫:白色粒;多.粗砂:石英・白色粒・黒色粒.細砂:黒色粒;多.	9	外面:ヘラナデーナデ?.内面:ナデ.	
62	2層	底I類	深鉢 底部	外面:にぶい橙色7.5YR6/4.内面:暗黄褐色2.5Y7/4.肉:黒色2.5YR2/13.	礫:白色粒.粗砂:石英・白色粒・黒色粒.細砂:黒色粒.	3	外面:貝殻条痕及びナデ.内面:ヘラナデーナデ.	
63	3層	底I類	深鉢 底部	外面:橙色7.5YR6/6.内面:にぶい黄褐色10YR5/3.	礫:白色粒.粗砂:石英・白色粒・黒色粒.細砂:黒色粒.	3	外面:貝殻条痕.内面:ヘラナデーナデ.	
64	3層	底II類	深鉢 底部	外面:にぶい黄褐色10YR6/4.内面:にぶい黄褐色10YR6/4.肉:黒色2.5YR2/9.	礫:白色粒.粗砂:白色粒・黒色粒.細砂:黒色粒.	3	外面:貝殻条痕.内面:ヘラナデ?.	
65	3層	底II類	深鉢 底部	外面:にぶい黄褐色10YR6/4.内面:黒褐色10YR3/1.	粗砂:石英.細砂:黒色粒.		外面:貝殻条痕.内面:ナデ.	
66	2層	底III類	深鉢 底部	外面:にぶい黄橙10YR6/4内面:黒褐色2.5YR3/1.	粗砂:白色粒・黒色粒.細砂:黒色粒.	3	外面:貝殻条痕.内面:ヘラナデーナデ.	
67	3層	底III類	深鉢 底部	外面:にぶい黄色2.5Y6/4.内面:黒色2.5YR2/17.	礫:白色粒;多.粗砂:石英・白色粒・黒色粒.細砂:黒色粒.	5	外面:貝殻条痕.内面:ヘラナデーナデ.	
68	2・3層,SK44	底III類	深鉢 底部	外面:にぶい橙色7.5YR6/4.内面:にぶい黄褐色10YR6/4オリーブ黒5Y3/1.	礫:白色粒.粗砂:石英・多・白色粒・黒色粒.細砂:黒色粒.	4	外面:貝殻条痕.内面:ヘラナデーナデ.	内面に炭化物らしき附着物
69	SD1	成川式	甕	外面:にぶい黄褐色10YR7/4.内面:にぶい黄褐色10YR7/4.肉:にぶい黄褐色10YR6/4	礫:石英.粗砂:石英.細砂:赤色粒・黒色粒	2	外面:ナデ.内面:ナデ.	

によるもの、と考えられる。

68は、底径約13cmを測る。立ち上がり部に縦位の貝殻条痕が施された後、横・斜位の貝殻条痕がやや上部に巡らされるようである。外底面は、ヘラナデ状の擦過が不規則に認められる。内面・内定面もまたヘラナデ状の擦過が認められる。内底面は、その後ナデられるようである。

2) 古墳時代 (Fig. 25)

図化可能な口縁部資料は1点のみである。他にも胴部資料があった。

69は、口唇部がやや丸みを帯びており、外反する甕である。その特徴からは、古墳時代でも前半期に位置づけられる。SD1出土。

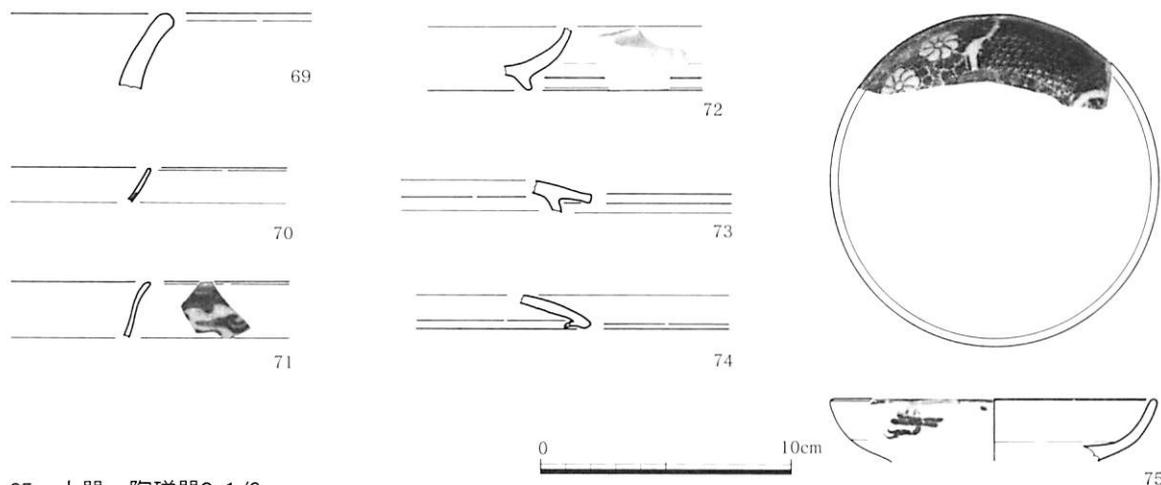


Fig.25 土器・陶磁器S=1/3

陶磁器 (Fig.25)

口縁部資料，底部資料のみ図化した。全てSD1出土遺物である。

70は，無文の磁器で，器厚約0.2cmで非常に薄手である。口唇部は丸みを帯び，直状口縁で，素地が接合部で剥がれる。猪口の可能性もある。

71は，染付けの端反碗である。外面文様は，口唇部直下に圈線が巡り，文様が描かれているが，文様構成などは不明確である。内面に文様はない。内外面ともに釉に細かく気泡状の汚れが目立つ。二次的な加熱を受けたものであろうか。清時代の可能性がある。

72は，染付け碗の底部で，高台接地部のみ釉が掻き取られ，外底面まで施釉される。腰部で弱い稜が認められ，折れるようである。腰折れ部直状に文様があるが，構成など不明確である。

73は，陶製の蓋である。外面から口唇部まで施釉される。薩摩焼の可能性はある。

74は，陶製の蓋で，口唇部は折り曲げられ，玉縁状をなす。外面のみ施釉されている。薩摩焼の可能性はある。

75は，口径約13cmを測る，底の浅い染付け皿である。口唇部は，約1.5cm幅で稜花状に浅く抉りが入っており，薄い鉄釉が施されている。プロポーションは緩やかにカーブしているが，腰部に不明瞭な稜がある。外面には文様が少なく，染付けで蜻蛉(?)が上向きに描かれているほか，高台に至る部分には圈線が一条巡る。内面は文様で埋め尽くされ，緑色の花文が二輪描かれている。また，空白部において，青色の簡略化した亀甲文がびっしりと描かれており，両者ともに型紙摺りである。内底面は，正確な文様構成が不明確である。破線を内面胴部文様との境界として，その内部を半割した同心円

状文で埋められるようである。時期は明治以降のものであると考えられる。

石器 (Fig.26, Tab.10)

76は縦長剥片で，顕著な刃こぼれをもち，若干の使用痕が観察される。素材剥片ではないと考えられる。石材は黒曜石である。産地は三船産である可能性が高い。

77はスクレイパーで，破断部と反対側に認められる主に腹面側からの打撃による二次加工によって，刃部が形成されている。

78は不定形剥片と思われる。若干の使用痕が認められる。

79は不定形剥片と思われる。図上端部は折断による可能性もある。

80は不定形剥片の先端部と思われる。両側辺に若干の使用痕がある。この剥片が折断されたのか折れた部分の使用かは不明確である。先端部の潰れは使用の結果ではない可能性がある。

81は磨製石斧の加工途中の調整剥片である可能性がある。研磨面は3面認められ，いずれも角を潰すように研磨される。

82は礫器の一部であり，大型ブロックを素材とし，二次加工によって刃部を形成している。刃部は使用後に生じたものと考えられる。

83は磨石か石皿の破片であると考えられる。破損が著しく，わずかに磨面が確認できる。一部，赤色になっているところから，火を受けた可能性がある。

7 まとめ

この調査の成果として，縄文時代早期の住居跡を検出したことが挙げられる。平面形態が隅丸方形を呈することや，壁面四方に沿ってピットが巡ること

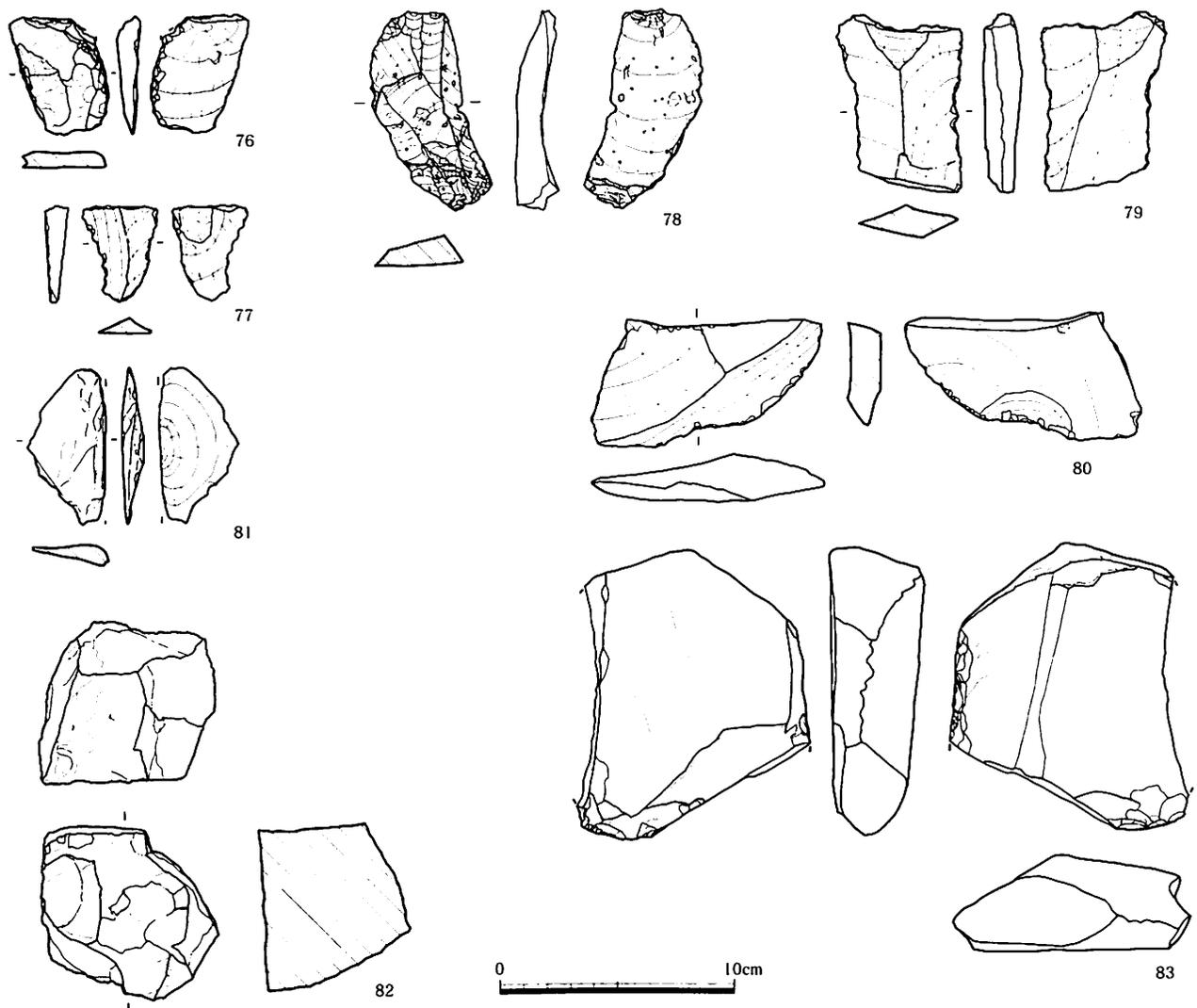


Fig. 26 石器S=1/3

Tab. 10 石器観察表

No.	出土地	種別	器種	材質	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
76	3層	石器	スクレイパー	頁岩	4.9	3.6	0.95	17.6	二次加工によって刃部を形成
77	3層	石器	剥片	安山岩	4	3.2	1	8	顕著な刃こぼれをもつ
78	SK44	石器	剥片	黒曜石	8.3	5.1	1.8	46	顕著な刃こぼれをもつ。竜ヶ水産?
79	3層	石器	剥片	安山岩	7.4	5.3	1.7	54.1	顕著な刃こぼれをもつ
80	3層	石器	剥片	安山岩	5.35	9.9	2	77.5	顕著な刃こぼれをもつ
81	SK44	石器	磨製石斧片?	頁岩	6.5	3.35	9.5	14.2	
82	2層	石器	石皿? 磨石?	安山岩	6.9	65	6.1	350	
83	2層	石器	礫器	安山岩	12	10	0.4	55	大型ブロックを素材とし、二次加工によって刃部を形成

などからは、鹿児島県加栗山遺跡で検出された住居跡³⁾と非常に類似している。今回の調査では住居跡の検出は1軒のみであったが、調査地点の東側や南側に住居跡が存在する可能性は高いと考えられる。また、この時期の住居跡とセットで検出されることが多い、集石遺構や連穴土城のセット⁶⁾は検出されなかった。しかし、本調査地点の南、約70mに位置

する難治性ウイルス疾患研究センター建設地で行われた調査では、集石遺構が検出されており、かなり広い範囲にわたって当該時期の遺構が存在していると考えられる。

出土した遺物は土器がもっとも多く、石器も少量出土している。層位的に、型式学的先後関係を裏付ける成果はなかった。また、遺構や平面的位置関係

も同様である (Fig. 16)。土器の集中地区は確認できるが、各類型が重なり合うように出土しており、有意な状況は認められない。土器が破片資料の多いこと、不定形土壙の周りに集中していることなどからは、自然地形の凹地に土器が堆積したものとみなした方がよさそうである。あるいは、今回の分類は、土器が小破片のため、文様要素によって行った。その分類方法に問題がある可能性も否めない。

第3層のいわゆるアカホヤからの遺物出土も少なくないことが注意される。本地点におけるアカホヤ層が2次堆積の可能性のあることも含めて、今後検討していきたい。

土器のほとんどは、「広義の」前平式土器の範疇であるが、施文方法にはかなりのバリエーションが認められる。これらの多様さが何に対応するものか明らかにする事はできなかった。今後の課題である。

「広義の」前平式土器 (研究者が最大公約数的にもっている前平式の型式概念) の編年は、これまで以下のように細分されている。河口貞徳が「前平B式⇔前平式」の1～2段階に⁷⁾、長野真一が「岩本タイプ→永野タイプ→加栗山タイプ」の3段階に⁸⁾、新東晃一が「岩本式→前平式→(前原遺跡段階)→知覧式」の3～4段階に⁹⁾、本田道輝が「前平式→南州神社タイプ→柁ノ原タイプ」の3段階に¹⁰⁾、高橋信武は、「岩本タイプ→前平B式(続岩本タイプ)→永野タイプ→加栗山タイプ」の4段階¹¹⁾である。

本遺跡の場合、高橋編年¹²⁾に照らし合わせると、本遺跡のⅠ類(岩本タイプ)→Ⅱa類・Ⅲ類(続岩本タイプ:前平B式)→Ⅱb類(永野タイプ)の三時期が認められ、前平B式→永野タイプへの二時期が中心である。本遺跡のⅡc類は、永野タイプ(本遺跡のⅡb類)の時期に存在するだろうとの高橋提言があり¹³⁾、本調査でも首肯される。

しかしながら、本遺跡出土の土器群があまり知られていない文様バリエーションをもつ資料を含んでいることは確かである。例えば、前平B式段階には、貝殻条線を上下に、さみだれ状に多条に施すもの (Fig. 18-13・14)。Ⅱc類のように数列の貝殻殻頂部の圧痕文を巡らせるもの (Fig. 19-21・22) などである。永野タイプの時期では、「押引状文」を下から上へと行い、縦位に二列巡らすもの (Fig. 19-15)、上下段の「押引状文」を互い違いに配列するもの (Fig. 19-20) などが認められ、この時期の多様な文様バリエーションを知る資料となった。また、角筒土器の外面コーナー部に、ヘラ描き・貝殻刺突文を施さない点なども旧知の角筒土器よりも簡素である。さらに、角筒土器は、地文となる貝殻条

痕を、横位に丁寧に施すものが比較的多いが、本遺跡の例ではやや煩雑な地文で調整され、地文であるのか貝殻条線のように文様を意識したようなものなのか不明確なところが多い。本遺跡の角筒土器が明瞭なコーナーを形成しないことと関連づけられるなら、これがより未発達的な胴部の条線として位置づけられる可能性がある。また、胴部地文上に描く条線は、直線文系の条線のみで、曲線文系の条線はなかったことなど、型式学的に古く位置づけられると考えられる要素も認められた。

地点は異なるが、本地区(桜ヶ丘団地I-10区)から南東方向に位置するE-8・9地区では、曲線文系条線が比較的多く、新しい要素をもっている土器群と出土している¹⁴⁾。

底部については、コーナー部の調整の手法から便宜的に分けたが、Ⅲ類の場合、後出の型式である「知覧式(≒加栗山タイプ≒柁ノ原タイプ≒加栗山式)」に最も盛行する手法であるが、前平式系の古段階から出現することは類例遺跡からも窺えるようである。後出に盛行する要素である以上、前平式系のなかでも新しい要素に属すると考えてよいだろう。しかしながら、接合資料が認められないため、どの文様バリエーションの土器のものであるかは確言できない。

以上、本遺跡の縄文土器の編年の位置づけは、縄文早期初頭～前葉の、前平式系の永野タイプ¹⁵⁾の古段階までに収まるものである、と結論づけられる。

ちなみに、内面調整については、1) 植物質の先端の柔らかい工具によるもの、2) ヘラ状の工具によってナデるもの。3) ヘラ状の工具によって削りあるいは強いナデによって凹面を形成するものなど(本報告では削りという表現を用いている)、大きくこの3種が認められるが、本遺跡においては、3)の場合、外面胴部に貝殻条線を用いている場合が多く、両者の関連性が窺われる。この場合、3)の手法によって器厚を薄くすることと外面を飾りつけることに何らかの関連があれば興味深い。また、円筒か角筒かあるいはその中間形態(口縁部が角形で胴部付近は円形)という形態差における調整の差異をあらわすのかもしれないが、全形が窺える資料が少ない以上、この点については確言できない。

石器は、縄文時代早期に属するものと考えられるが、組成には石鏃が含まれていなかった。調査範囲の狭さの反映かもしれない。

古墳時代の土器は、凶化すべきものは1点しかなく、詳細はよく分からない。外反する甕の口縁部であり、古墳時代でも前半段階に位置づけられよう。他にも胴部片らしきものが数点認められるが、数量

的に少ない。

陶磁器は、近代以降の遺物がほとんどであると考えられるが、1点のみ中国製ではないかと考えられるものもあった。

註

- 1) 坪根伸也 1988「第3章 鹿児島大学宇宿団地I-8区(医学部臨床研究棟増築地)における発掘調査報告」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報』Ⅲ 鹿児島大学埋蔵文化財調査室
- 2) 砂田光紀・松永幸男・中村直子 1990「第2章 鹿児島大学宇宿団地E-8・9区(MR-I-CT装置棟建設地)における発掘調査」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報』Ⅴ 鹿児島大学埋蔵文化財調査室
- 3) 戸崎勝洋ほか 1981『加栗山遺跡・神ノ木山遺跡』鹿児島県教育委員会
- 4) 新東晃一 1989「早期九州貝殻文系土器様式」『縄文土器大観』1 小林達夫編
新東晃一 1999「南九州縄文早期文化の成立の諸要因」『第6回企画展示 ドキドキ縄文さきがけ展図録』指宿市教育委員会
- 5) 長野真一 1984「第Ⅴ章 まとめ」『上祓川遺跡群』鹿屋市教育委員会
- 6) 前迫亮一 1994「南九州縄文時代早期前半の居住活動に関する一考察」『大河』第5号 大河同人
- 7) 河口貞徳 1955「鹿児島県における貝殻条痕文土器」『石器時代』1号 石器時代文化研究会
河口貞徳 1989「吉田式と前平式のその後について」『鹿児島考古』第23号 鹿児島県考古学会未報告
- 8) 註5)に同じ。
- 9) 註4)に同じ。
- 10) 本田道輝 1986「鹿児島県考古学の諸問題-縄文時代-」『鹿児島考古』第20号 鹿児島県考古学会
- 11) 高橋信武 1998「前平式土器について」『鹿児島考古』第32号 鹿児島県考古学会
- 12) 註11)に同じ。
- 13) 註11)に同じ。
- 14) 砂田光紀・松永幸男・中村直子 1990『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報』Ⅴ 鹿児島大学埋蔵文化財調査室
- 15) 註5)に同じ。

版 图

PL.1 桜ヶ丘団地I・J-10区（受水槽設置地点）における発掘調査



東壁北側

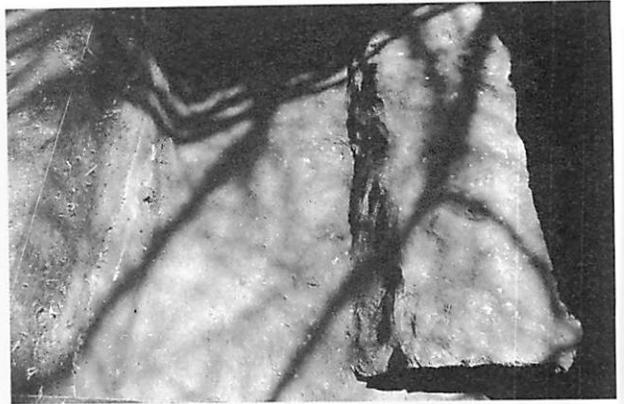
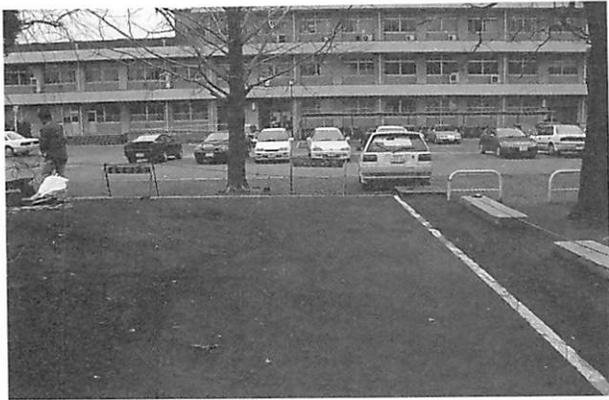


縄文時代早期住居跡
(SK44)



層位横転 (KD-2)

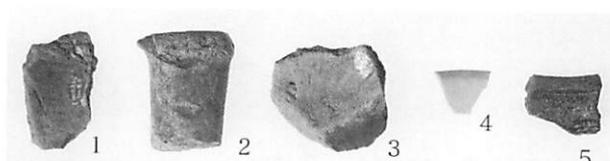
PL. 2 郡元団地J・K-4区（総合研究棟建設予定地）における試掘調査



- 一段目左 1 トレンチ周辺
- 一段目右 1 トレンチSDI
- 二段目左 1 トレンチ4層上面検出状況
- 二段目右 1 トレンチ西壁
- 三段目 2 トレンチ周辺
- 四段目右 2 トレンチ掘削状況
- 四段目左 2 トレンチ東壁

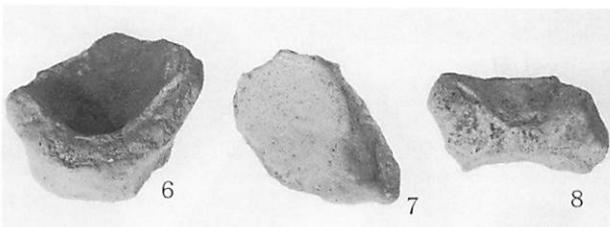
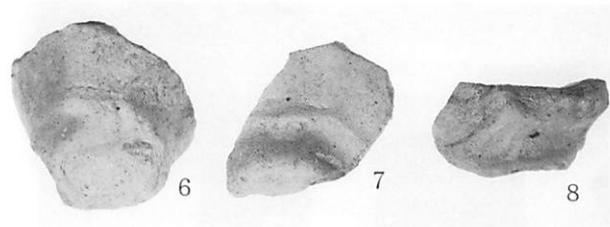
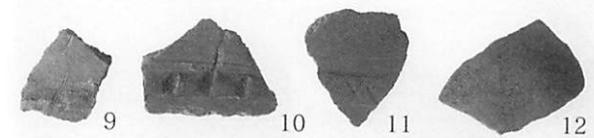


PL. 3 郡元団地J・K-4区（総合研究棟建設予定地）における試掘調査



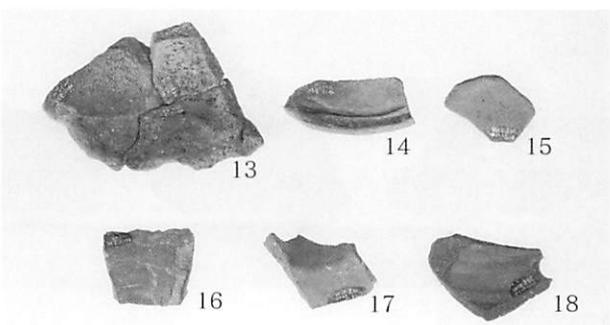
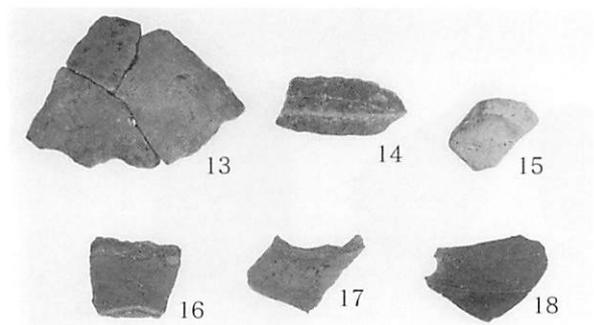
1～5・9～12外面

1～5・9～12内面



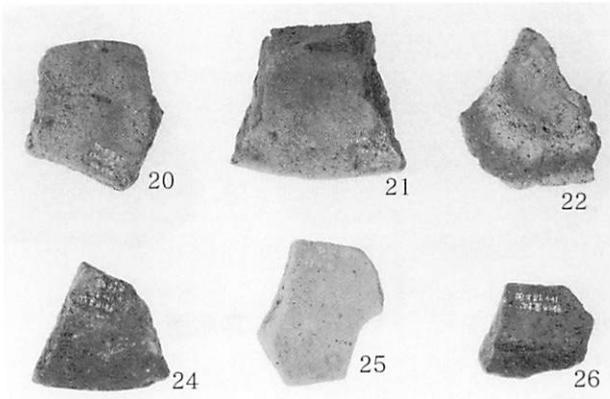
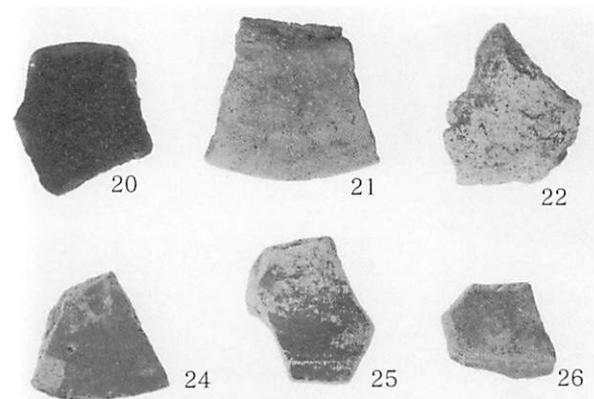
6～8外面

6～8内面



13～18外面

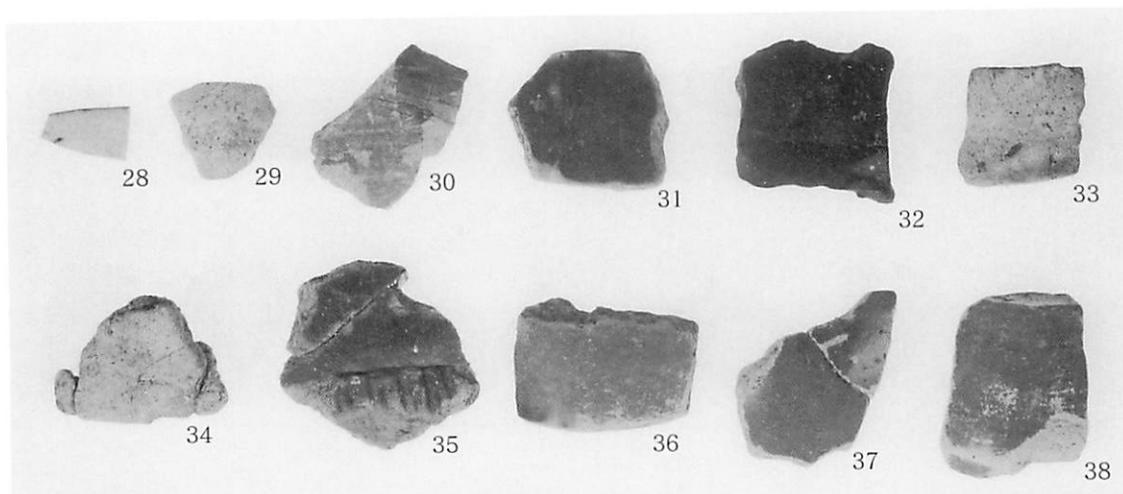
13～18内面



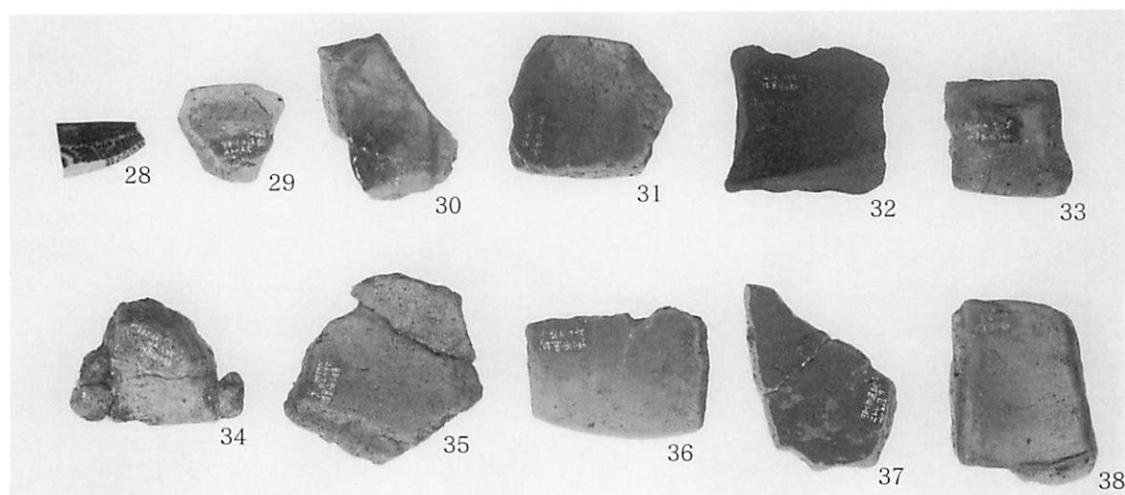
20～26外面

20～26内面

PL. 4 郡元団地J・K-4区（総合研究棟建設予定地）における試掘調査



28~38外面

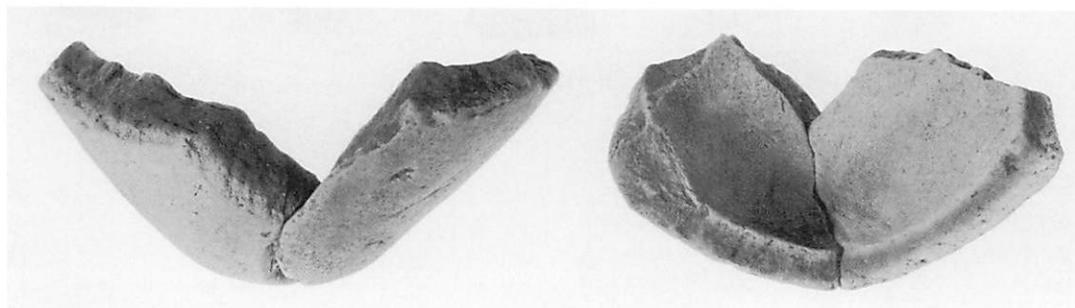


28~38内面



19正面

19側面



23外面

23内面

PL.5 桜ヶ丘団地I・J-10区（受水槽設置地点）における発掘調査



表土剥ぎ前

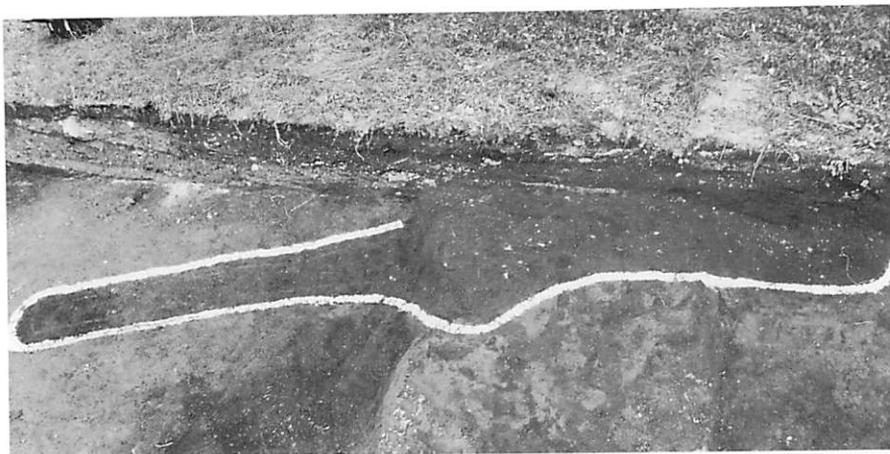


表土剥ぎ後2層上面検出（東から）



表土剥ぎ後2層上面検出

PL.6 桜ヶ丘団地I・J-10区（受水槽設置地点）における発掘調査



SK1検出状況



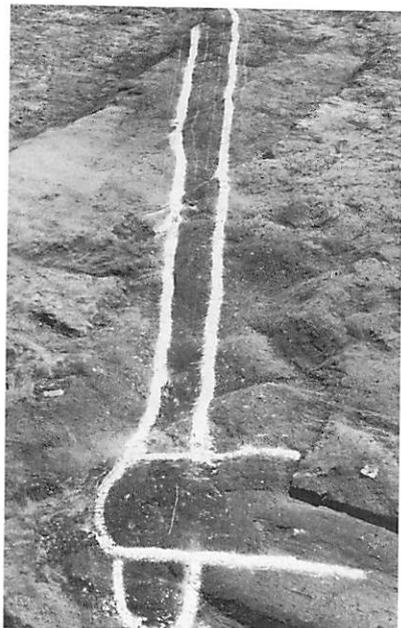
SK1完掘



上 SD1検出, 右 SD1完掘



PL.7 桜ヶ丘団地I・J-10区（受水槽設置地点）における発掘調査



SD2 左検出状況, 右完掘



SK2・3・4完掘



SK5~11完掘

PL.8 桜ヶ丘団地I・J-10区（受水槽設置地点）における発掘調査



←右 SK12完掘, 左 SK13完掘
↓右 SK14完掘 左 SK15完掘



SK17~30完掘



SK32・35完掘

PL.9 桜ヶ丘団地I・J-10区（受水槽設置地点）における発掘調査



SK33・34・36・37・38完掘



右・右下 SK44完掘
左下 SK44出土黒曜石製縦
長剥片



PL.10 桜ヶ丘団地I・J-10区（受水槽設置地点）における発掘調査



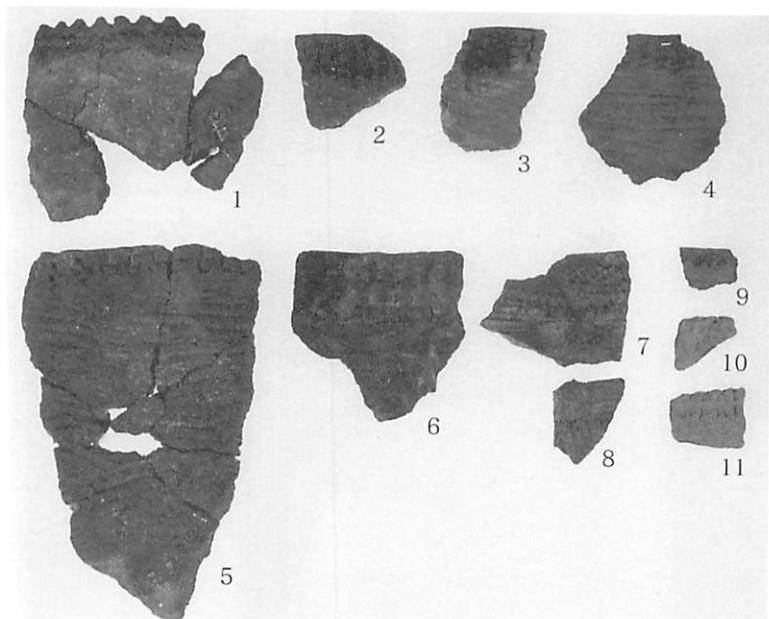
上段左 KD1（層位横転）
上段右 KD1断面

KD2平面

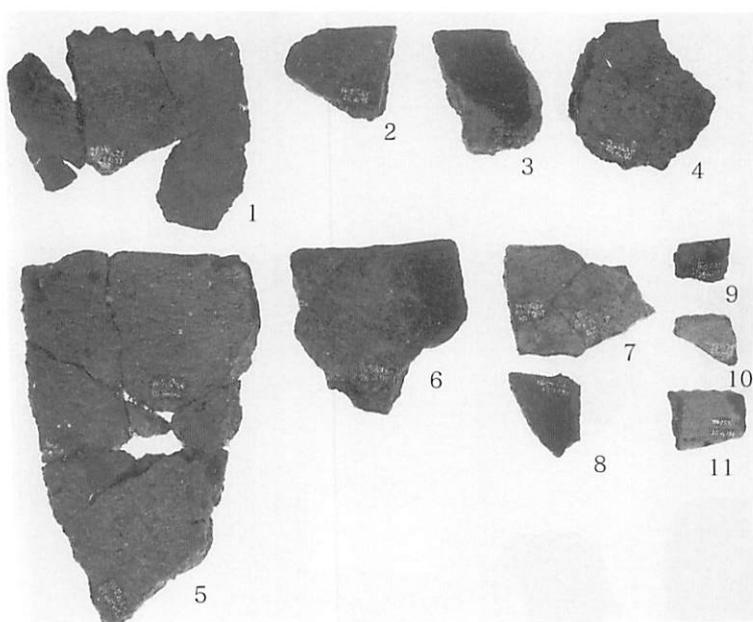


調査終了状況

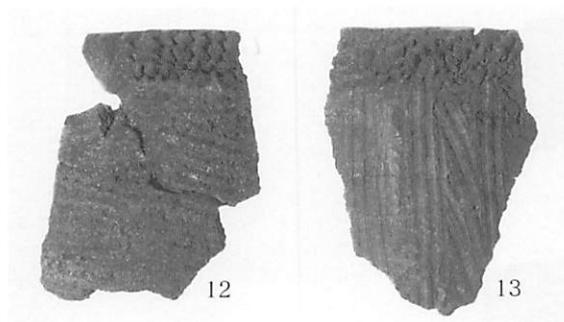
PL.11 桜ヶ丘団地I・J-10区（受水槽設置地点）における発掘調査



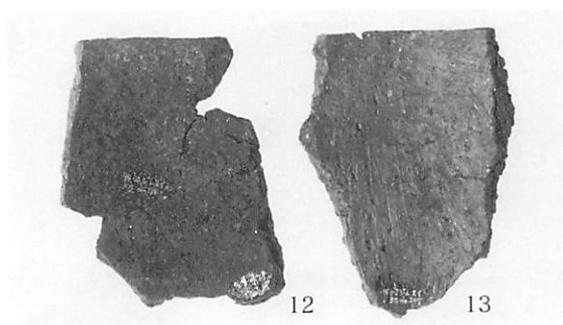
I・IIa類 (表)



I・IIa類 (裏)



IIa類 (表)



IIa類 (裏 IIa類 (表))

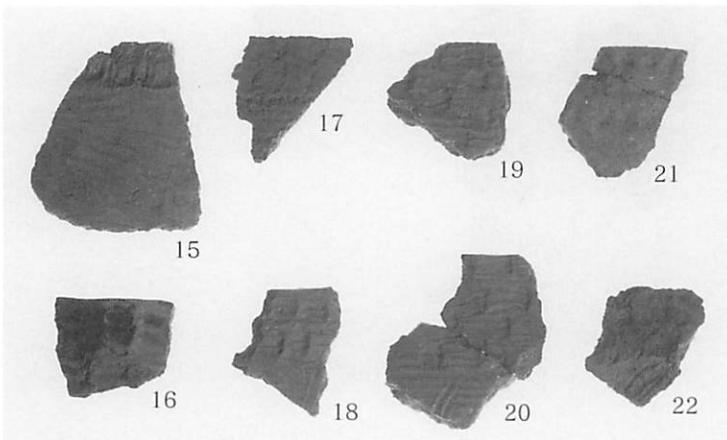
PL.12 桜ヶ丘団地I・J-10区（受水槽設置地点）における発掘調査



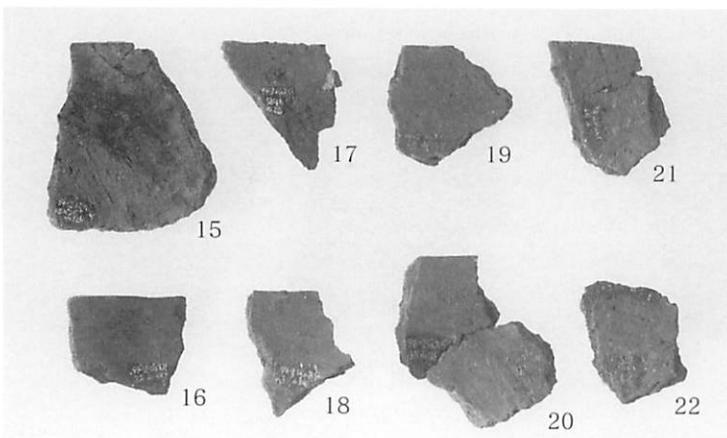
IIa類 (表)



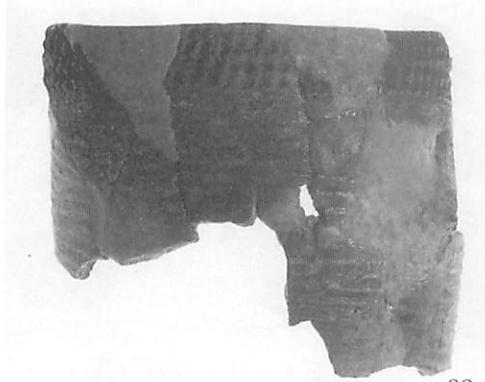
IIa類 (裏)



IIb・IIc類(表)



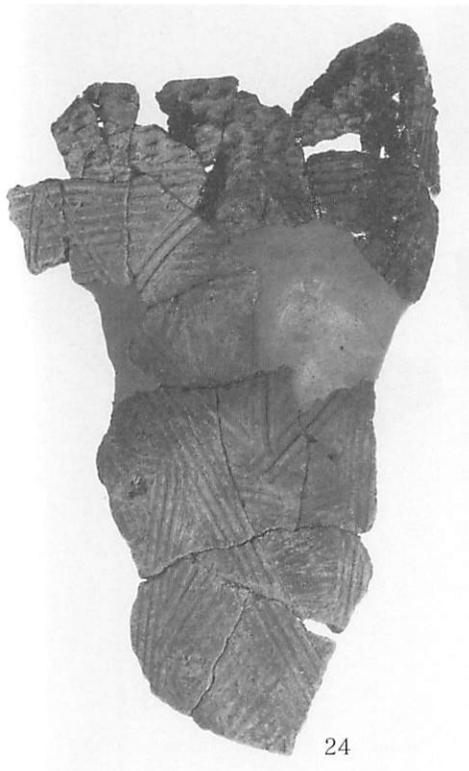
IIb・IIc類(裏)



II b類 (表)



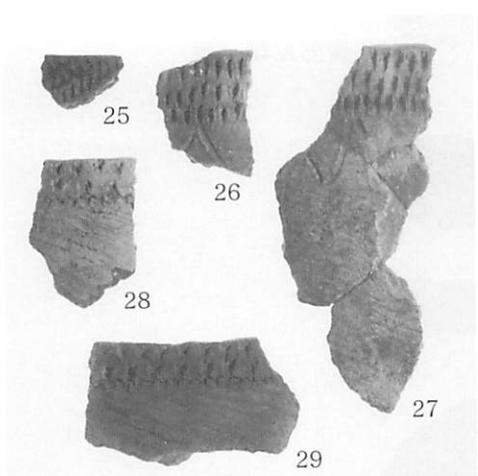
II b類 (裏)



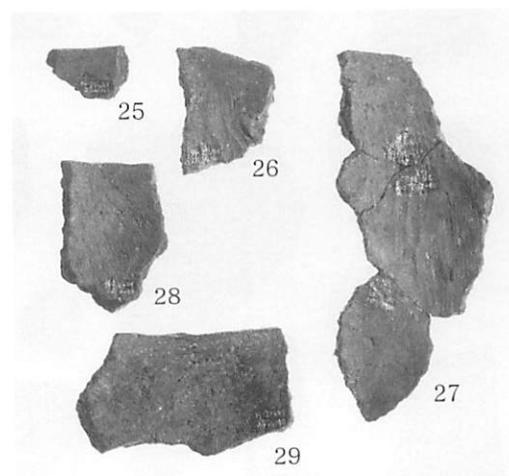
II b類 (表)



II b類 (裏)

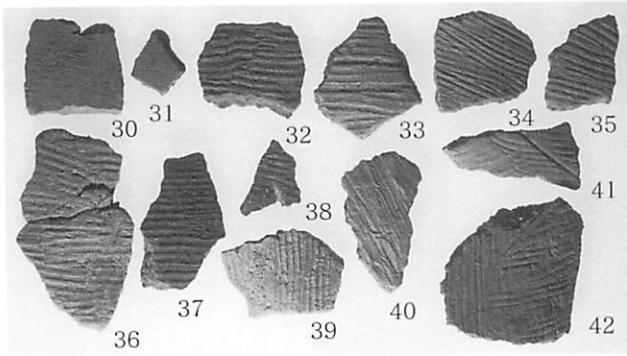


III類 (表)

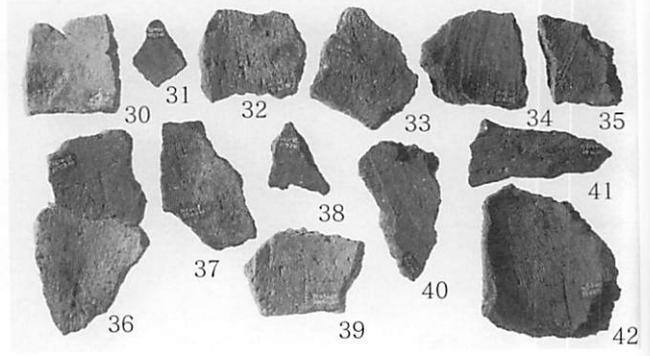


III類 (裏)

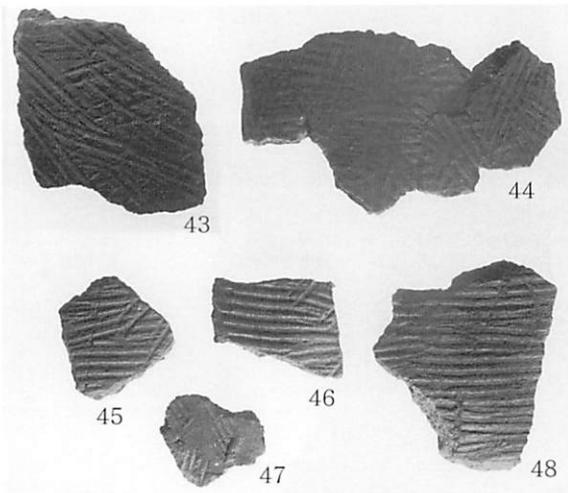
PL.14 桜ヶ丘団地I・J-10区（受水槽設置地点）における発掘調査



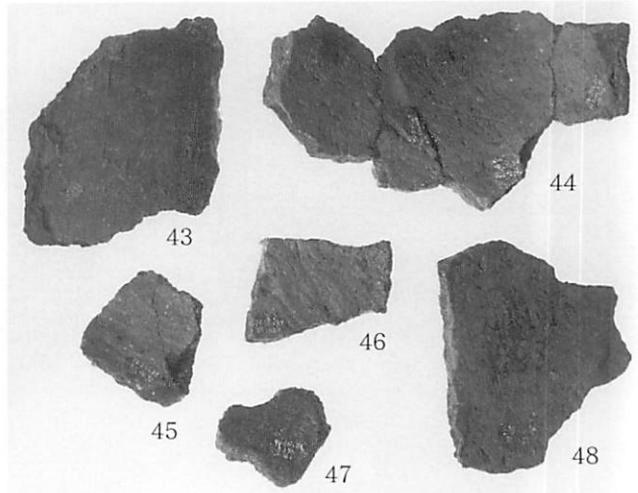
胴部I・II・III類（表）



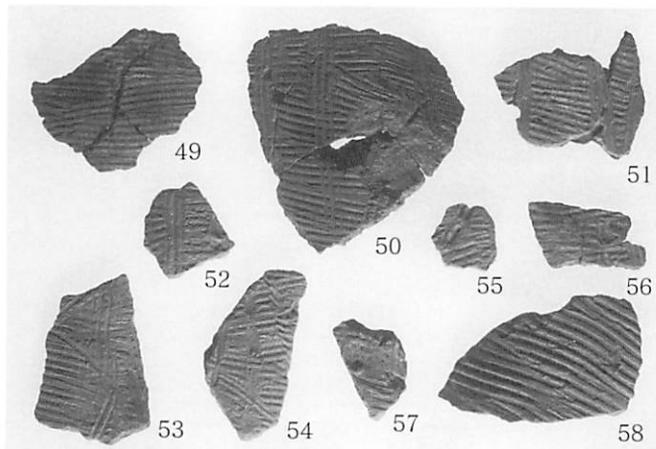
胴部I・II・III類（裏）



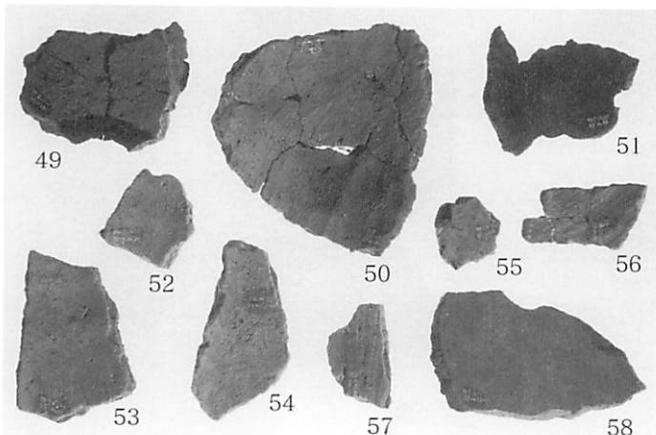
胴部III類（表）



胴部III類（裏）

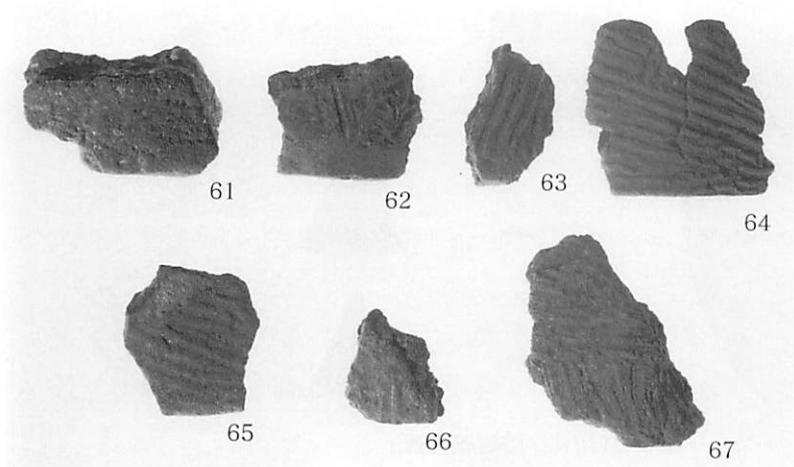


胴部IV類（表）

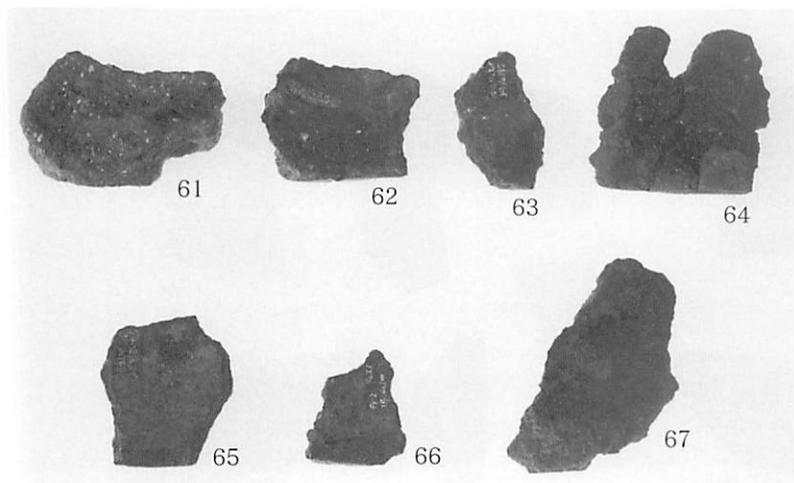


胴部IV類（裏）

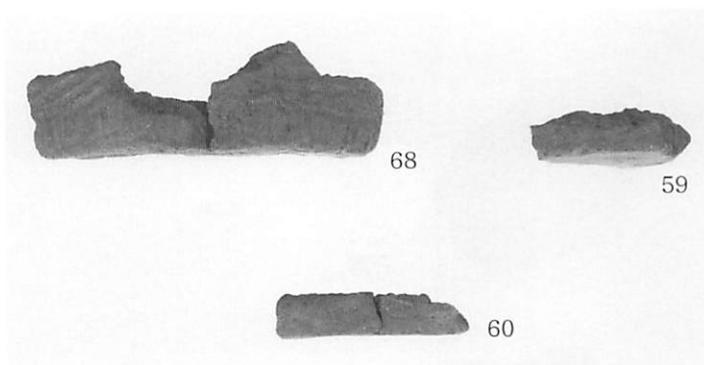
PL.15 桜ヶ丘団地I・J-10区（受水槽設置地点）における発掘調査



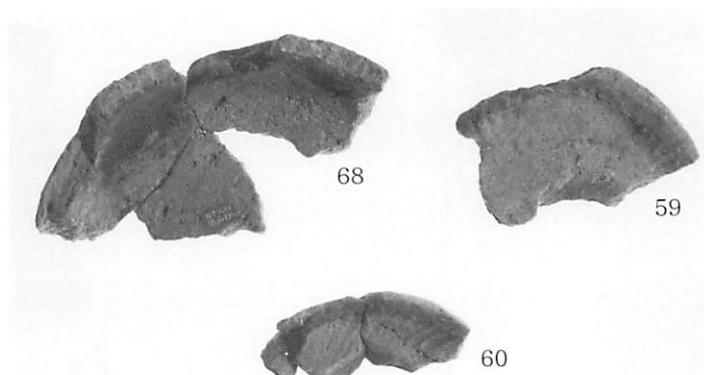
底部 I・II・III類（表）



底部 I・II・III類（裏）

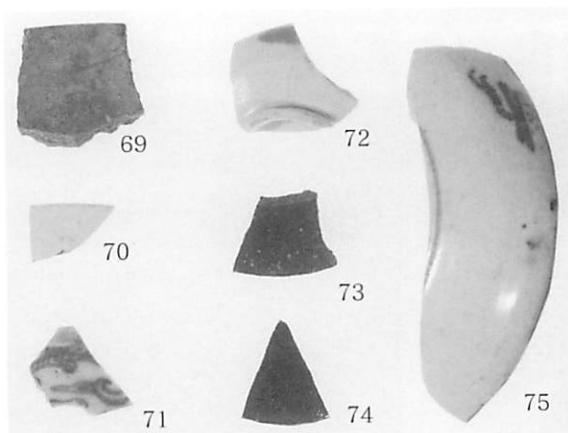


底部 I・III類（表）

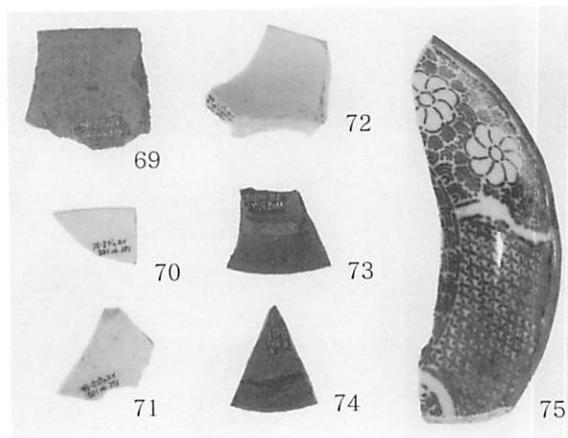


底部 I・III類（裏）

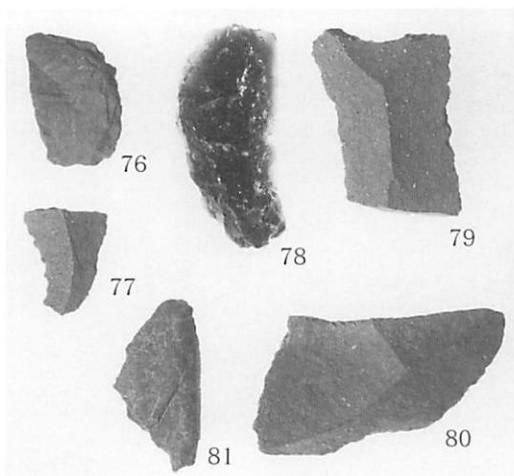
PL.16 桜ヶ丘団地I・J-10区（受水槽設置地点）における発掘調査



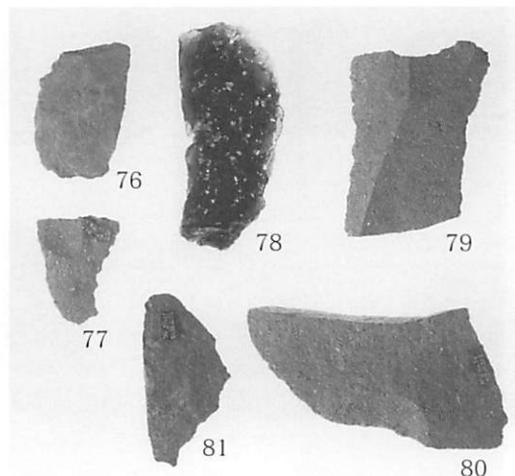
成川式・陶磁器（表）



成川式・陶磁器（裏）



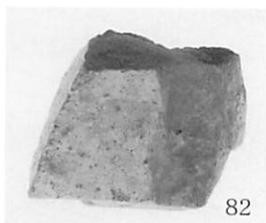
石器（表）



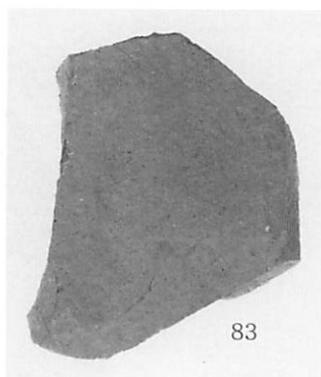
石器（裏）



82 石器



82 石器



石器（表）



石器（裏）

報告書抄録

ふりがな	かごしまだいがくまいぞうぶんかざいちょうさしつねんぼうじゅうよん							
書名	鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報 14							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	中村直子・大西智和（編）							
編集機関	鹿児島大学埋蔵文化財調査室							
所在地	〒 890-8580 鹿児島県鹿児島市郡元一丁目 21 番 24 号 TEL 099-285-7270							
発行年月日	西暦 2000 年 3 月							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査起因
		市町村	遺跡番号					
かごしまだいがくこうないいせき 鹿児島大学構内遺跡 こおりもとだんち 郡元団地 J・K-4 区	かごしましこおりもと 鹿児島市郡元 いっちょうめ 一丁目 21 番 30 号	4620		31 34 11	130 32 48	0310 ~ 0330	7	建物建設
かごしまだいがくこうないいせき 鹿児島大学構内遺跡 さくらがおかだんち 桜ヶ丘団地 I・J-10 区	かごしましさくらがおか 鹿児島市桜ヶ丘 はっちょうめ 八丁目 35 番 1 号	4620				1990516 ~ 1990615	370	受水槽設置
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
鹿児島大学構内遺跡 郡元団地 J・K-4 区		古墳 中近世	溝状遺構	古墳時代の土器 須恵器 石器 陶磁器				
鹿児島大学構内遺跡 桜ヶ丘団地 I・J-10 区		縄文 中近世	住居跡	土器 石器 陶磁器				

鹿兒島大学埋藏文化財調査室年報 14

2000年3月発行

編集・発行 鹿兒島大学埋藏文化財調査室
鹿兒島市郡元一丁目21番24号
TEL 099-285-7270

印刷 斯文堂株式会社
鹿兒島市南栄3番1号
TEL 099-268-8211

Kagoshima University Archaeological Research Center Report Vol.14

CONTENTS

Chapter

- | | | |
|---|---|----|
| 1 | Report of archaeological research In fiscal year 1998 | 1 |
| 2 | The test excavation at Area J·K-4 in Sakuragaoka Campus | 5 |
| 3 | Reports of rescue surveys | 11 |

Appendix

- | | | |
|--|---|----|
| | Report of excavation at Area I·J-10 in Sakuragaoka Campus | 21 |
|--|---|----|

Published by
Kagoshima University Archaeological Research Center
1999